

神戸市 不登校児童生徒支援のための アンケート調査

報 告 書

令和8年1月

神戸市教育委員会

＊ ＊ 目 次 ＊ ＊

I 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 配布及び回収状況	1
4. 調査結果の見方	2
II 調査結果〔児童生徒〕	3
1. 学校に「行きたくない」と思ったことについて.....	3
(1) 学年	3
(2) 前学年で学校を欠席した日数.....	3
(3) 今学年の通学状況	4
(4) 学校を休み始めるまでに、学校内でクラス以外に行ったことのある場所	5
(5) 学校を休み始めるまでに、できればよかったこと	6
(6) 学校に行きたくない、休みたい気持ちを話した人	7
2. 学校を休んでいるときの過ごし方について.....	8
(1) 学校を休んでいるときの過ごし方.....	8
(2) 学校を休んでいるときの勉強方法.....	10
(3) 学校を休んでいるときの学習用パソコンの使用状況	11
(4) 学校を休んでいるときにオンラインでできたらよかったと思うこと	12
(5) 学校を休んでいるときの気持ち.....	13
(6) 学校を休んでいるときにあったことや行った場所	15
(7) 学校を休んでいるときにあったことや行った場所の感想	16
(8) 学校を休んでいるときに話をした人.....	18
(9) 学校を休んでいるときに話せてよかった人、話せなくてよい人	19
(10) 学校を休んでいるときに行きたいと思う場所.....	21
(11) 学校を休んでいるときに行きたいと思う場所にいるといいと思う人	22
(12) 学校に行きたくないときに、安心して過ごしやすくするための支援	23
III 調査結果〔保護者〕	25
1. 子どもの状況	25
(1) 調査回答者	25
(2) 前年度に子どもが学校を欠席した日数.....	26
(3) 子どもが学校を休むようになったきっかけ.....	27
(4) 学校を休んでいるときの子どもの様子.....	28
(5) 子どもに関する心配ごと	30
2. 相談・支援機関の利用等について	31
(1) 学校を休んでいるときにあったことや行ったこととその評価	31

(2) 支援機関の利用状況とその評価	33
(3) 支援機関を利用したきっかけ	35
(4) 学校を休むようになってから支援機関を利用するまでの期間	36
(5) 支援機関にかかった費用	37
(6) 支援機関での出席認定	40
(7) 支援機関を利用し始めてからの子どもの変化	41
(8) 支援機関を利用し始めてからの家庭の変化	42
(9) 支援機関を知るための方法	43
(10) 支援機関を利用しなかった理由	44
(11) 利用したい支援機関	50
(12) 利用したい具体的な民間施設と費用	51
3. 必要な相談、支援について	52
(1) 参加させたいインターネットによる支援	52
(2) 今後、市に力を入れてほしい支援	53
(3) 学校に通いづらい児童生徒への支援についての意見（自由記述）	54
 IV 調査結果〔フリースクール等民間施設〕	58
1. 団体・施設について	58
(1) 団体・施設の形態	58
(2) 提供しているサービス	58
(3) 開所曜日	59
(4) 平日の開所時間	59
(5) 週当たりの開所日数	60
(6) 受け入れている児童生徒等の学年・年齢	60
(7) 令和6年度に在籍していた児童生徒数	61
(8) 児童生徒がフリースクール等を利用することに対する課題	62
(9) 団体・施設を利用した児童生徒の成果があった特徴的な事例（自由記述） ...	63
(10) 卒業した児童生徒の進路	66
(11) 団体・施設のスタッフ数	68
(12) スタッフの専門資格の保有状況	69
(13) 団体・施設の活動内容	70
2. 学習カリキュラム等について	71
(1) 団体・施設の学習カリキュラム	71
(2) 1日の学習時間	71
(3) 使用している学習教材	72
(4) 費用	73
(5) 入会金・初期費用、会費以外の納付金	74
3. 学校や家庭との連携について	75
(1) 学校との連携・協力関係を保つために行っていること（自由記述）	75
(2) 学校との連携上の課題	77

（３）学校以外の関係機関との連携状況.....	78
（４）家庭との連携・協力関係を保つために行っていること（自由記述）	79
（５）家庭との連携・協力関係を保つ上での課題.....	81
（６）学校に通いづらい児童生徒への支援の取組についての意見（自由記述）	82
資料編（調査票）	84

I 調査の概要

1. 調査の目的

学校への行きづらさを感じている児童生徒への支援施策の充実について検討するにあたり、フリースクール等に通う児童生徒を含めた児童生徒の実態を把握することを目的に、調査を実施しました。

2. 調査設計

本調査においては、対象者別に次の3種類のアンケート調査を実施しました。

調査の種類	調査の対象	調査期間	実施方法
児童生徒 (小学4年生～ 中学3年生)	・令和6年度に神戸市立小中学校に在籍していた児童生徒のうち、令和6年4月～令和7年3月までの欠席日数が30日以上（病気や経済的な理由を除く）の児童生徒 ・令和7年度に神戸市立小中学校に在籍している児童生徒のうち、令和7年4～5月の欠席日数が30日以上（病気や経済的な理由を除く）の児童生徒	令和7年 7月11日～ 8月29日	学校より配布、紙ベースでの回答またはWEB回答
保護者 (小学1年生～ 中学3年生)	・上記児童生徒の保護者 ※小学1年生～3年生は保護者のみが対象		
フリースクール等民間施設	・神戸市で出席認定の実績のあるフリースクール等の民間施設		郵送により配布、紙ベースでの回答またはWEB回答

3. 配布及び回収状況

	配付数	有効回答数	有効回答率
児童生徒	3,619件	全体 303件	8.4%
		うち、紙 180件	5.0%
		うち、WEB 123件	3.4%
保護者	4,179件	全体 386件	9.2%
		うち、紙 207件	5.0%
		うち、WEB 179件	4.2%
フリースクール等 民間施設	62件	全体 34件	54.8%
		うち、紙 11件	17.7%
		うち、WEB 23件	37.1%

4. 調査結果の見方

- 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示し、小数点第2位を四捨五入しました。（比率の合計が100.0％にならない場合があります。）
- 図表上の「MA％」という表記は複数回答（Multiple Answer の略）の意味です。
- コンピュータ入力の都合上、図表において、回答選択肢の見出しを簡略化している場合があります。
- 選択肢「その他」については比較の対象から除外しています。
- 回答者数（n）が30人未満の場合、母数が少ないことから一概に適正な比率とは言えないため注意が必要です。

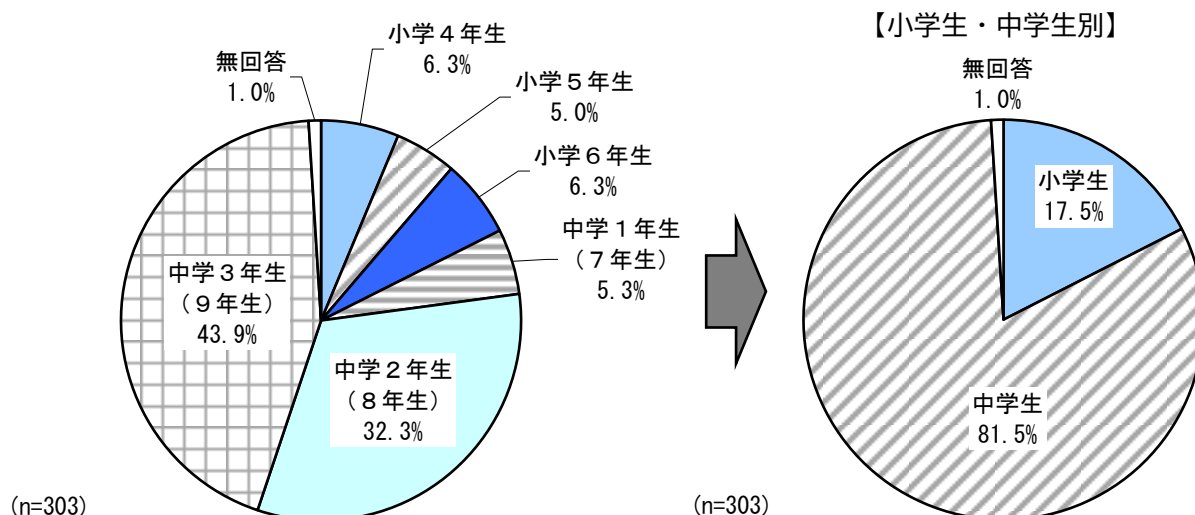
Ⅱ 調査結果〔児童生徒〕

1. 学校に「行きたくない」と思ったことについて

(1) 学年

問1 現在何年生ですか。(○は1つだけ)

児童生徒の学年は、「中学3年生(9年生)」が43.9%で最も多く、次いで「中学2年生(8年生)」が32.3%、「小学4年生」と「小学6年生」がそれぞれ6.3%となっており、そのうち小学生が17.5%、中学生が81.5%となっています。

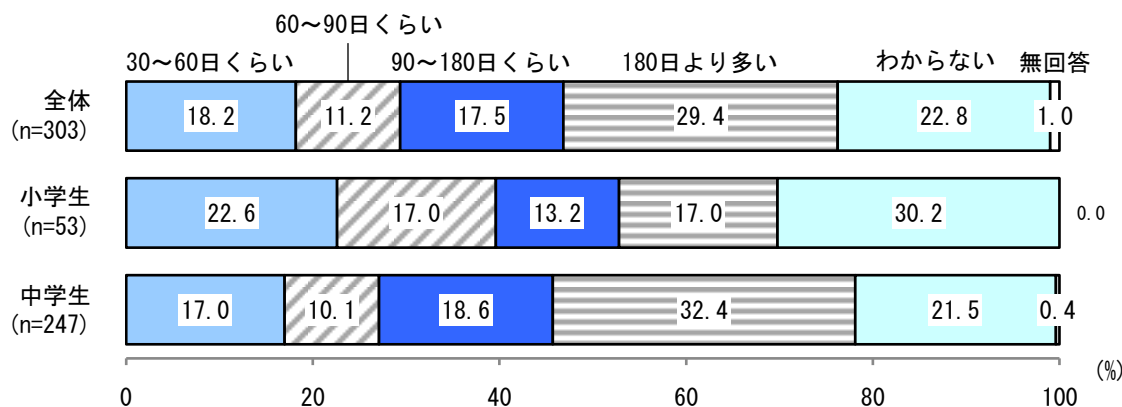


(2) 前学年で学校を欠席した日数

問2 前の学年のときは、どのくらい学校を休みましたか。(○は1つだけ)

前学年で学校を欠席した日数は、全体は、「180日より多い」が29.4%で最も多く、次いで「30～60日くらい」が18.2%、「90～180日くらい」が17.5%となっています。

校種別にみると、小学生では「30～60日くらい」、中学生では「180日より多い」が最も多くなっています。



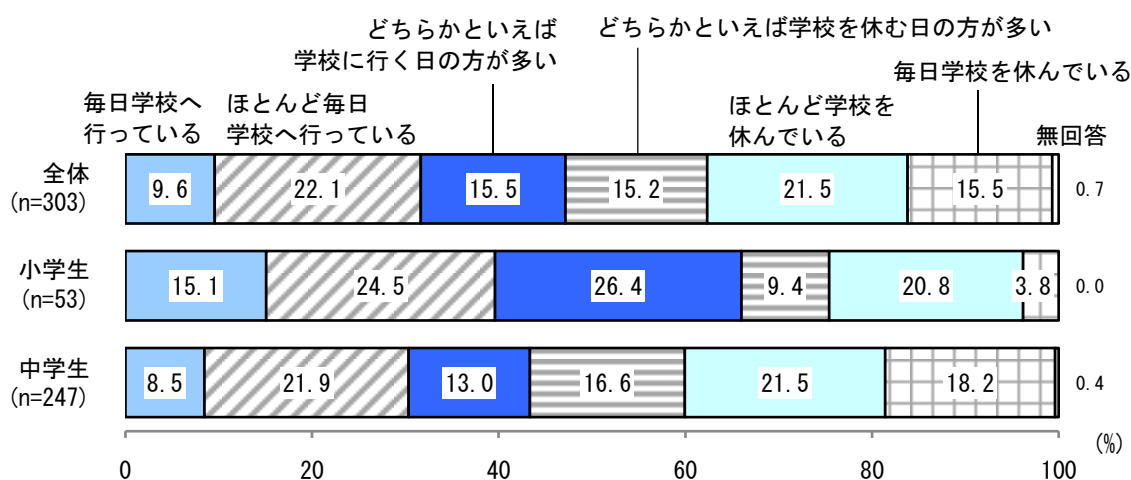
(3) 今年年の通学状況

問3 今の学年になってから、どのくらい学校に行っていましたか。(○は1つだけ)

今年年の通学状況については、全体は、「ほとんど毎日学校へ行っている」が22.1%で最も多く、次いで「ほとんど学校を休んでいる」が21.5%、「どちらかといえば学校に行く日の方が多い」と「毎日学校を休んでいる」がそれぞれ15.5%となっています。

校種別にみると、小学生では、「どちらかといえば学校に行く日の方が多い」、中学生では「ほとんど毎日学校へ行っている」が最も多くなっています。

『休んでいる日が多い』（「どちらかといえば学校を休み日の方が多い」＋「ほとんど学校を休んでいる」＋「毎日学校を休んでいる」）をみると、小学生では3割程度となっているのに対し、中学生では6割近くを占めています。

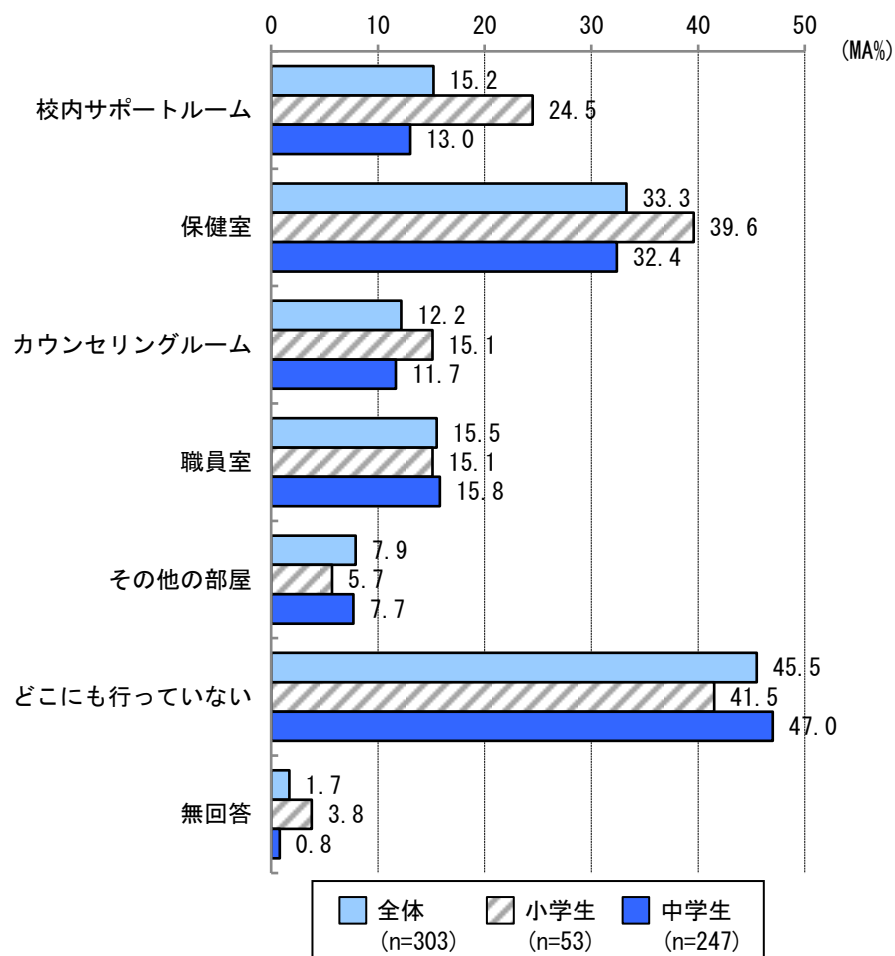


(4) 学校を休み始めるまでに、学校内でクラス以外に行ったことのある場所

問4 学校を休み始めるまでに、学校内でクラス以外に行ったことのある場所はどこですか。
(〇はいくつでも)

学校を休み始めるまでに、学校内でクラス以外に行ったことのある場所については、全体は、「どこにも行っていない」が45.5%で最も多く、次いで「保健室」が33.3%、「職員室」が15.5%、「校内サポートルーム」が15.2%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、「どこにも行っていない」が最も多く、次いで「保健室」となっています。また、小学生では「校内サポートルーム」が24.5%と、中学生に比べて10ポイント以上高くなっています。

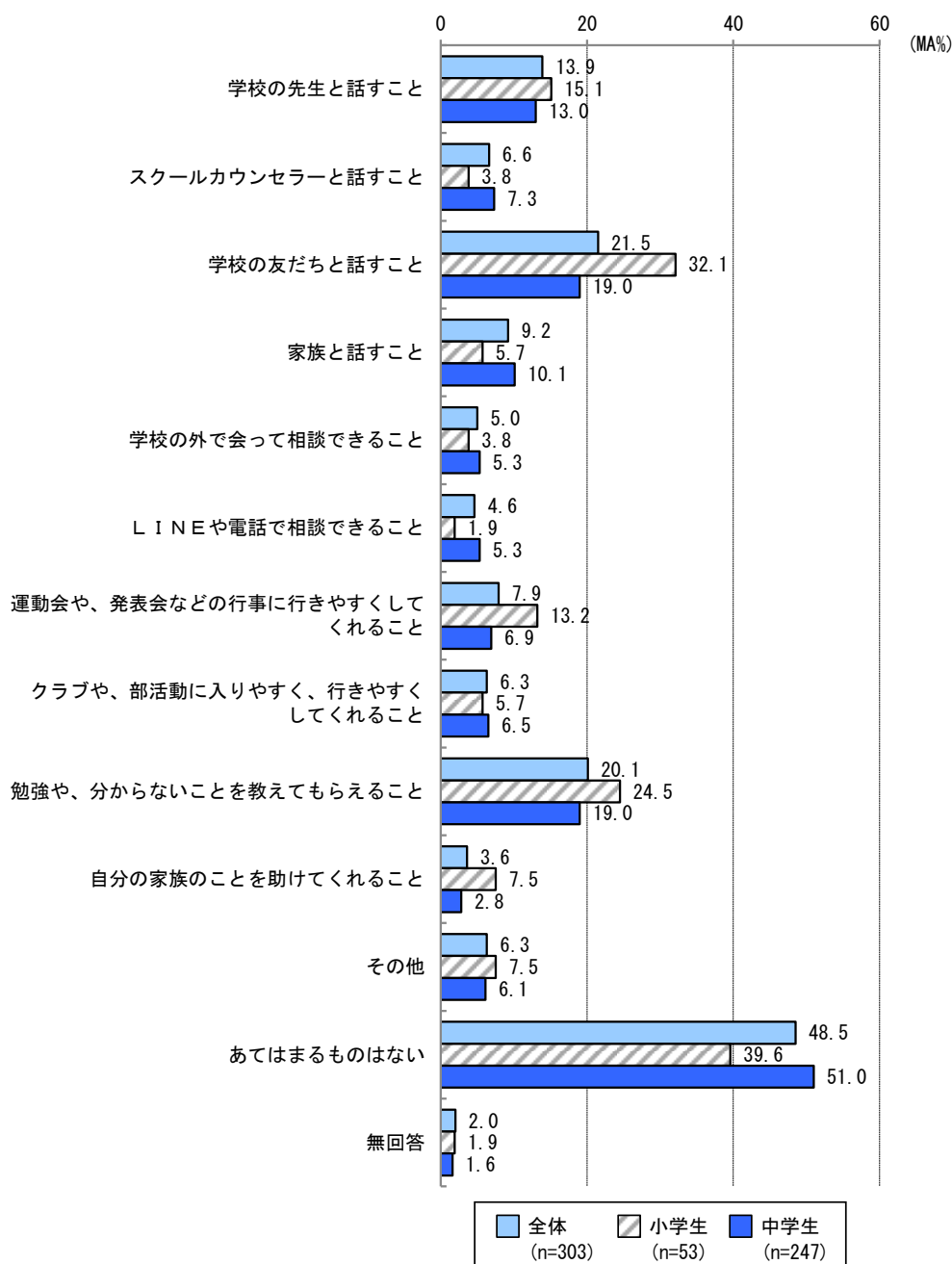


(5) 学校を休み始めるまでに、できればよかったこと

問5 学校を休み始めるまでに、どんなことができれば（あれば）よかったと思いますか。
（〇はいくつでも）

学校を休み始めるまでに、できればよかったことについては、全体は、「あてはまるものはない」が48.5%で最も多く、次いで「学校の友だちと話すこと」が21.5%、「勉強や、分からないことを教えてもらえること」が20.1%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、「あてはまるものはない」が最も多くなっています。また、小学生では「学校の友だちと話すこと」が32.1%と、中学生に比べて10ポイント以上高くなっています。



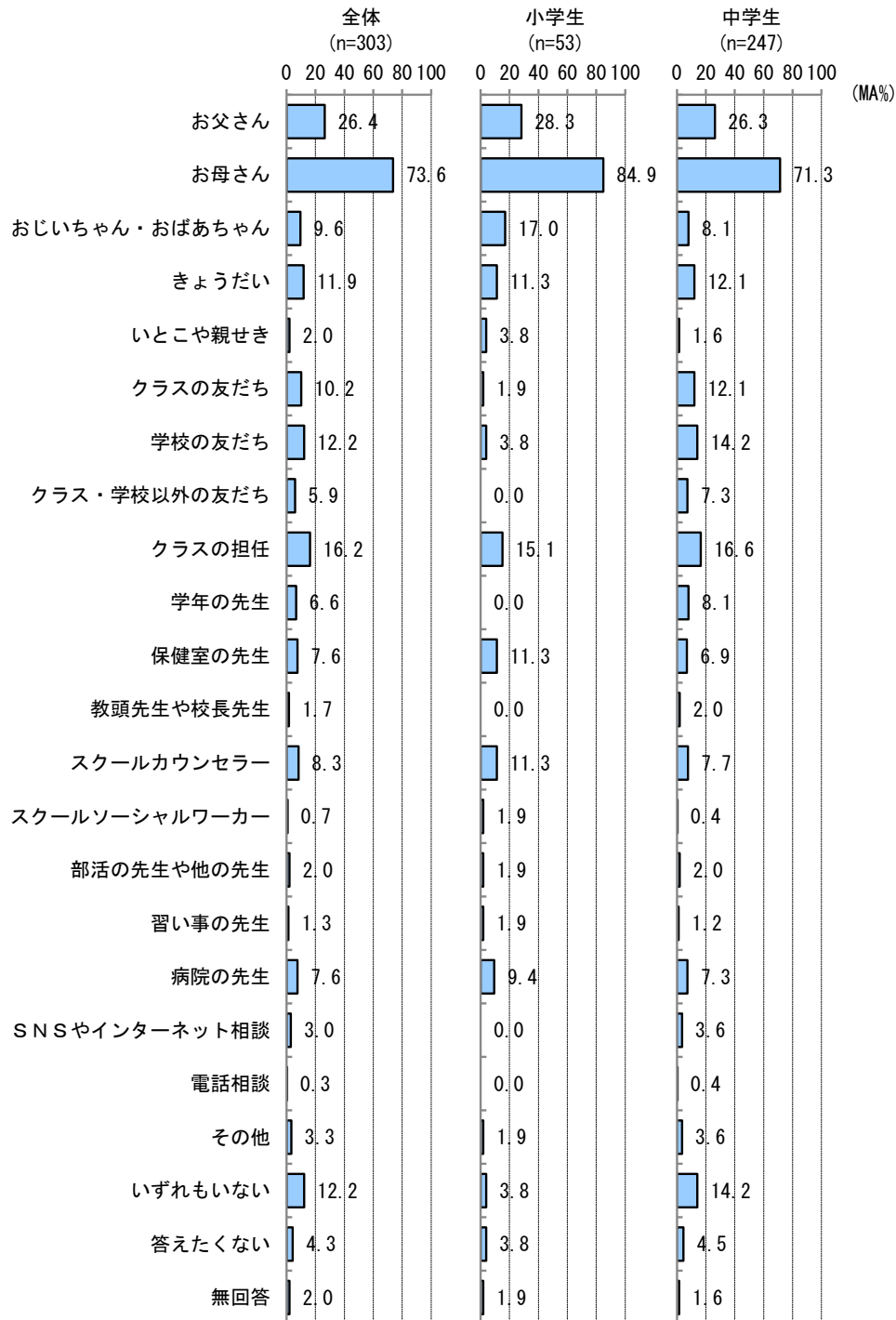
(6) 学校に行きたくない、休みたい気持ちを話した人

問6 学校に行きたくない、休みたい気持ちを話した人はだれですか。(〇はいくつでも)

学校に行きたくない、休みたい気持ちを話した人については、全体は、「お母さん」が73.6%で最も多く、次いで「お父さん」が26.4%、「クラスの担任」が16.2%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、「お母さん」、「お父さん」が多くなっています。

また、中学生では「クラスの友だち」や「学校の友だち」、「クラス・学校以外の友だち」などが小学生に比べて高くなっています。



2. 学校を休んでいるときの過ごし方について

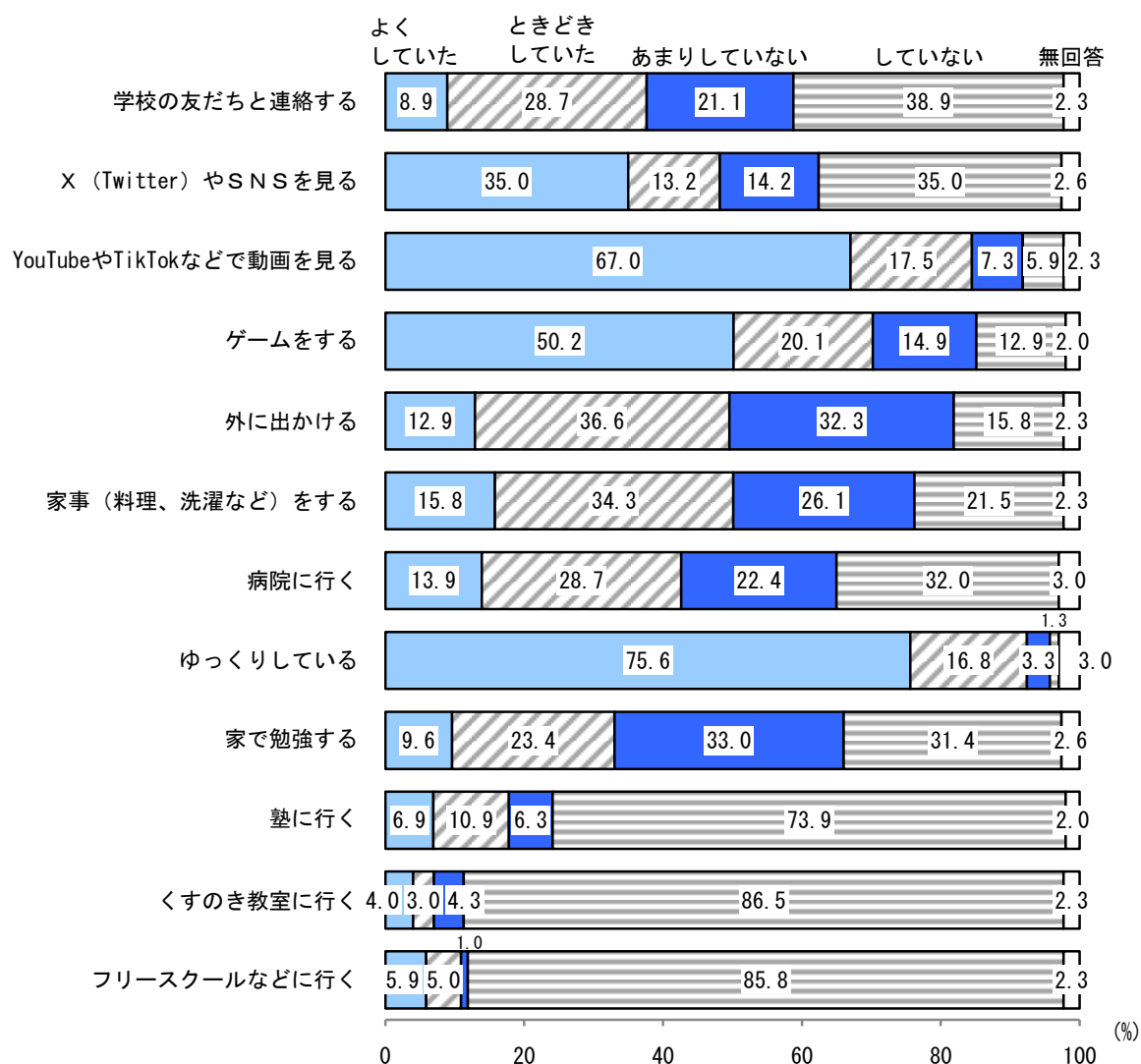
(1) 学校を休んでいるときの過ごし方

問7 学校を休んでいるとき、どんな風に過ごしていましたか。1～4のうち一番近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。(○は1つずつ)

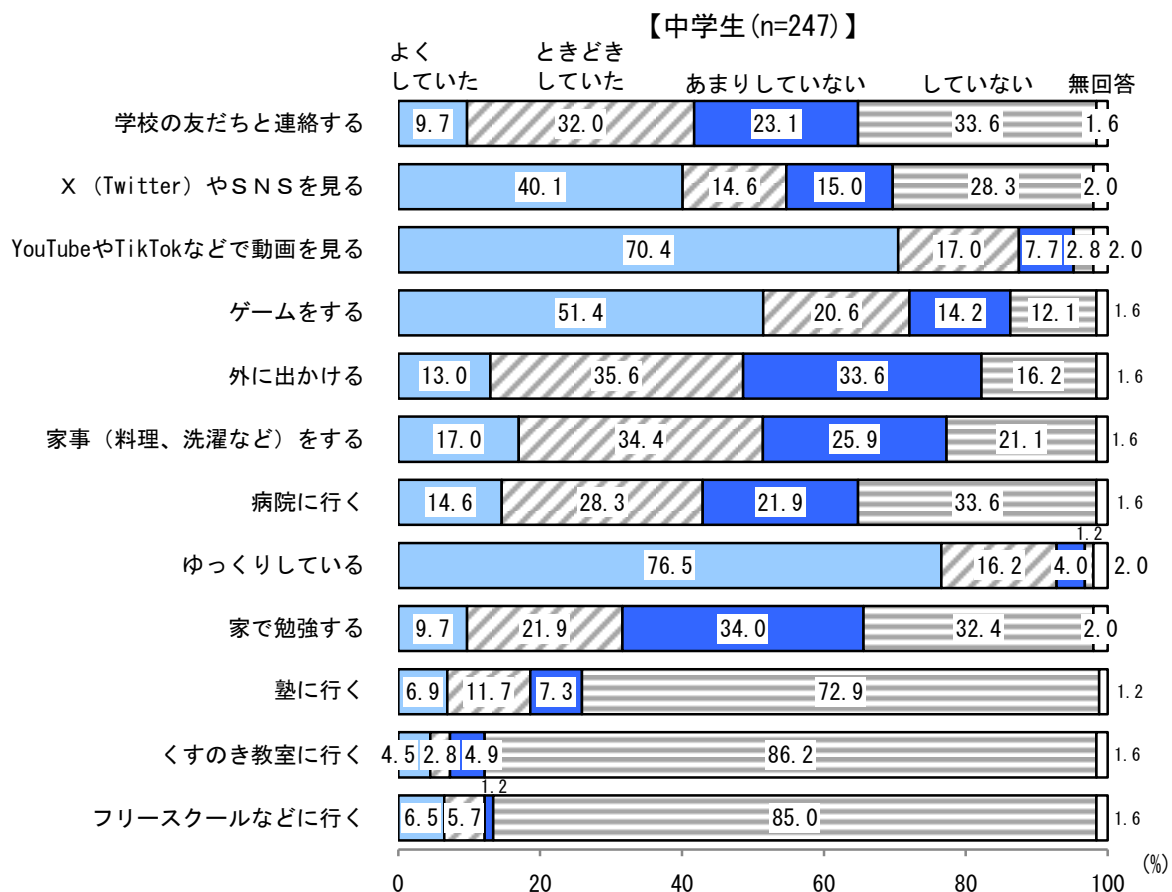
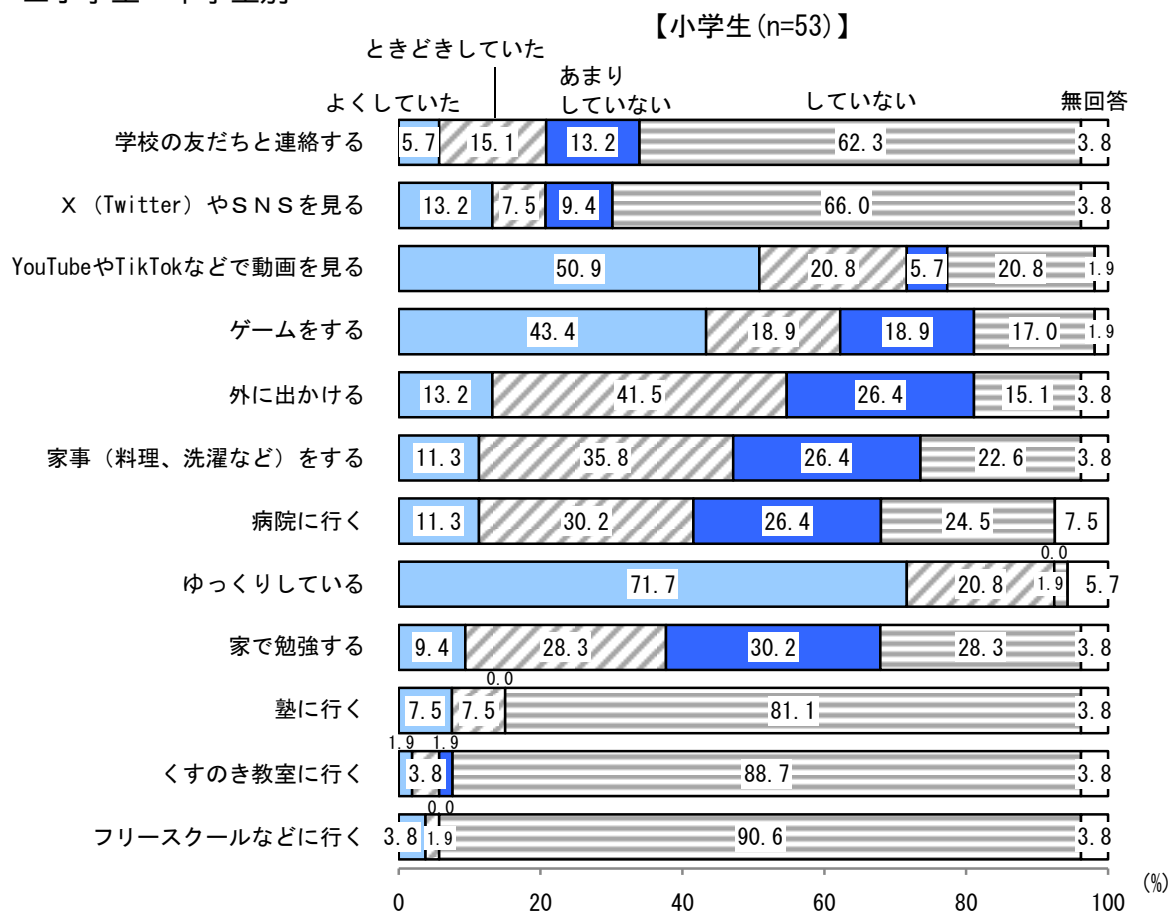
学校を休んでいるときの過ごし方については、全体は、「よくしていた」の割合は“ゆっくりしている”が75.6%で最も高く、次いで“YouTubeやTikTokなどで動画を見る”が67.0%、“ゲームをする”が50.2%となっています。「ときどきしていた」をあわせた『していた』割合も“ゆっくりしている”が92.4%で最も高く、次いで“YouTubeやTikTokなどで動画を見る”が84.5%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、『していた』割合は“ゆっくりしている”が最も高く、次いで“YouTubeやTikTokなどで動画を見る”となっています。また、中学生では“X (Twitter) やSNSを見る”が小学生に比べて高くなっています。

【全体 (n=303)】



■小学生・中学生別

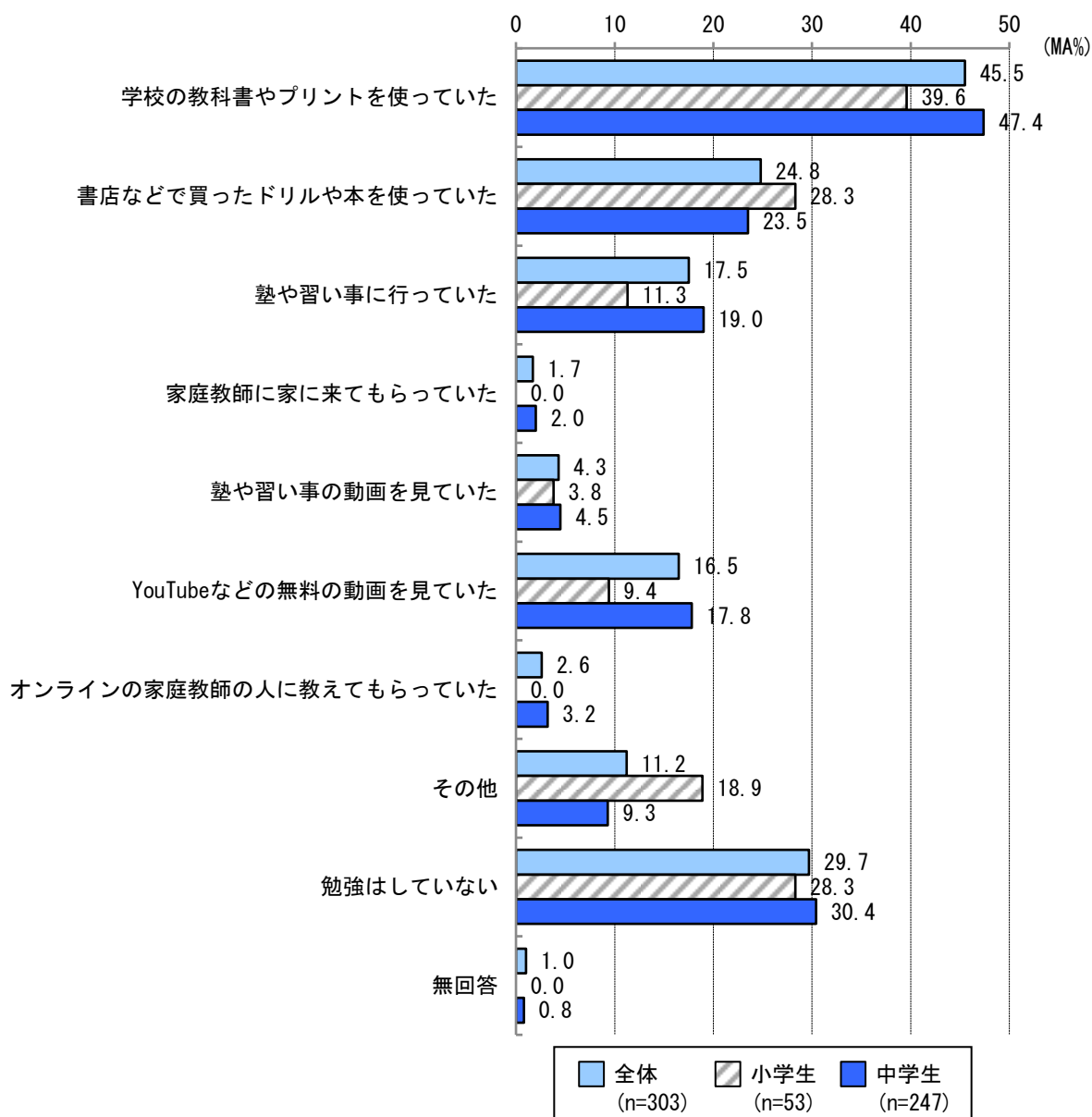


(2) 学校を休んでいるときの勉強方法

問8 学校を休んでいるとき、どんな方法で勉強をしていましたか。(〇はいくつでも)

学校を休んでいるときの勉強方法については、全体は、「学校の教科書やプリントを使っていた」が45.5%で最も多く、次いで「勉強はしていない」が29.7%、「書店などで買ったドリルや本を使っていた」が24.8%、「塾や習い事に行っていた」が17.5%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、「学校の教科書やプリントを使っていた」が最も多く、次いで「書店などで買ったドリルや本を使っていた」となっています。また、中学生ではほとんどの項目で小学生の割合を上回っているものの、「勉強はしていない」は同程度となっていることから、中学生になると勉強をする生徒は複数の手段を利用しているケースが多いことが推察されます。

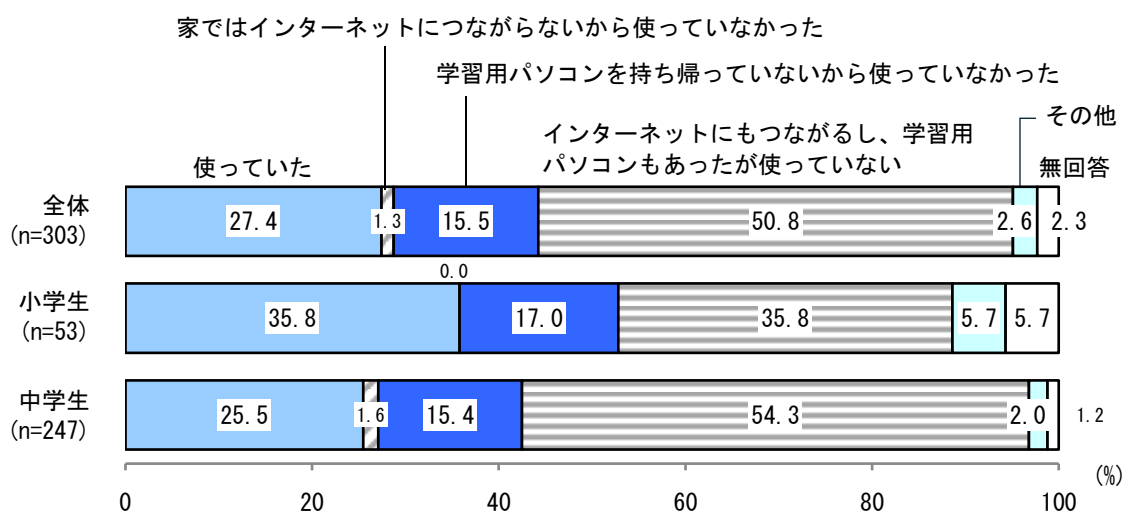


(3) 学校を休んでいるときの学習用パソコンの使用状況

問9 学校を休んでいるとき、学習用パソコンを使っていましたか。(○は1つだけ)

学校を休んでいるときの学習用パソコンの使用状況については、全体は、「インターネットにもつながるし、学習用パソコンもあったが使っていない」が50.8%で最も多く、次いで「使っていた」が27.4%、「学習用パソコンを持ち帰っていないから使っていなかった」が15.5%となっています。

校種別にみると、小学生では「使っていた」が中学生に比べて10ポイント以上高いのに対し、中学生では、「インターネットにもつながるし、学習用パソコンもあったが使っていない」が半数以上を占めています。

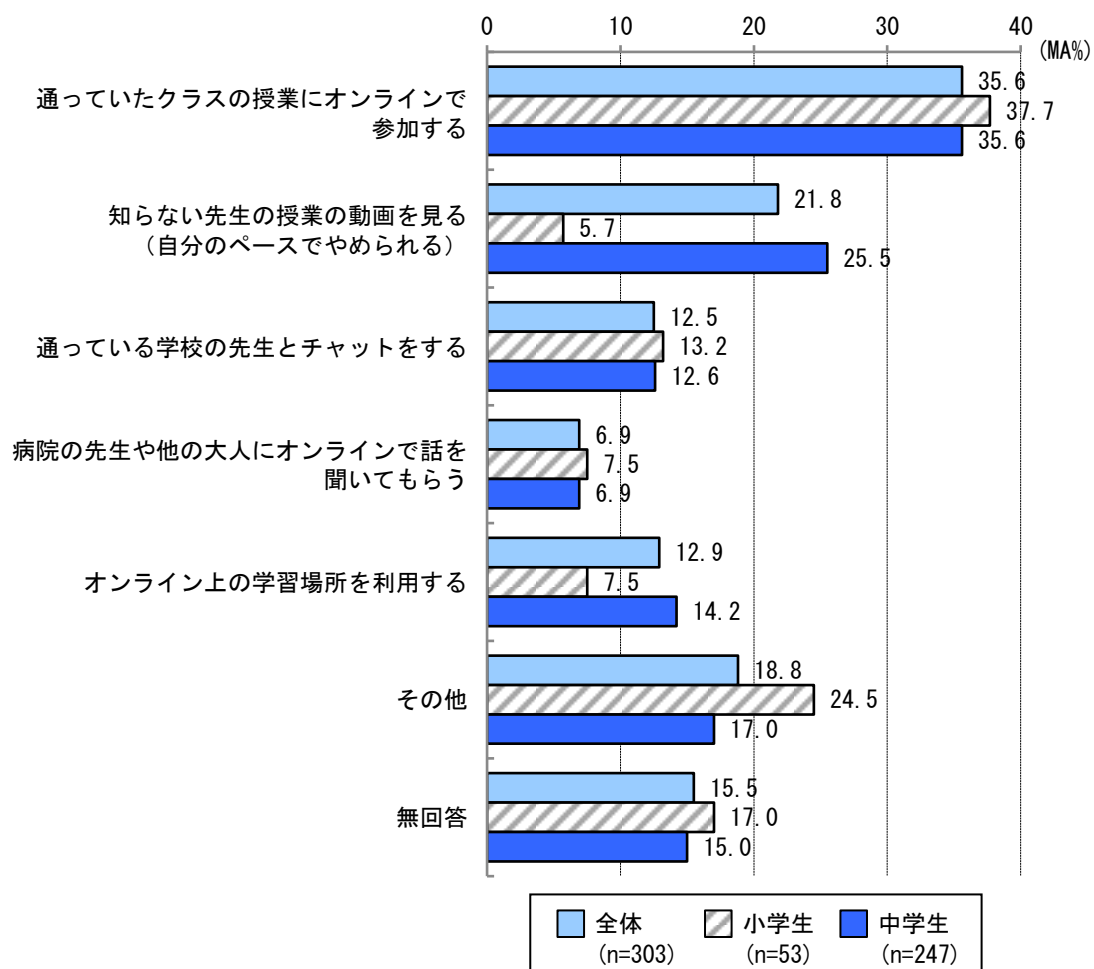


(4) 学校を休んでいるときにオンラインでできたらよかったと思うこと

問10 学校を休んでいるとき、オンラインでできたらいいな（よかったな）と思うことはありますか。（〇はいくつでも）

学校を休んでいるときにオンラインでできたらよかったと思うことについては、全体は、「通っていたクラスの授業にオンラインで参加する」が35.6%で最も多く、次いで「知らない先生の授業の動画を見る（自分のペースでやめられる）」が21.8%、「オンライン上の学習場所を利用する」が12.9%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、「通っていたクラスの授業にオンラインで参加する」が最も多くなっています。また、中学生では「知らない先生の授業の動画を見る（自分のペースでやめられる）」が小学生に比べて20ポイント近く高くなっています。

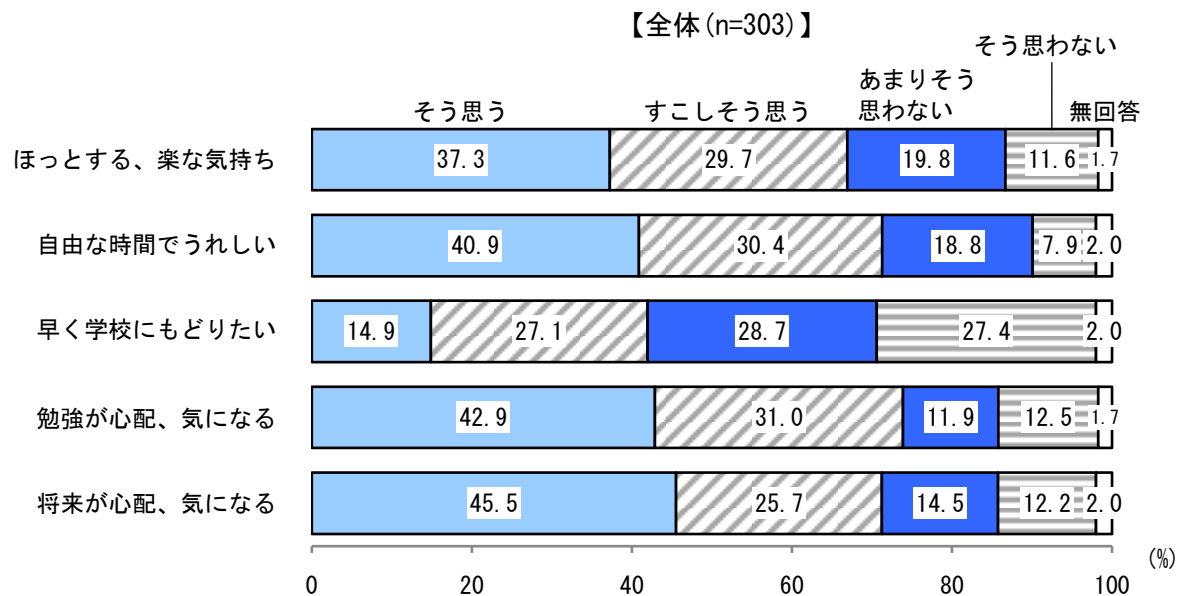


(5) 学校を休んでいるときの気持ち

問11 学校を休んでいるときの気持ちについて、1～4のうち一番近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。(○は1つずつ)

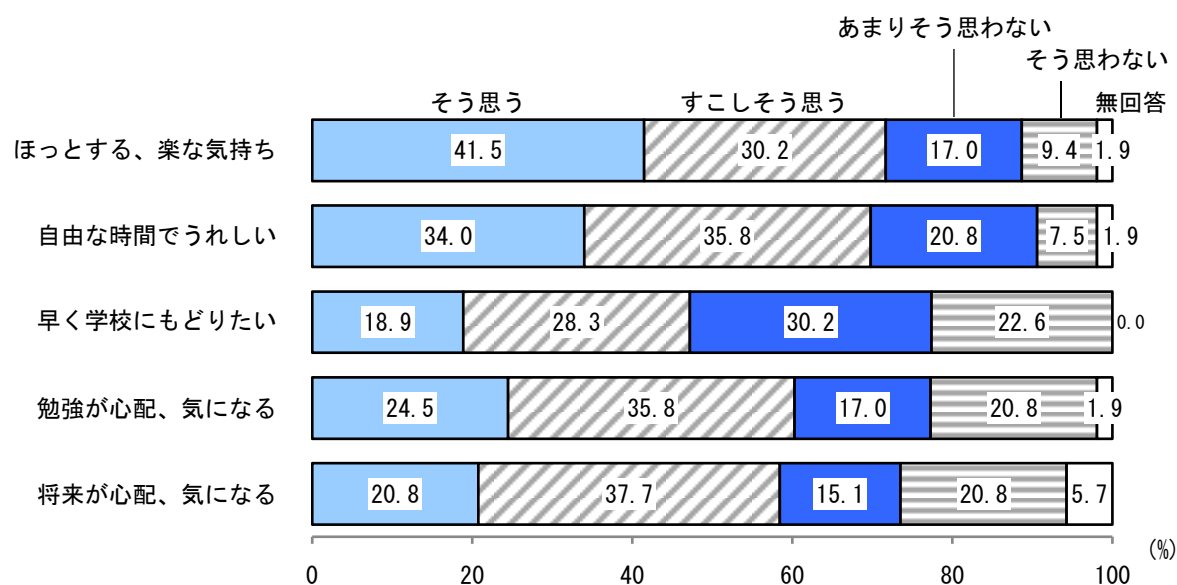
学校を休んでいるときの気持ちについてたずねたところ、「そう思う」と「すこしそう思う」をあわせた『そう思う』の割合は、全体では、“勉強が心配、気になる”が73.9%で最も高く、次いで“自由な時間でうれしい”が71.3%、“将来が心配、気になる”が71.2%となっています。一方、「あまりそう思わない」と「そう思わない」をあわせた『そう思わない』の割合は、“早く学校にもどりたい”が56.1%で最も高くなっています。

校種別にみると、『そう思う』の割合は、小学生では“ほっとする、楽な気持ち”が71.7%で最も高くなっているのに対し、中学生では“勉強が心配、気になる”が最も高く、次いで“将来が心配、気になる”となっており、学年が高いほど勉強や将来への不安を感じる生徒が多くなっています。

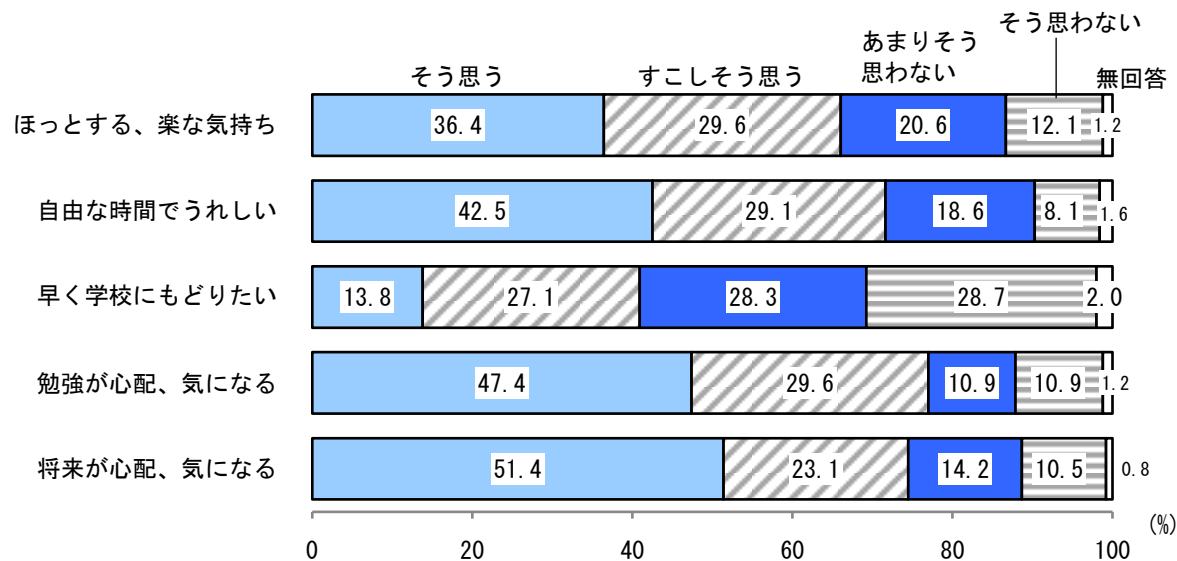


■小学生・中学生別

【小学生 (n=53)】



【中学生 (n=247)】

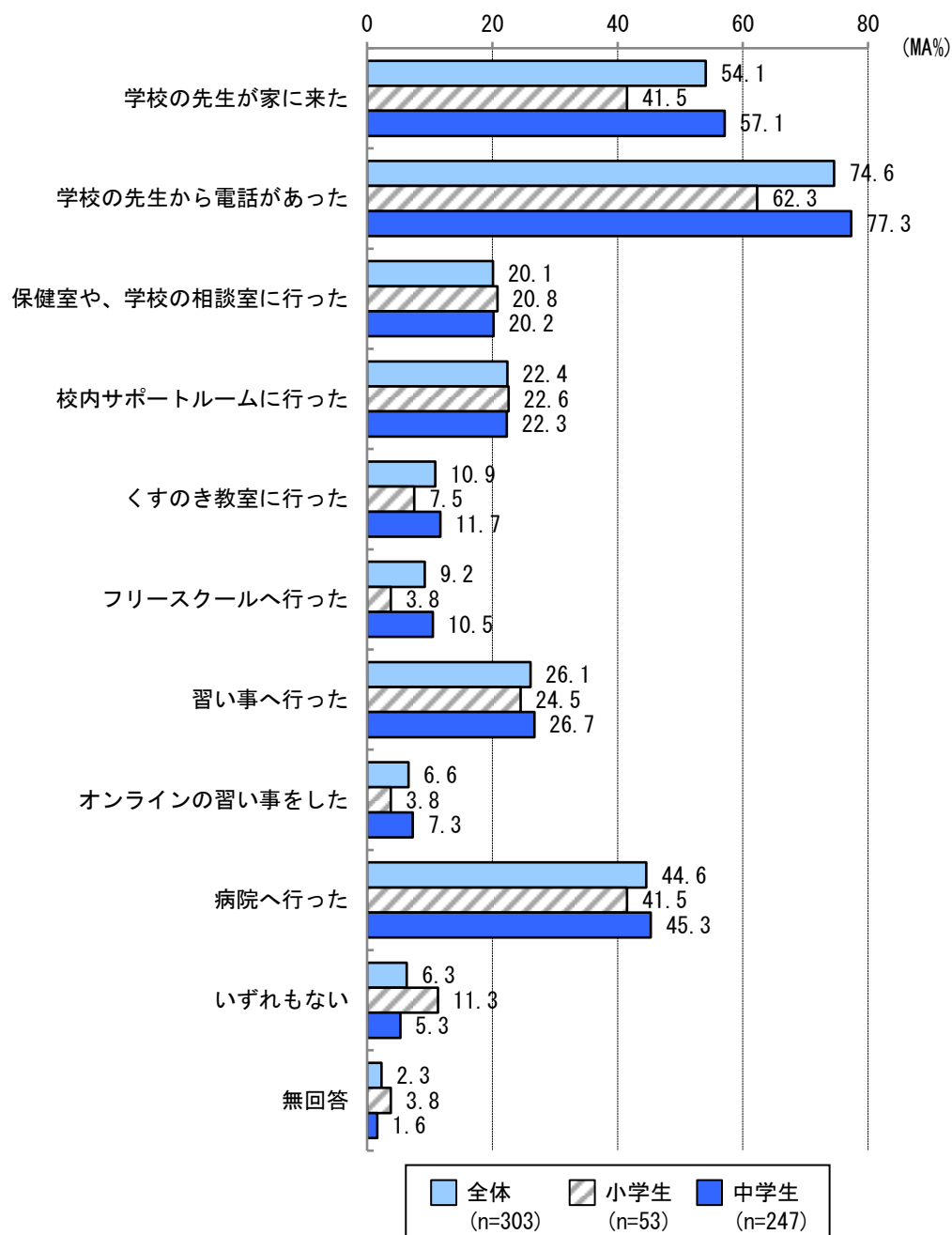


(6) 学校を休んでいるときにあったことや行った場所

問12 学校を休んでいるときに、次のようなことがあったり、行ったりしましたか。
(○はいくつでも)

学校を休んでいるときにあったことや行った場所については、全体は、「学校の先生から電話があった」が74.6%で最も多く、次いで「学校の先生が家に来た」が54.1%、「病院へ行った」が44.6%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、「学校の先生から電話があった」が最も多く、次いで「学校の先生が家に来た」、「病院へ行った」となっています。



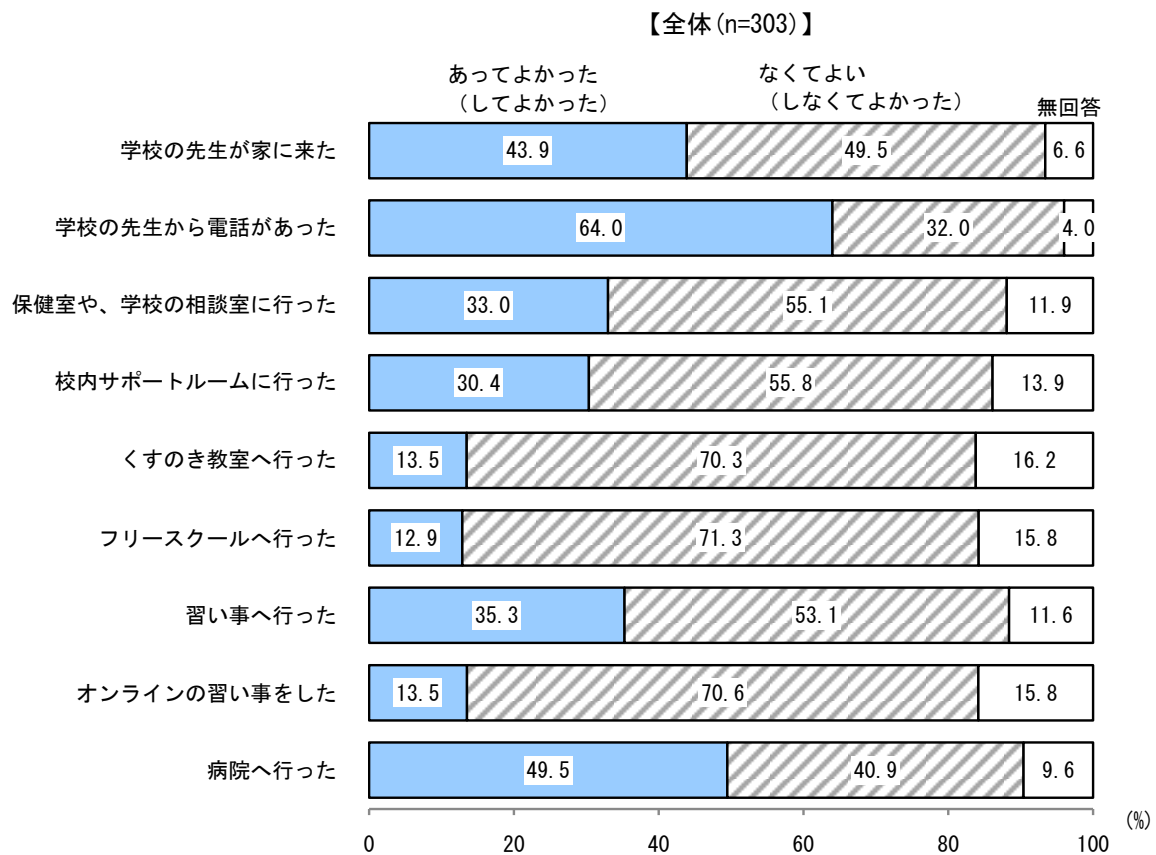
(7) 学校を休んでいるときにあったことや行った場所の感想

問13 学校を休んでいるときにあった・行ったことについてどう思いますか。それぞれ1つずつ選んでください。(○は1つずつ)

学校を休んでいるときにあったことや行った場所の感想についてたずねたところ、全体では、「あってよかった（してよかった）」の割合は、“学校の先生から電話があった”が64.0%で最も高く、次いで“病院へ行った”が49.5%、“学校の先生が家に来た”が43.9%となっています。一方で、「なくてよい（しなくてよかった）」の割合は、“フリースクールへ行った”が71.3%で最も高く、次いで“オンラインの習い事をした”が70.6%、“くすのき教室へ行った”が70.3%となっています。

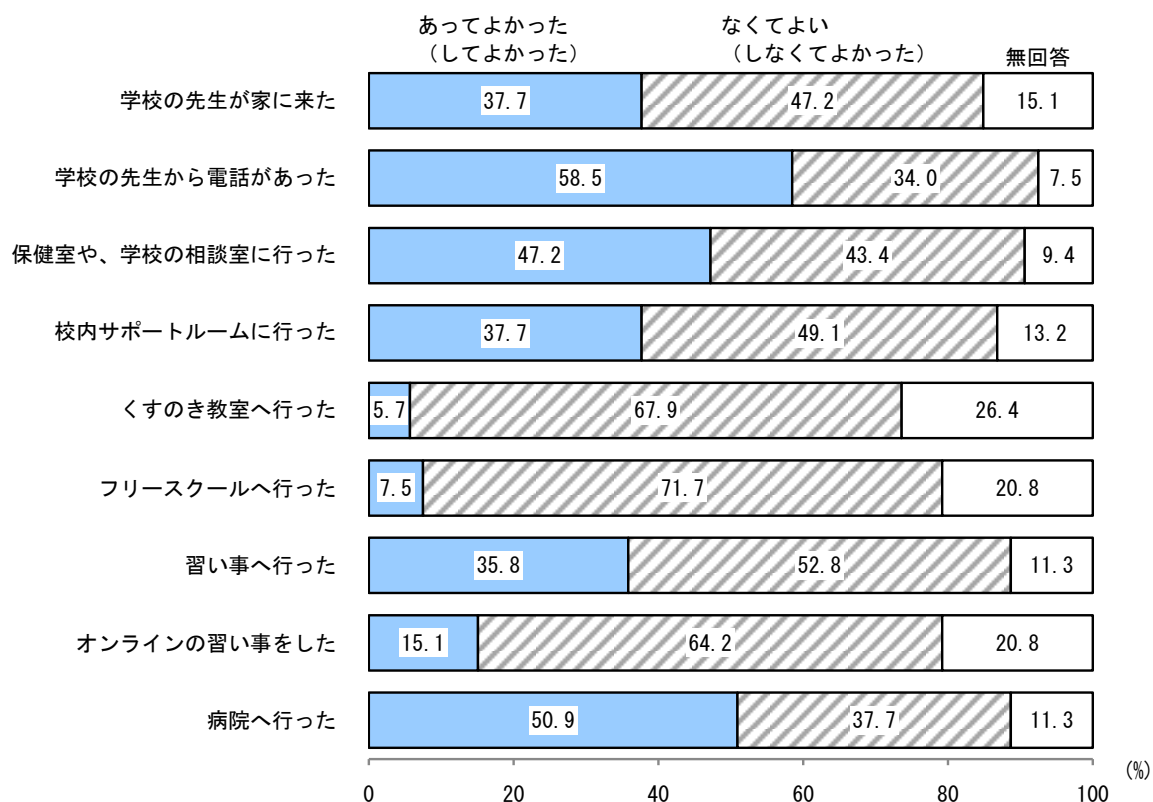
校種別にみると、「あってよかった（してよかった）」の割合は、小学生・中学生ともに、“学校の先生から電話があった”が最も高く、次いで“病院へ行った”となっています。

一方で、「なくてよい（しなくてよかった）」の割合は、小学生では“フリースクールへ行った”、中学生では“オンラインの習い事をした”が最も高くなっています。

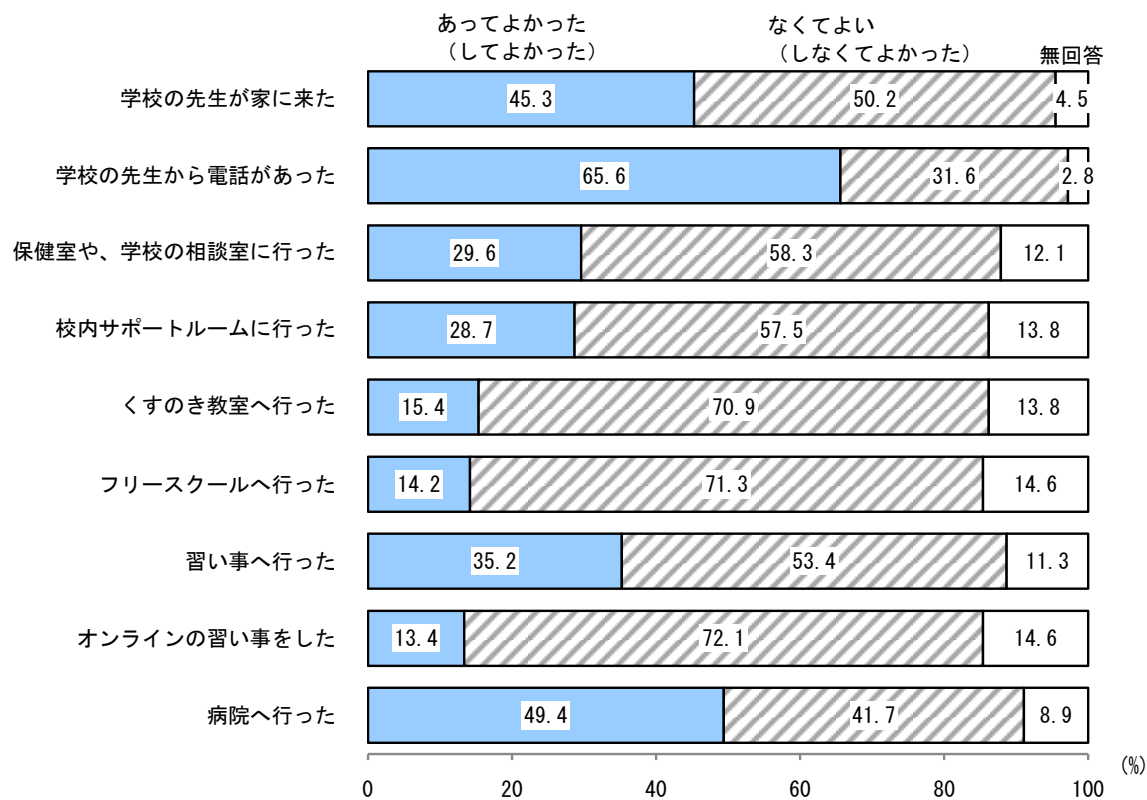


■小学生・中学生別

【小学生 (n=53)】



【中学生 (n=247)】



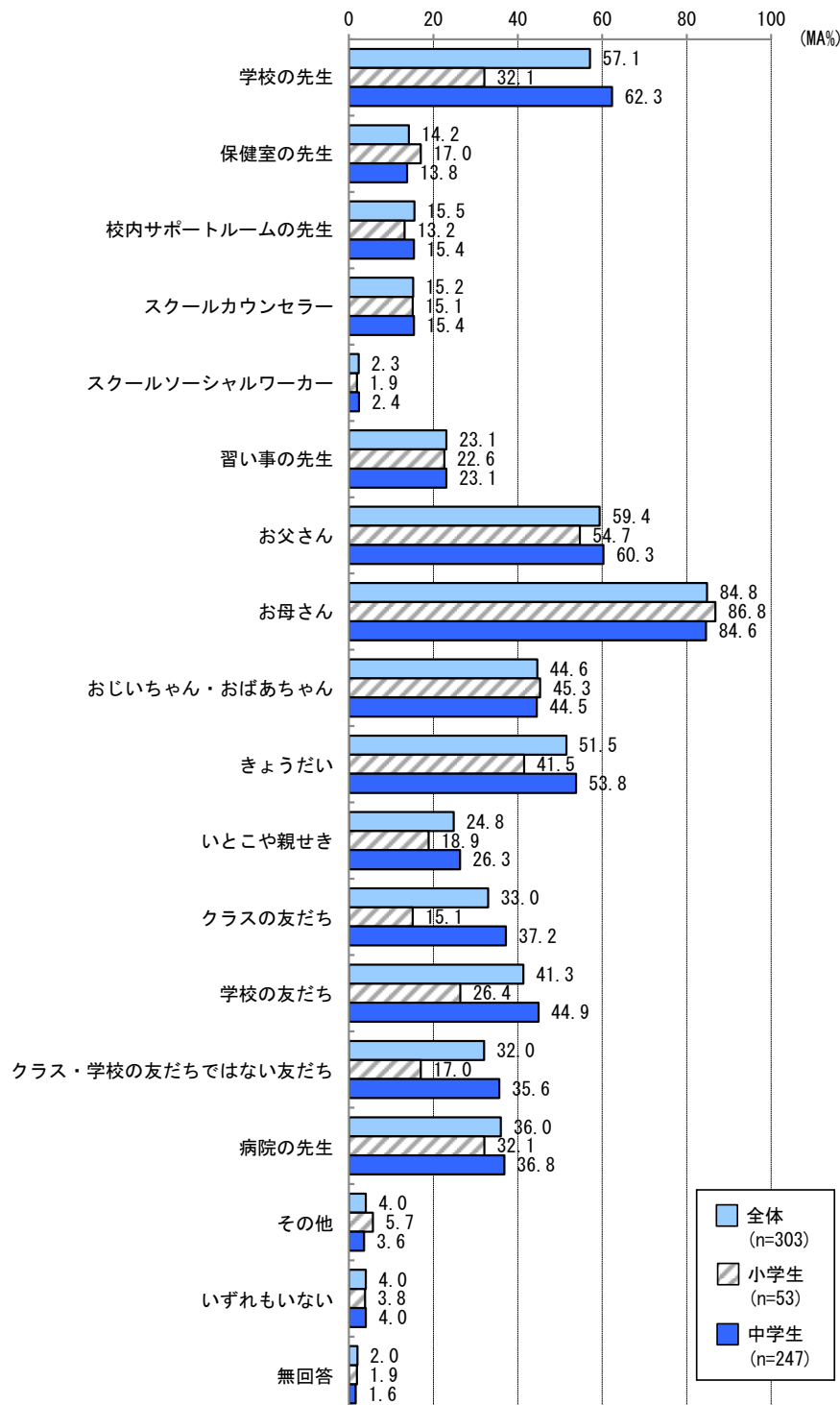
(8) 学校を休んでいるときに話をした人

問14 学校を休んでいるときに、話をした人はいますか。(〇はいくつでも)

学校を休んでいるときに話をした人については、全体は、「お母さん」が84.8%で最も多く、次いで「お父さん」が59.4%、「学校の先生」が57.1%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、「お母さん」が最も多くなっています。

また、小学生では家族が多くなっているのに対し、中学生では「学校の先生」が6割を超えて多くなっています。



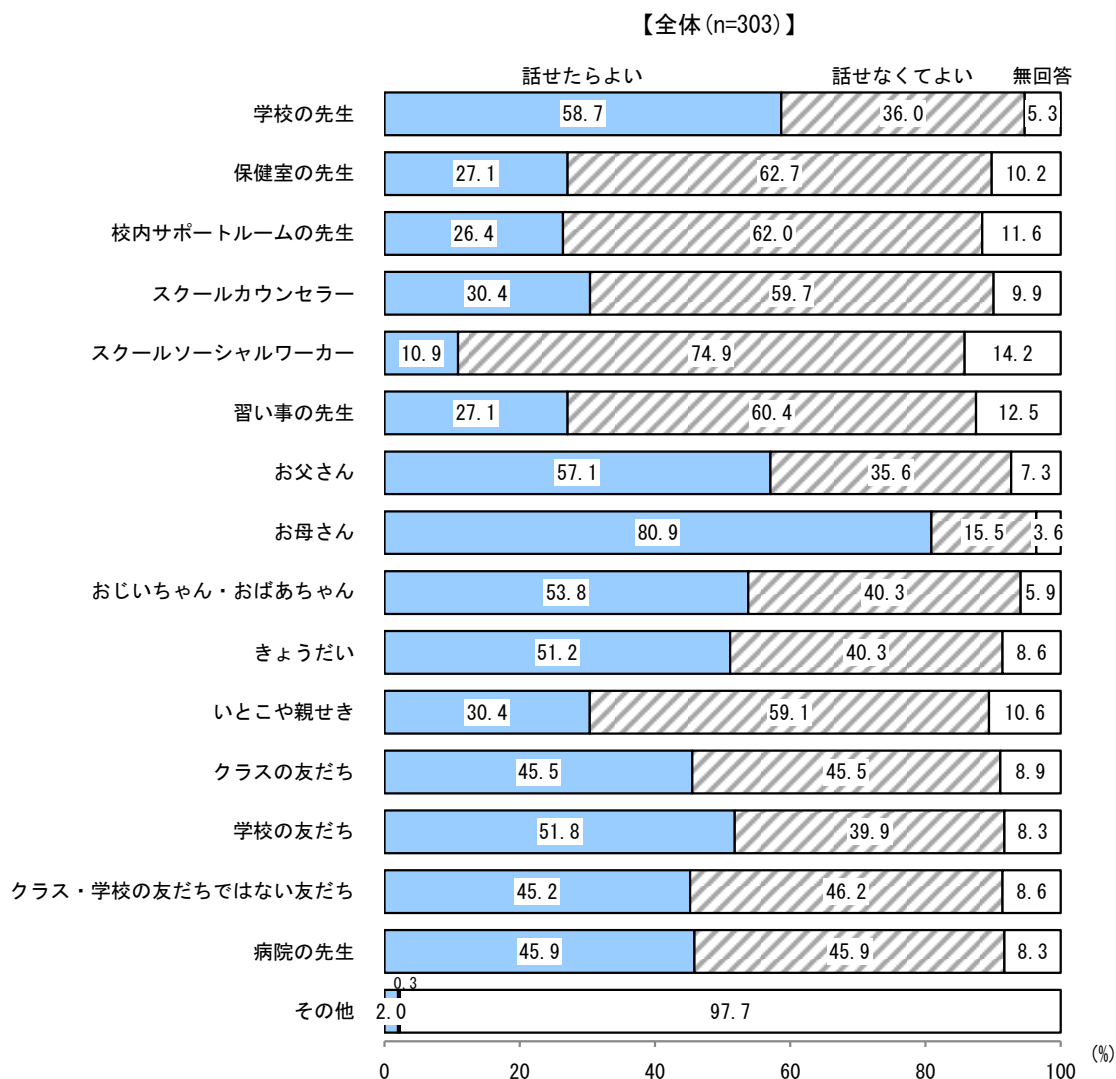
(9) 学校を休んでいるときに話せてよかった人、話せなくてよい人

問15 学校を休んでいるときに、誰と話して（話せたら）よかったですか。それぞれ1つずつ選んでください。（○は1つずつ）

学校を休んでいるときに話せてよかった人、話せなくてよい人についてたずねたところ、「話せたらよい」の割合は、“お母さん”が80.9%で最も高く、次いで“学校の先生”が58.7%、“お父さん”が57.1%となっています。一方で、「話せなくてよい」の割合は、“スクールソーシャルワーカー”が74.9%で最も高く、次いで“保健室の先生”が62.7%、“校内サポートルームの先生”が62.0%となっています。

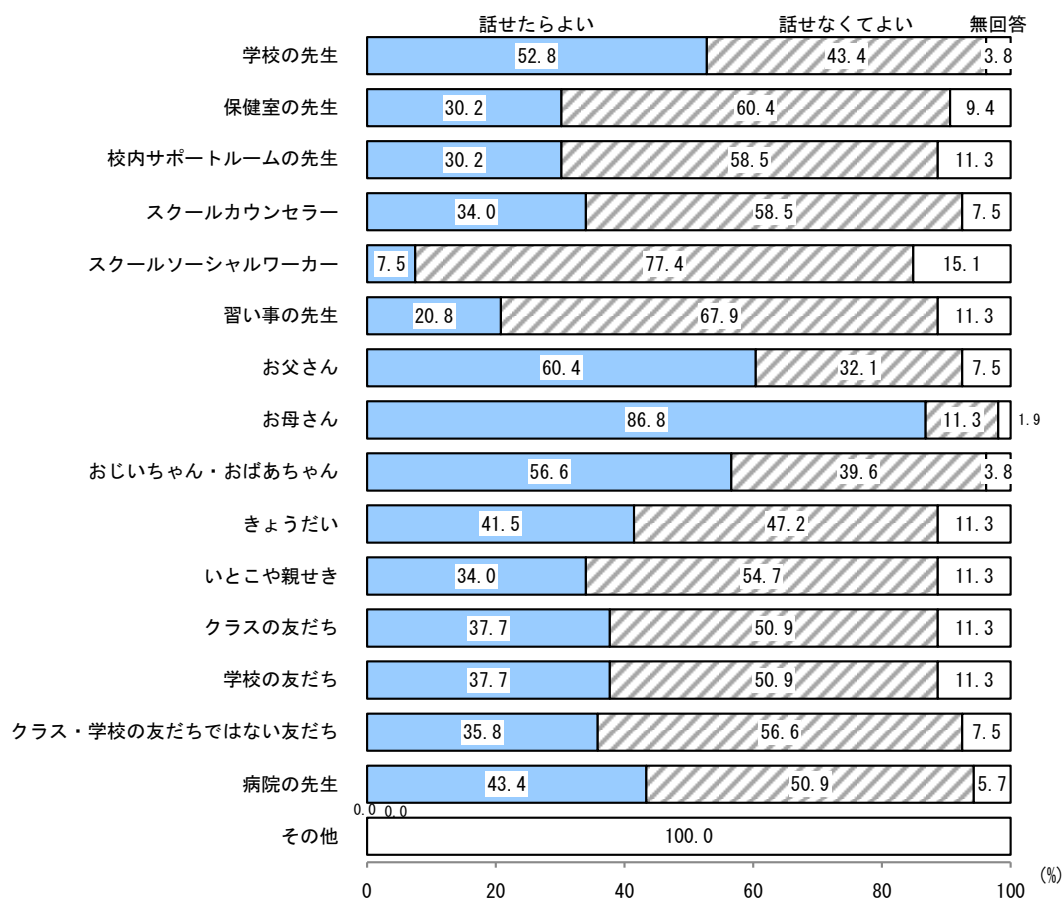
校種別にみると、「話せたらよい」の割合は、小学生・中学生ともに、“お母さん”が最も高くなっています。また、中学生では“学校の先生”が約6割を占めて高くなっています。

一方で、「話せなくてよい」の割合は、小学生・中学生ともに、“スクールソーシャルワーカー”が最も高くなっています。

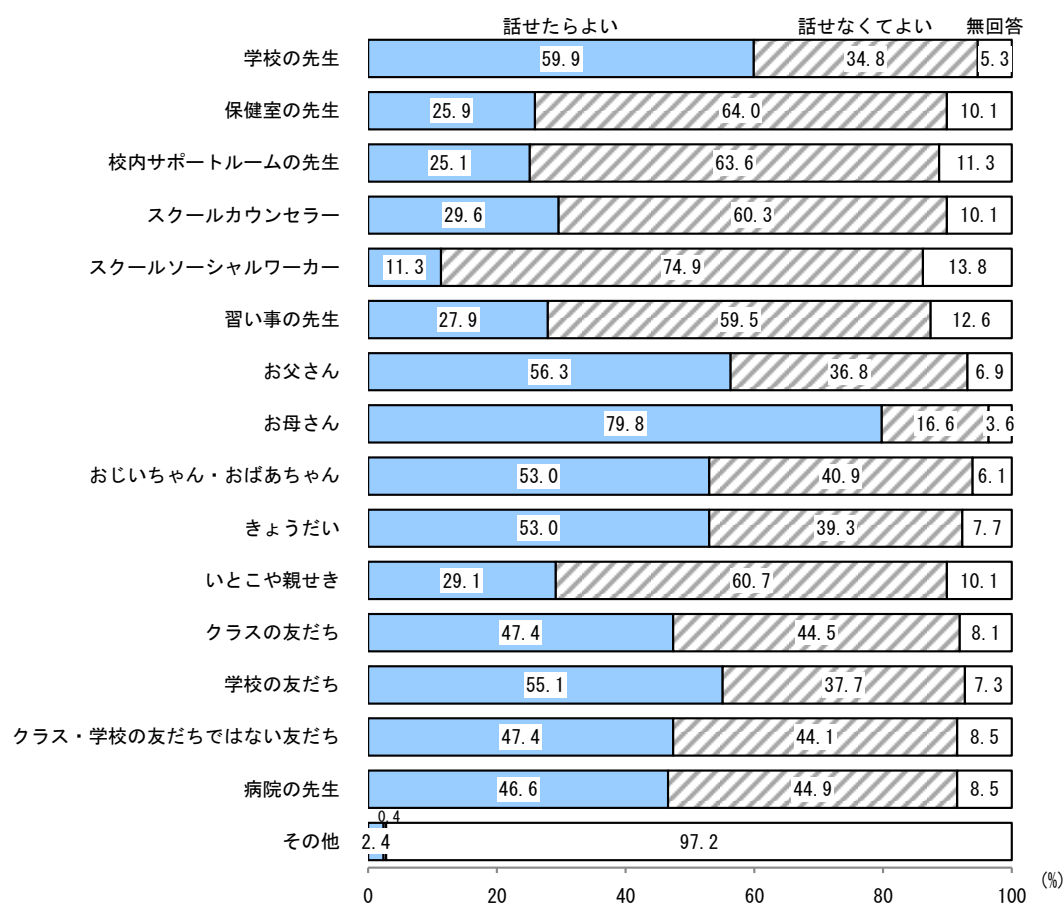


■小学校・中学校別

【小学生 (n=53)】



【中学生 (n=247)】



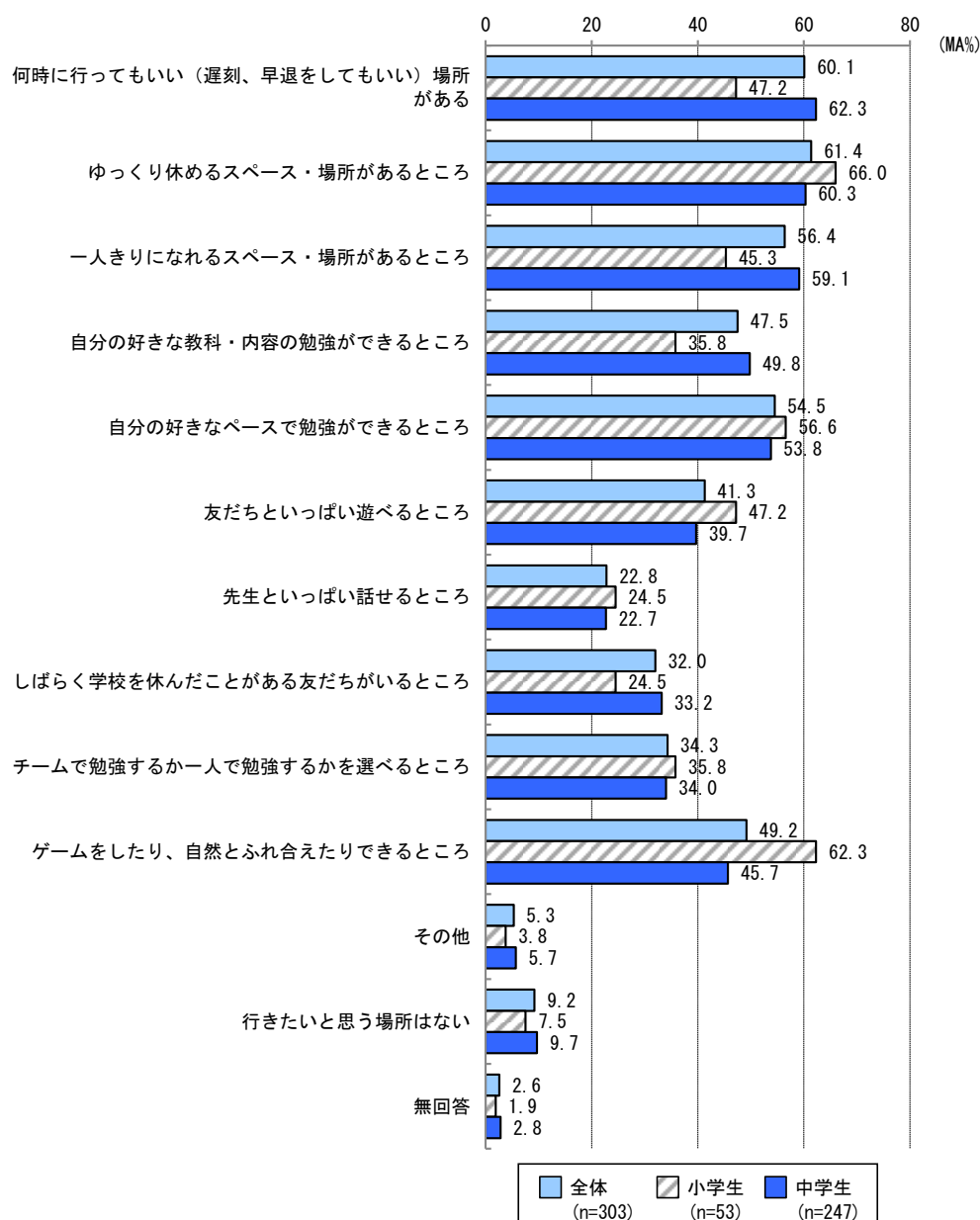
(10) 学校を休んでいるときに行きたいと思う場所

問16 学校を休んでいるときに、どんな場所だったら行きたいと思いますか。(〇はいくつでも)

学校を休んでいるときに行きたいと思う場所については、全体は、「ゆっくり休めるスペース・場所があるところ」が61.4%で最も多く、次いで「何時に行ってもいい（遅刻、早退をしてもいい）場所がある」が60.1%、「一人きりになれるスペース・場所があるところ」が56.4%となっています。

校種別にみると、小学生では「ゆっくり休めるスペース・場所があるところ」、中学生では「何時に行ってもいい（遅刻、早退をしてもいい）場所がある」が最も多くなっています。

また、小学生では「友だちといっぱい遊べるところ」が中学生に比べて多いのに対し、中学生では「何時に行ってもいい（遅刻、早退をしてもいい）場所がある」や「一人きりになれるスペース・場所があるところ」、「自分の好きな教科・内容の勉強ができるところ」「しばらく学校を休んだことがある友だちがいるところ」などが小学生に比べて多くなっています。

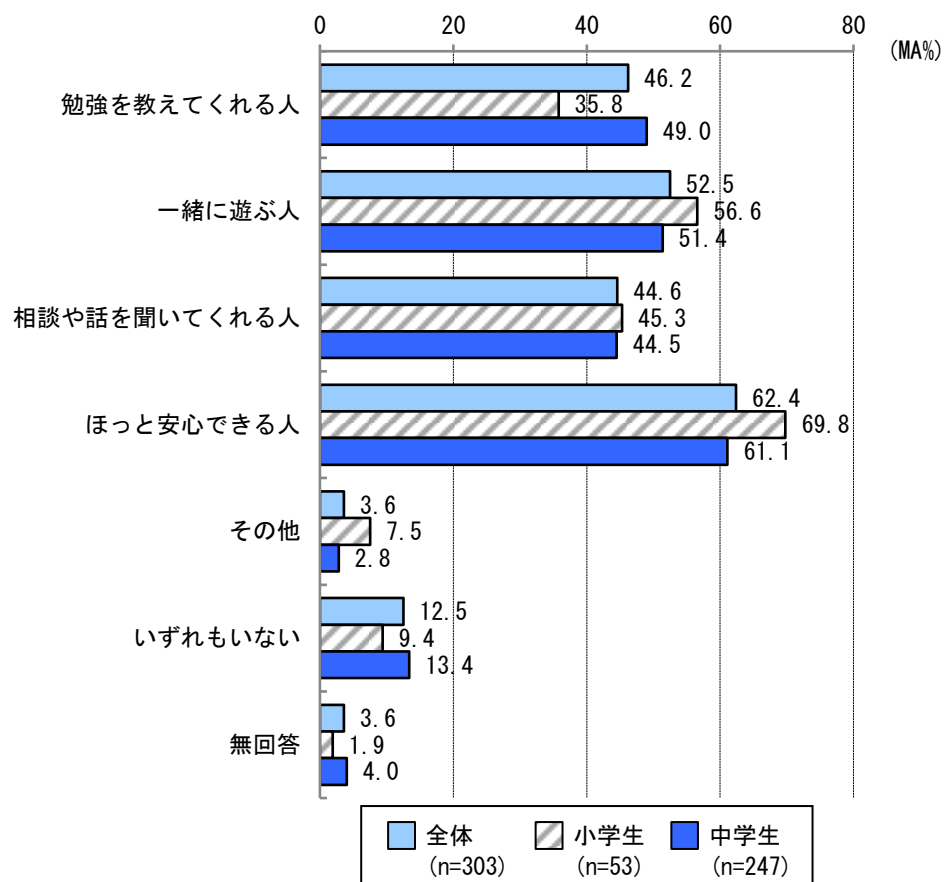


(11) 学校を休んでいるときに行きたいと思う場所にいるといいと思う人

問17 問16で回答したような場所に、どんな人がいるといいと思いますか。(〇はいくつでも)

学校を休んでいるときに行きたいと思う場所にいるといいと思う人については、全体は、「ほっと安心できる人」が62.4%で最も多く、次いで「一緒に遊ぶ人」が52.5%、「勉強を教えてくれる人」が46.2%となっています。

校種別にみると、小学生・中学生ともに、「ほっと安心できる人」が最も多く、次いで「一緒に遊ぶ人」となっています。また、中学生では、「勉強を教えてくれる人」が小学生に比べて10ポイント以上高くなっています。



(12) 学校に行きたくないときに、安心して過ごしやすいするための支援

問18 学校に「行きたくない」と感じたときにも、安心して過ごせるようになるためには、まわりの人からどのようなお手伝いがあればもっと過ごしやすいと思いますか。あったらいいなあと思うこと、これはイヤだなあと思うことについて、自由にお書きください。

自由記述については、回答者のうち、あったらいいことには135人から、あると嫌なことには134人から意見が寄せられました。

その中から抜粋した主な意見は次のとおりです。原則として原文のまま掲載していますが、明らかな誤り、個人情報、誤字・脱字は修正しています。

【主な意見】

《あったらいいこと》(n=135)

相談について

- ・趣味の話をしてくれる、解決策と一緒に考えてくれる。
- ・フリースクールとかカウンセリングとか病院とか、親が誘ってくれない家庭の場合、親に自分でここに行きたいって言い出すのはハードルが高いと言うか、恥ずかしいみたいな思いがある人もいると思うので、気軽に、1人で相談できる、SNSとかそういうのがもっと有名になったり、便利になればいいのになって思いました。
- ・相談にのってくれる人。

周りの理解について

- ・不登校がサボリじゃないと理解してほしい。
- ・ずる休みと言わない人。
- ・そっとしておいてくれることや、一人にしてくれること。
- ・やさしく接してくれる。
- ・他人事とかに思っじゃなくて、もしかしたら自分に原因があるんじゃないかと考えてくれる人が増えること(先生や親)。学校に行っていないことが甘えでも、にげてるわけでもなくて、ただ自分が生きるために行ってるってことが伝わること。

先生について

- ・学校の先生からの支援、もっと連絡などがほしい。不登校にも理由があるのもっと理解がほしい。
- ・一緒に好きなことで遊んでくれる先生がいたらうれしい。
- ・学校の先生がすぐに注意してくれたらとてもありがたいです。学校に行くのは当たり前っていう考えが少しでもなくなれば、もっと過ごしやすいと思います。

勉強について

- ・勉強を教えてもらえる。
- ・1人で勉強できる場所がある。
- ・将来やりたいことを、学べる場所、教えてくれる人。
- ・分からない時に勉強や困ってることについて教えてくれる人
- ・サポートルームに入れる人をもう少し増やして欲しい。

友人について

- ・休んでもいっしょにあそんでくれる人。友達が一番大事。
- ・何も言わずそばに居てくれる人。
- ・友達から「今こんな勉強をしてるよ」「校外学習でこんなところに行くよ」みたいに報告を受けるのが嬉しかった。

環境、スペースについて

- ・勉強など気にせず、ゆっくりできる場所。
- ・お手伝いよりも学校で1人になれる場所があったら大分過ごしやすくなると思います。

その他

- ・適度に外へ出れる時を作る。
- ・フリースクール55000円、交通費、食事で、月に7万円して高すぎて、お父さん、お母さん金額大変だから、助成金出して欲しいです。

《あると嫌なこと》(n=134)

関わり方について

- ・家に来ること。
- ・何で来ないの？と聞いてくる人。
- ・登校を強制されること。
- ・先生から電話がかかってくること。
- ・学校の先生が家に来る。学校の先生がしつこく話しかけてくる。
- ・「来てくれてよかった！」と言われること(毎回)。
- ・学校に来いと言われること。
- ・無理やり学校に行かせること。
- ・過度な干渉
- ・おせっかい
- ・特別視しないで、いつもどおりに過ごしたい。
- ・無理に話をきこうとする人
- ・怒ってくること、過剰に否定してくること。
- ・否定されること。
- ・心配をしてくれないことがイヤです。
- ・分からなくて1人だけ置いていかれる。
- ・ずっと行かなくていいと言われること。本当は行きたいけど行かなくていいのかな～って思ってしまう。
- ・教室に久々に行って、生徒のみんなに嫌がらせを受けること。
- ・理解のない先生からの心無い声かけ。
- ・いじめ、悪口を言う人がいる。

環境、スペースについて

- ・苦手な先生がいること。
- ・人からの視線を多く集められる場所や機会があるとすごく怖いです。

Ⅲ 調査結果〔保護者〕

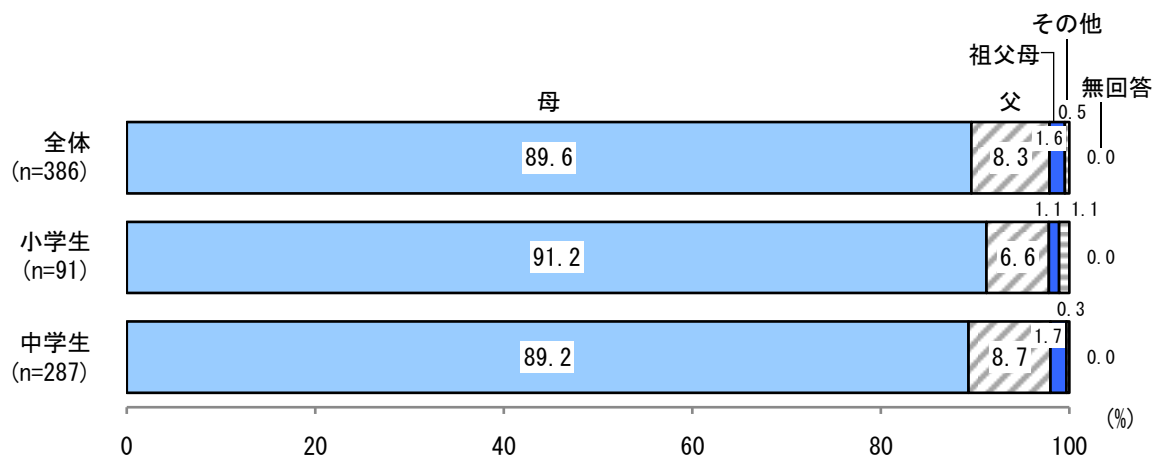
1. 子どもの状況

(1) 調査回答者

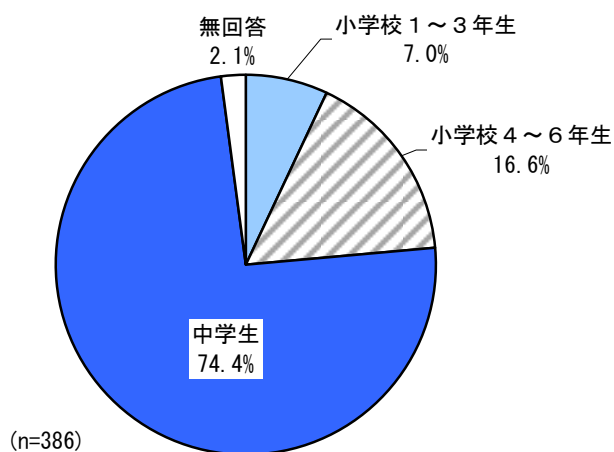
問1 このアンケートに回答される方の続柄をお教えてください。(○は1つだけ)

アンケート回答者の続柄は、全体では、「母」が89.6%で最も多く、次いで「父」が8.3%、「祖父母」が1.6%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「母」が最も多く、次いで「父」、「祖父母」となっています。



【参考 子どもの学年】

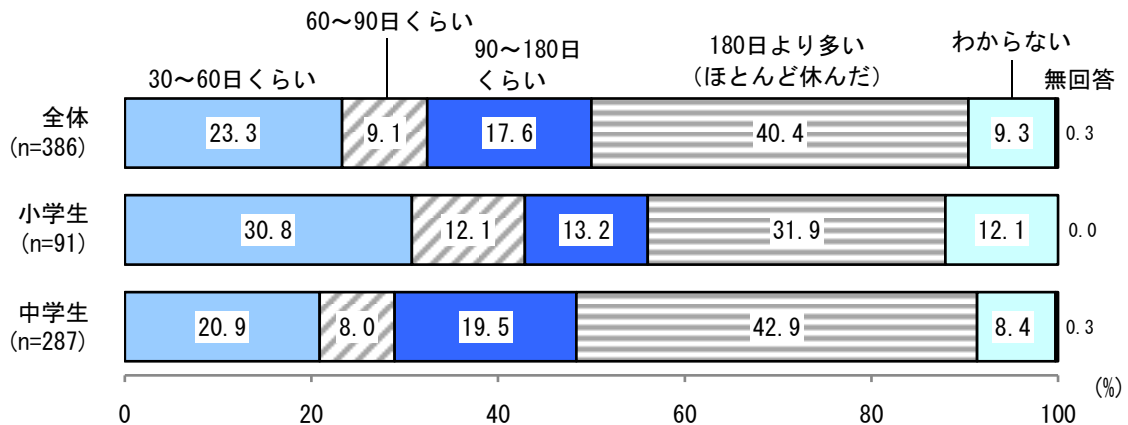


(2) 前年度に子どもが学校を欠席した日数

問2 令和6年度にお子さまが学校を休んだ日数について教えてください。(○は1つだけ)

前年度に子どもが学校を欠席した日数については、全体は、「180日より多い（ほとんど休んだ）」が40.4%で最も多く、次いで「30～60日くらい」が23.3%、「90～180日くらい」が17.6%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「180日より多い（ほとんど休んだ）」が最も多く、特に中学生では4割を超え、小学生に比べて10ポイント以上高くなっています。

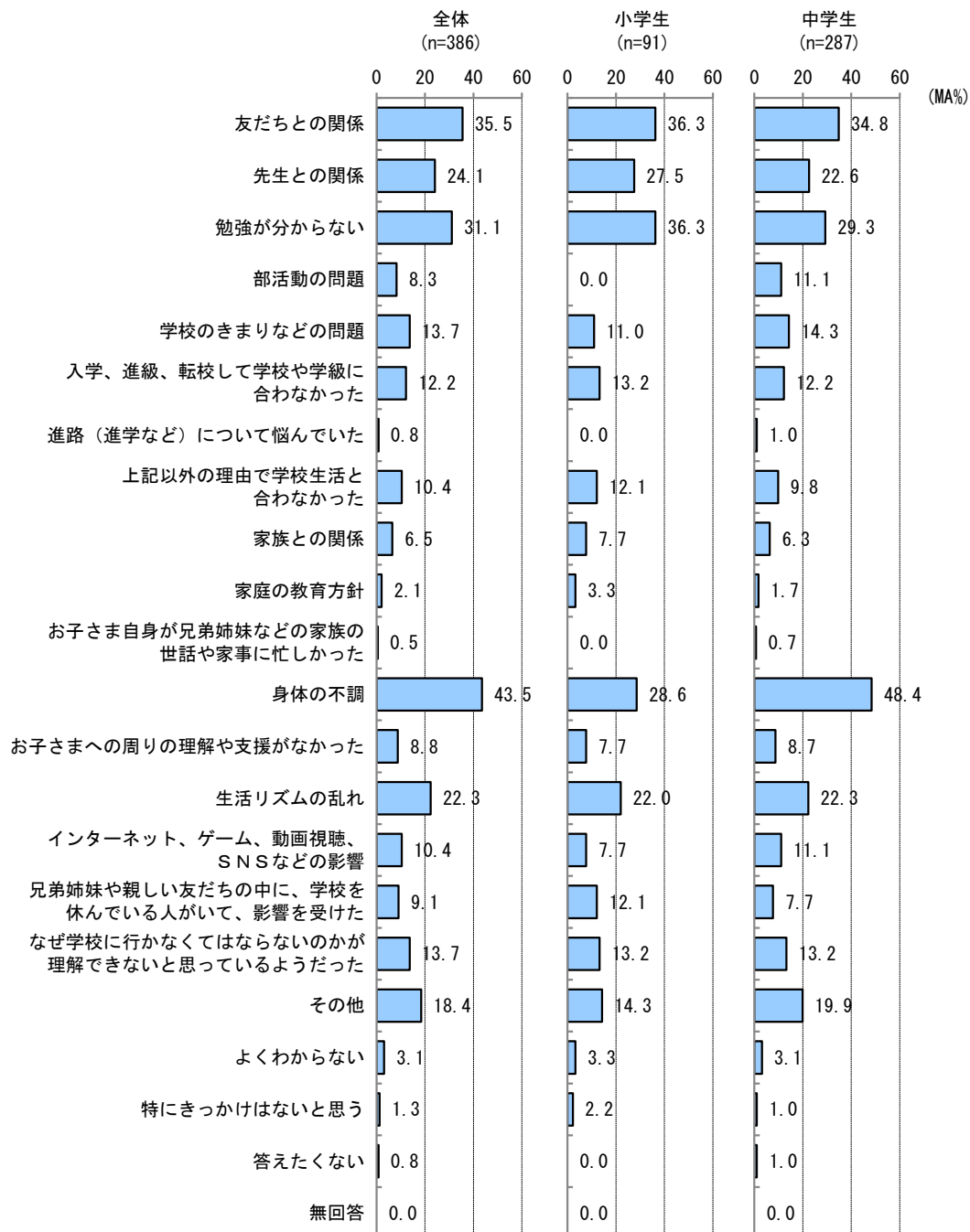


(3) 子どもが学校を休むようになったきっかけ

問3 お子さまが、一番最初に学校を休むようになった（休みがちになった）ことと関係があると思うことはありますか。（○はいいくつでも）

子どもが学校を休むようになったきっかけについては、全体は、「身体の不調」が43.5%で最も多く、次いで「友だちとの関係」が35.5%、「勉強が分からない」が31.1%となっています。

子どもの校種別にみると、中学生では「身体の不調」が半数近くを占め、小学生に比べて20ポイント近く高くなっています。



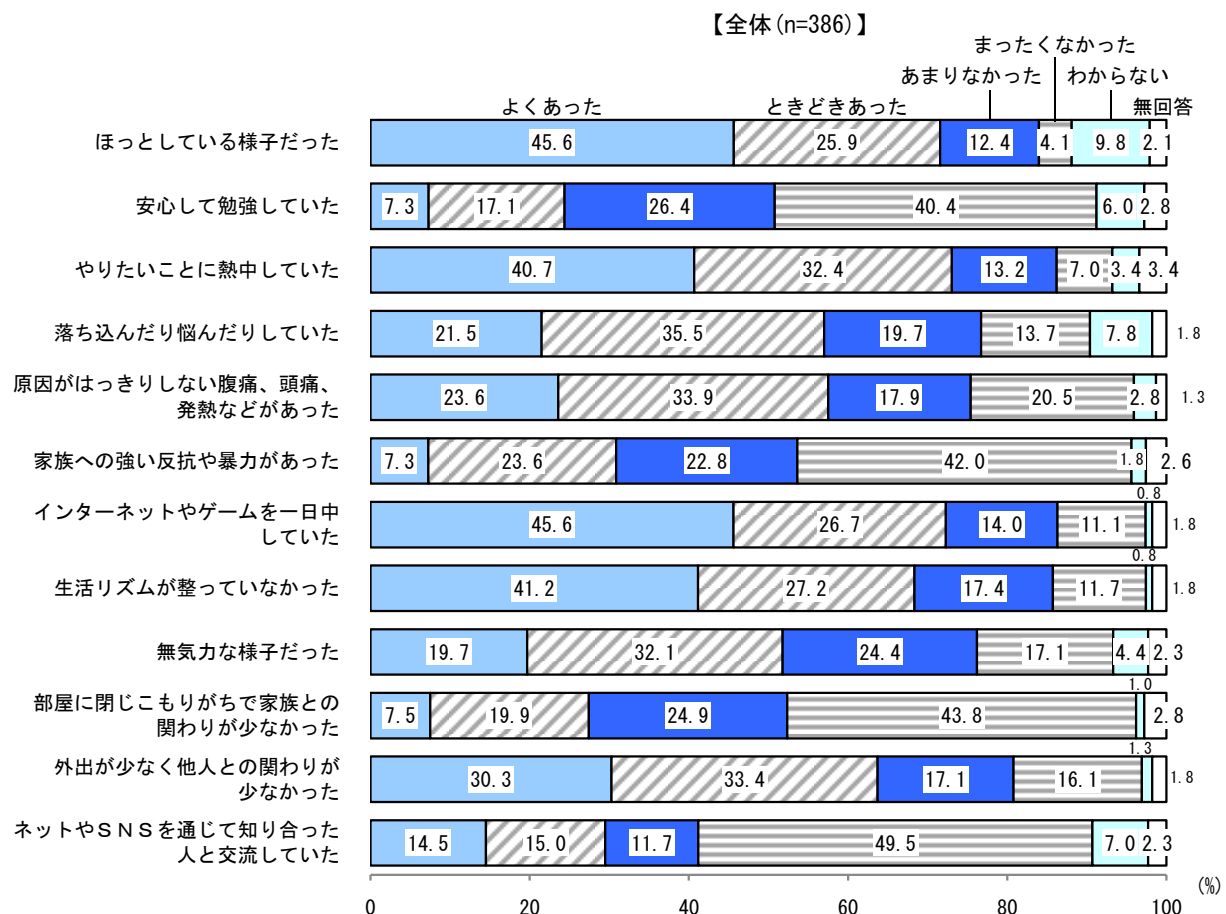
(4) 学校を休んでいるときの子どもの様子

問4 学校を休んでいるときのお子さまの様子について、それぞれお答えください。
(○は1つずつ)

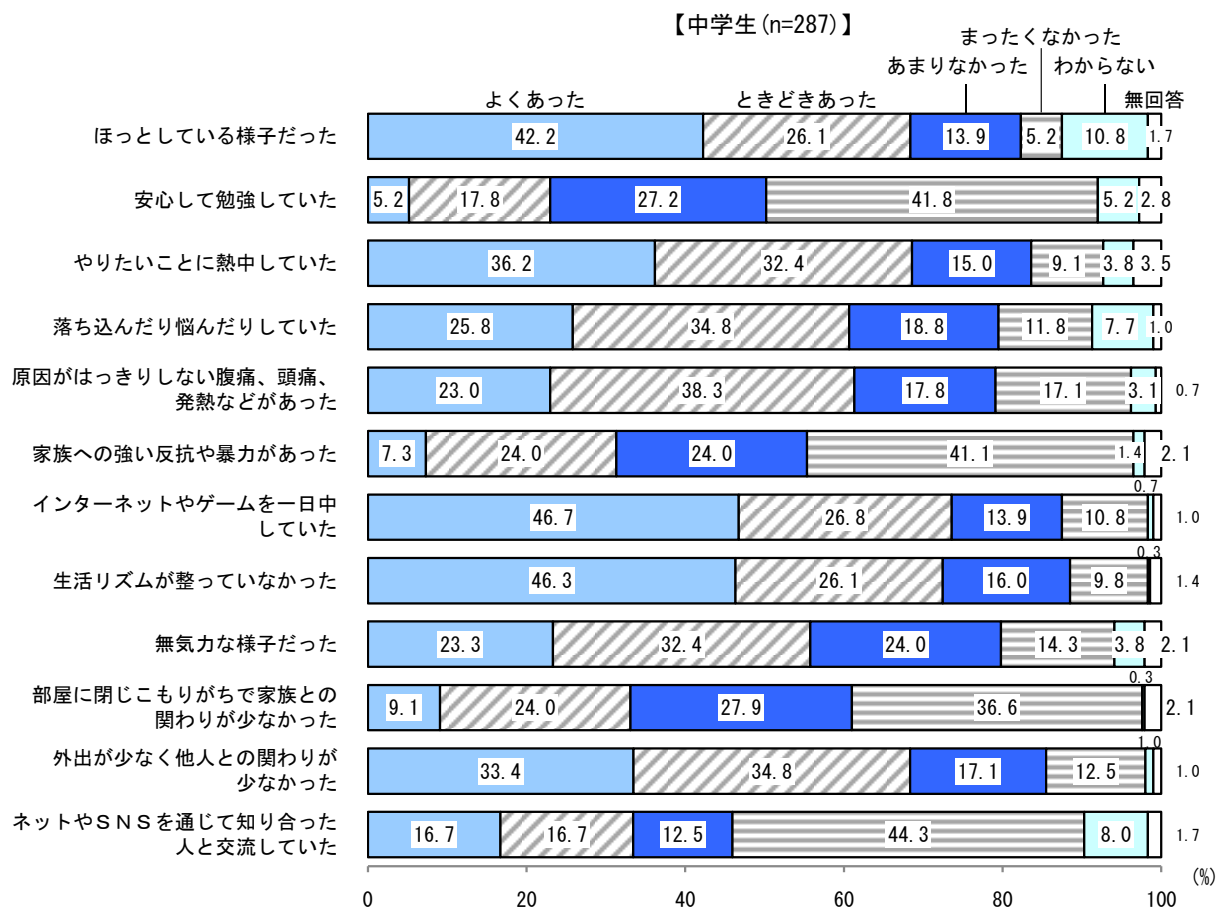
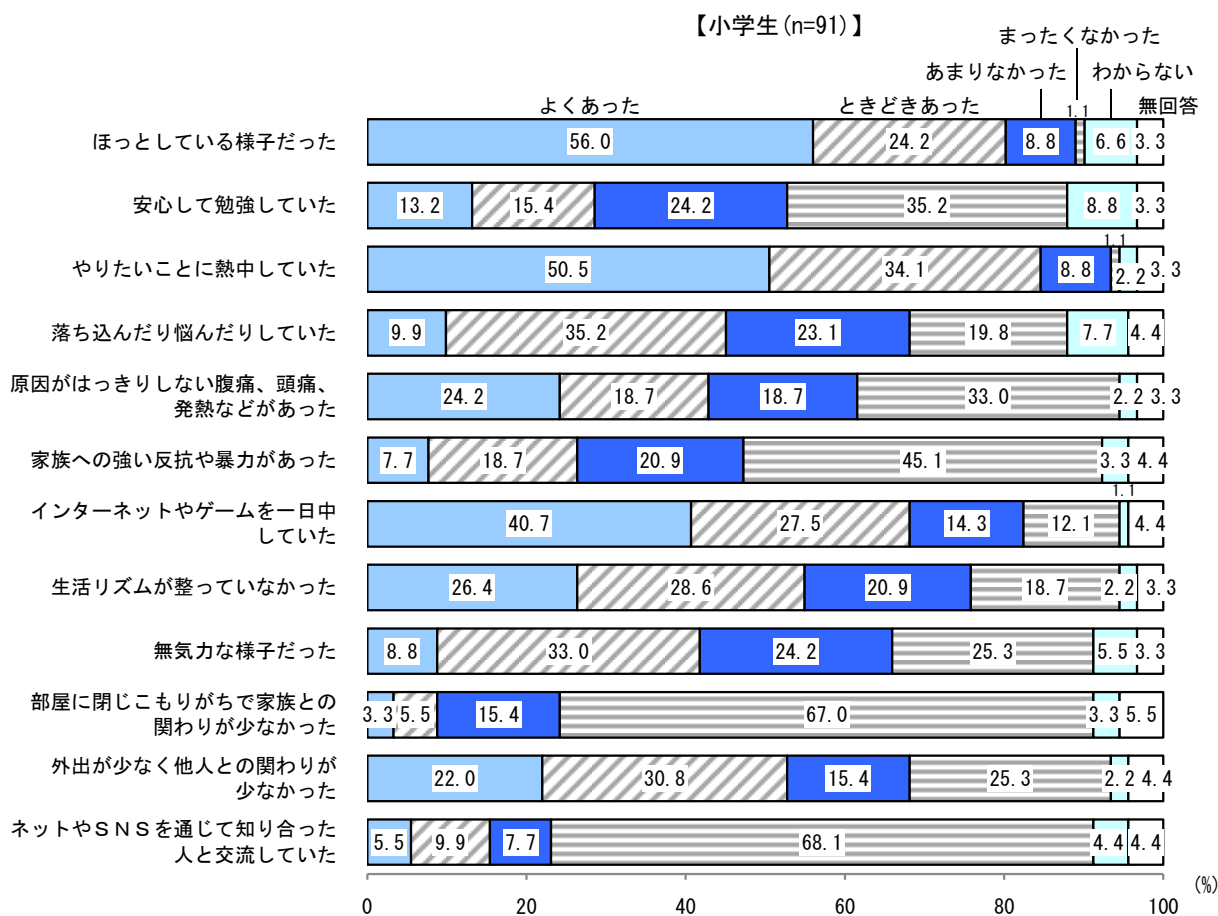
学校を休んでいるときの子ども様子をたずねたところ、全体は、「よくあった」の割合は“ほっとしている様子だった”と“インターネットやゲームを一日中していた”がそれぞれ45.6%で最も高く、「よくあった」と「ときどきあった」をあわせた『あった』割合は、“やりたいことに熱中していた”が73.1%で最も高く、次いで“インターネットやゲームを一日中していた”が72.3%、“ほっとしている様子だった”が71.5%となっています。

子どもの校種別にみると、『あった』割合は、小学生では“やりたいことに熱中していた”、中学生では“インターネットやゲームを一日中していた”が最も高くなっています。

また、“落ち込んだり悩んだりしていた”や“生活リズムが整っていなかった”“外出が少なく他人との関わりが少なかった”などで中学生が小学生を大きく上回っています。



■小学生・中学生別

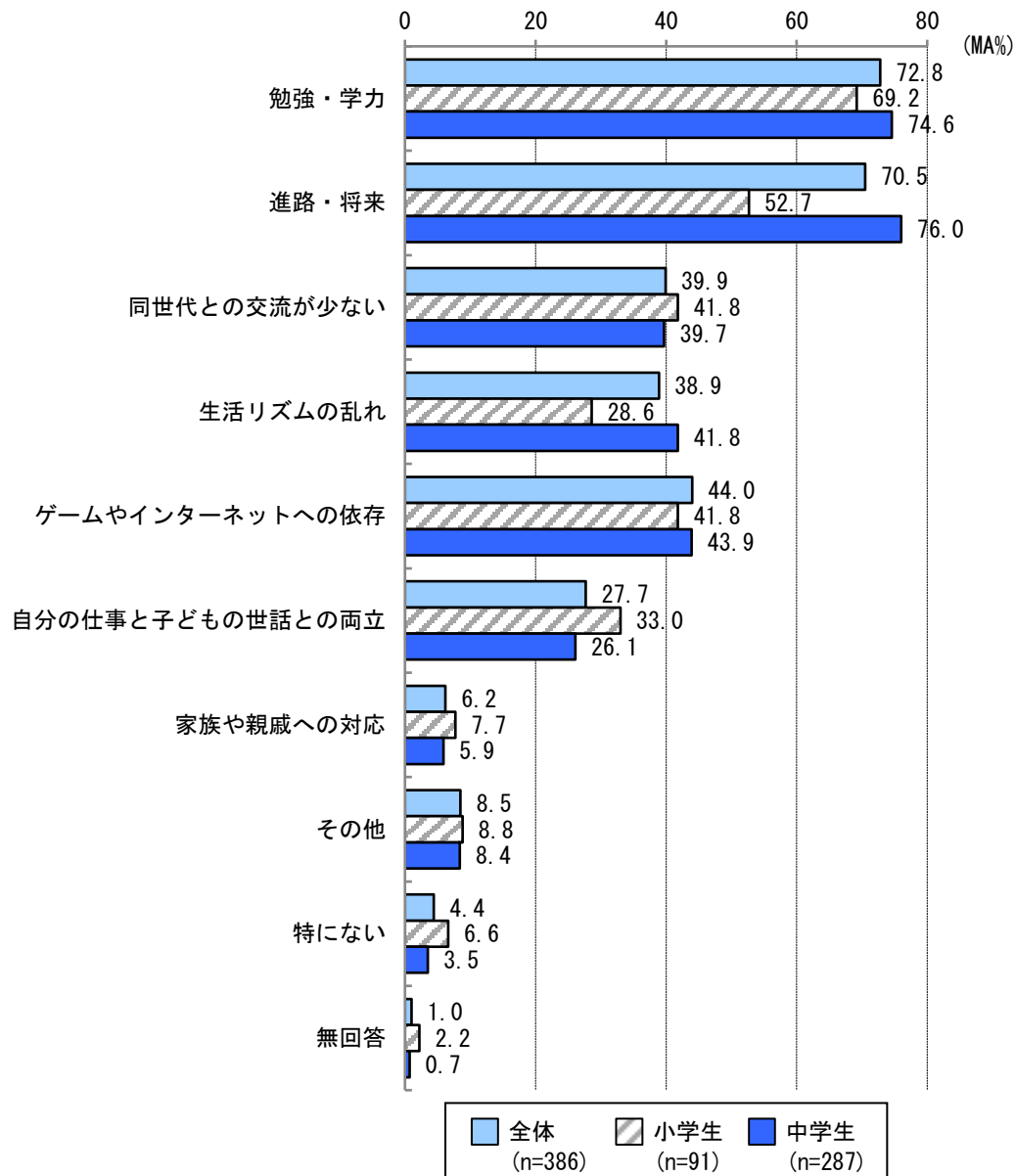


(5) 子どもに関する心配ごと

問5 今、お子さまのことで心配していることはありますか。(〇はいくつでも)

子どもに関する心配ごとについては、全体は、「勉強・学力」が72.8%で最も多く、次いで「進路・将来」が70.5%、「ゲームやインターネットへの依存」が44.0%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生では「勉強・学力」、中学生では「進路・将来」が最も多くなっています。また、中学生では、「進路・将来」で20ポイント以上、「生活リズムの乱れ」で10ポイント以上、小学生に比べて高くなっています。



2. 相談・支援機関の利用等について

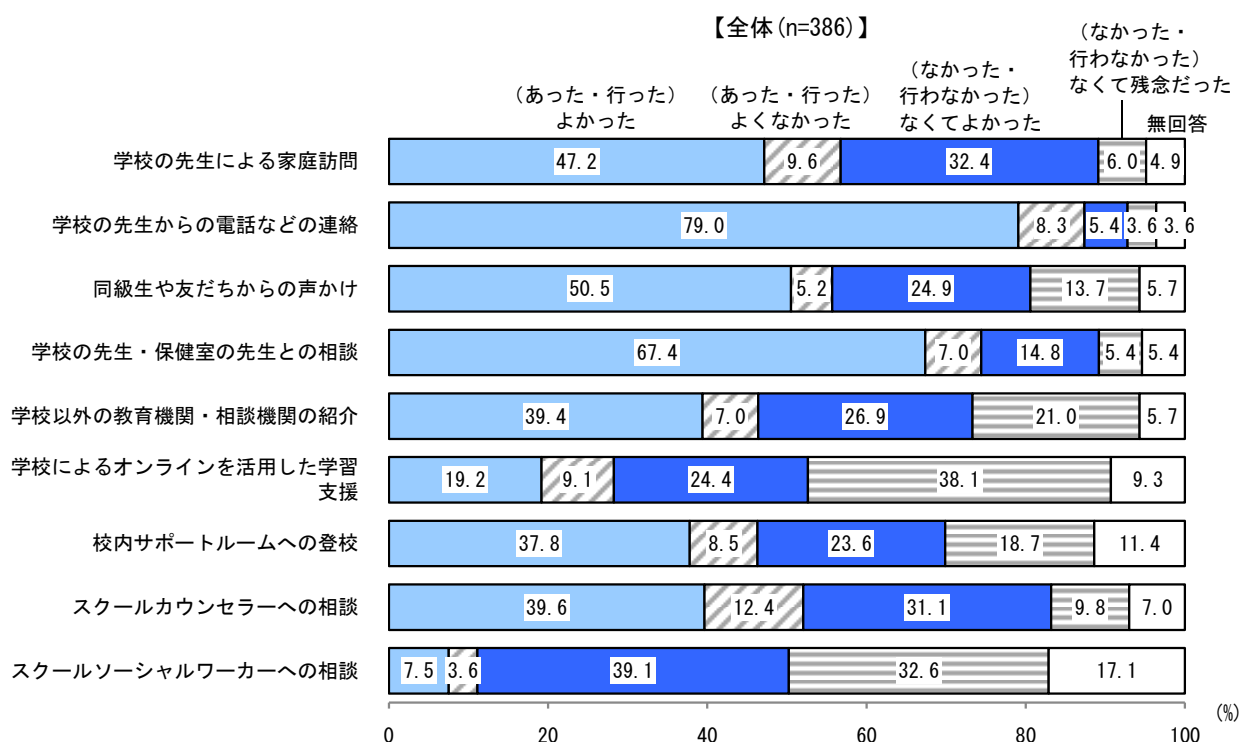
(1) 学校を休んでいるときにあったことや行ったこととその評価

問6 学校を休んでいるときにあったこと・行ったことはありますか。また、その評価について、それぞれお答えください。(○は1つずつ)

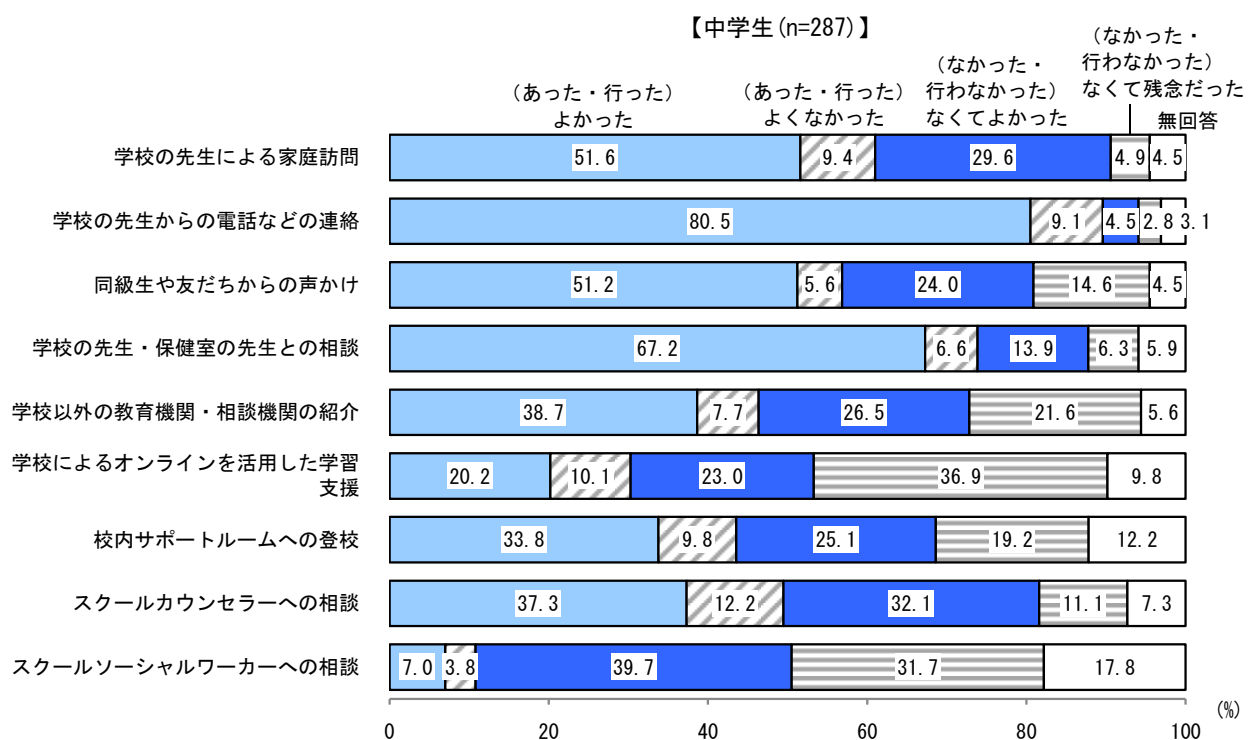
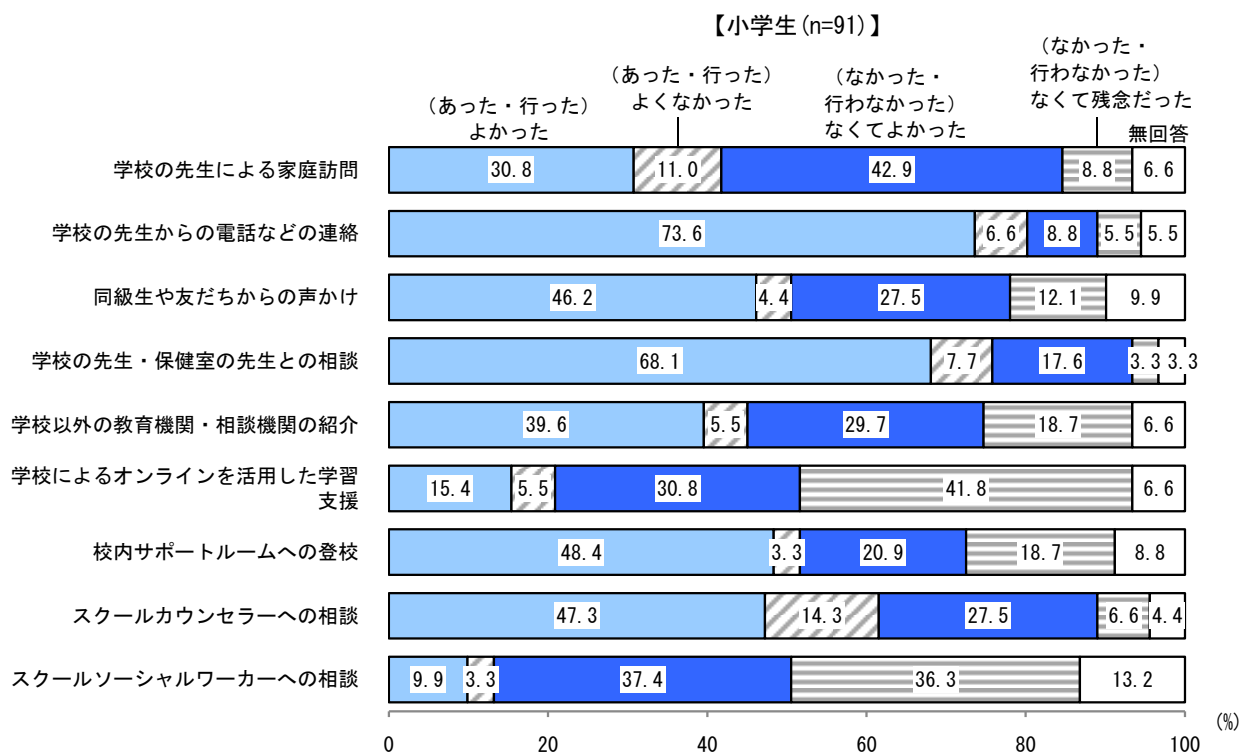
学校を休んでいるときにあったことや行ったこととその評価をたずねたところ、全体では、「(あった・行った) よかった」割合は、“学校の先生からの電話などの連絡”が79.0%で最も高く、次いで“学校の先生・保健室の先生との相談”が67.4%、“同級生や友だちからの声かけ”が50.5%となっています。「(なかった・行わなかった) なくてよかった」の割合は、“スクールソーシャルワーカーへの相談”が39.1%で最も高く、次いで“学校の先生による家庭訪問”が32.4%となっています。一方で、「(なかった・行わなかった) なくて残念だった」の割合は、“学校によるオンラインを活用した学習支援”が38.1%で最も高く、次いで“スクールソーシャルワーカーへの相談”が32.6%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「(あった・行った) よかった」割合は、“学校の先生からの電話などの連絡”が最も高く、特に中学生では小学生に比べて20ポイント以上高くなっています。

一方で、「(なかった・行わなかった) なくて残念だった」の割合は、“学校によるオンラインを活用した学習支援”、“スクールソーシャルワーカーへの相談”が高くなっています。



■小学生・中学生別

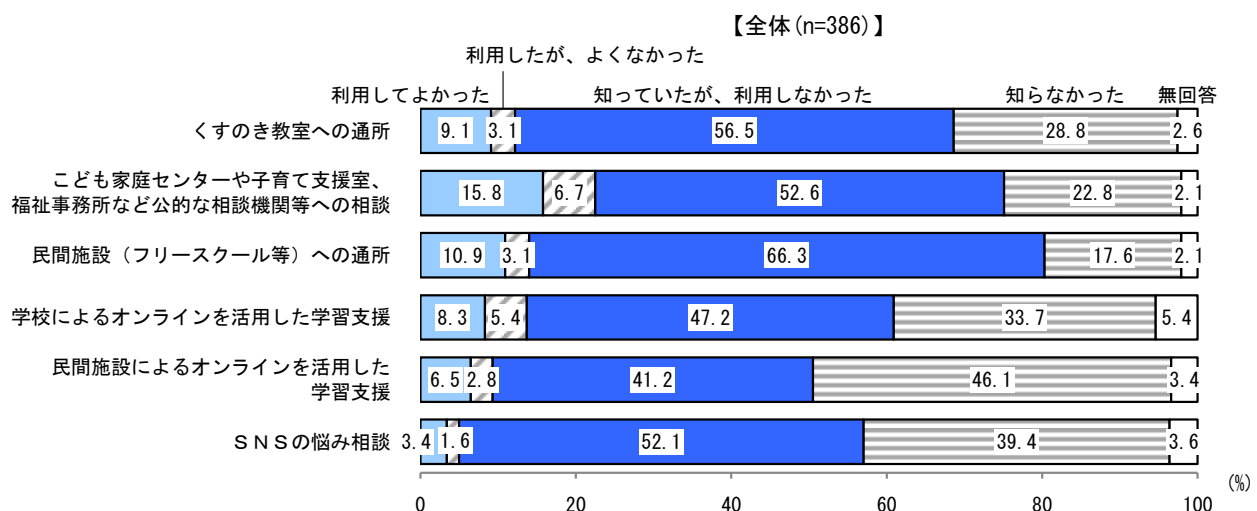


(2) 支援機関の利用状況とその評価

問7 下記の支援機関を知っていますか。また、学校を休んでいる間に利用した支援機関はありますか。利用した場合はその評価についてお答えください。(○は1つずつ)

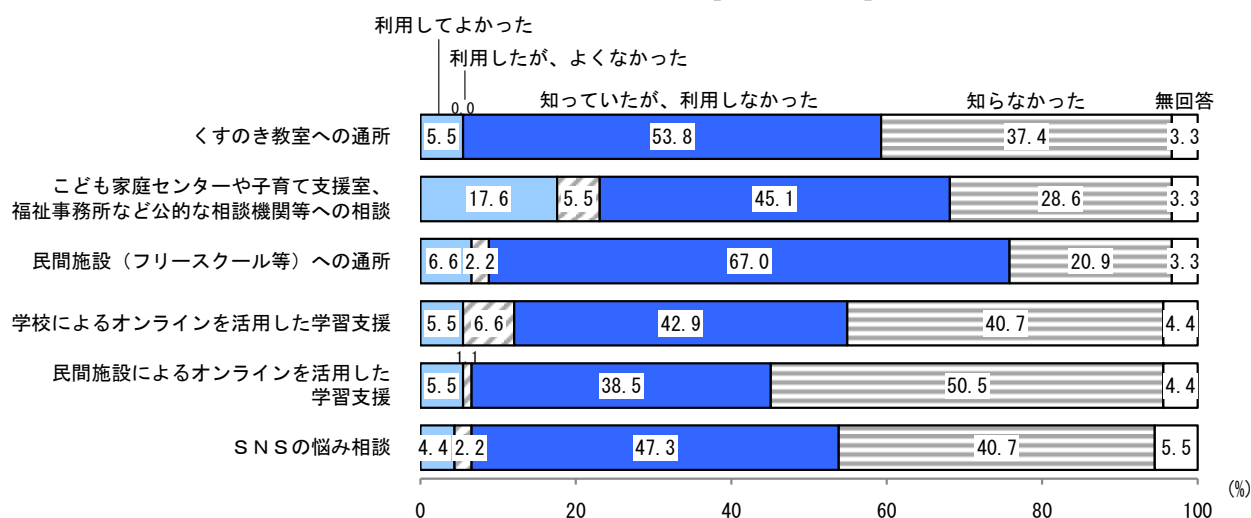
支援機関の利用状況とその評価についてたずねたところ、全体では、「利用してよかった」割合は“こども家庭センターや子育て支援室、福祉事務所など公的な相談機関等への相談”が15.8%で最も高く、次いで“民間施設（フリースクール等）への通所”が10.9%となっています。「利用したが、よくなかった」は“こども家庭センターや子育て支援室、福祉事務所など公的な相談機関等への相談”が6.7%で最も高くなっています。一方で、「知らなかった」の割合は“民間施設によるオンラインを活用した学習支援”が46.1%で最も高く、次いで“SNSの悩み相談”が39.4%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「利用してよかった」割合は“こども家庭センターや子育て支援室、福祉事務所など公的な相談機関等への相談”が最も高くなっています。

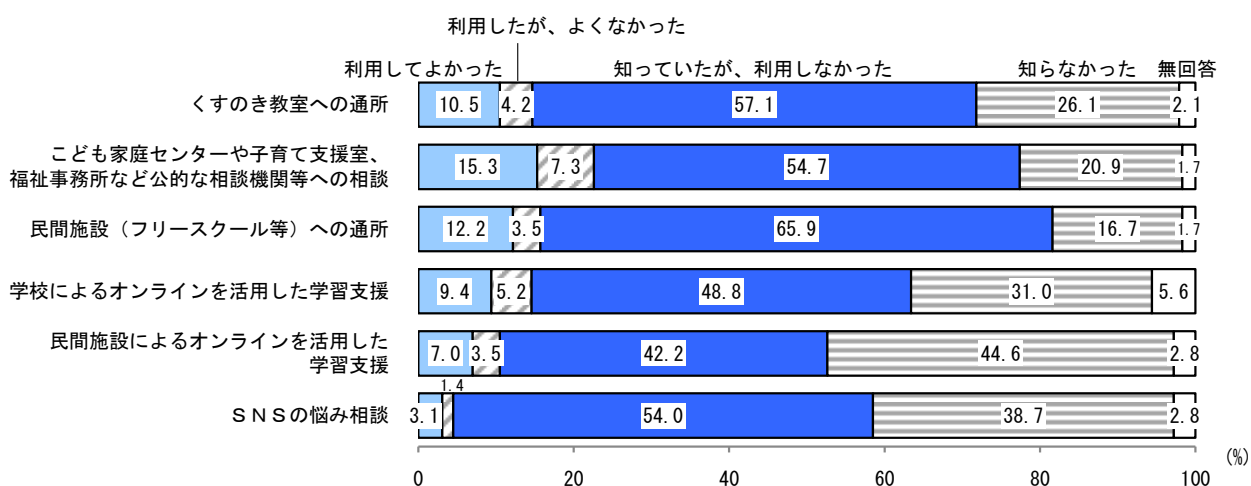


■小学生・中学生別

【小学生 (n=91)】



【中学生 (n=287)】

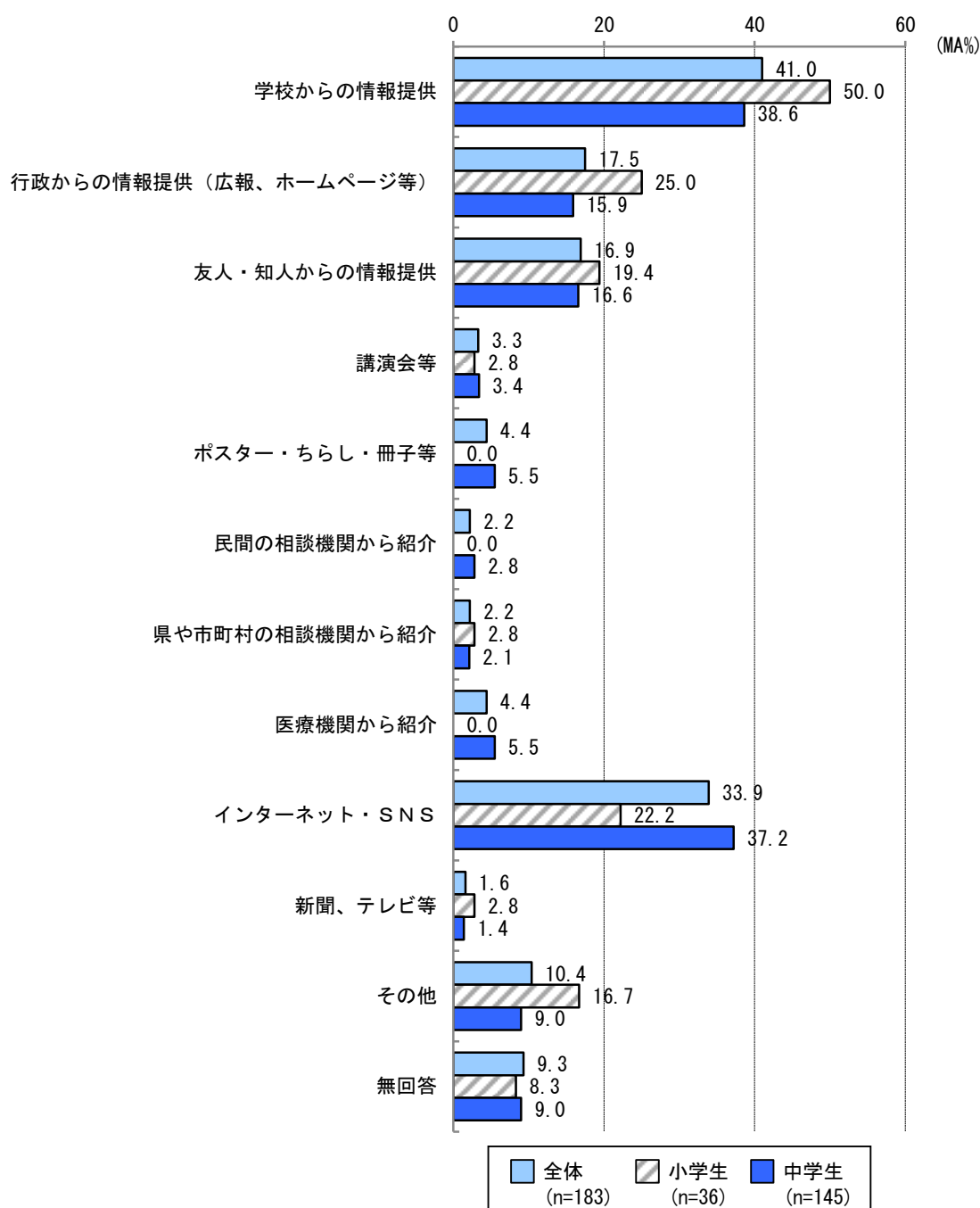


(3) 支援機関を利用したきっかけ

問8～問14は、問7のいずれかで「1」～「2」（利用した）と答えた人にお聞きします。
問8 支援機関を利用したきっかけをお教えてください。（〇はいくつでも）

いずれかの支援機関を利用したと回答した人に、利用したきっかけをたずねると、全体は、「学校からの情報提供」が41.0%で最も多く、次いで「インターネット・SNS」が33.9%、「行政からの情報提供（広報、ホームページ等）」が17.5%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「学校からの情報提供」が最も多くなっています。小学生では「学校からの情報提供」や「行政からの情報提供（広報、ホームページ等）」が中学生比べて高いのに対し、中学生では「インターネット・SNS」が小学生に比べて高くなっています。

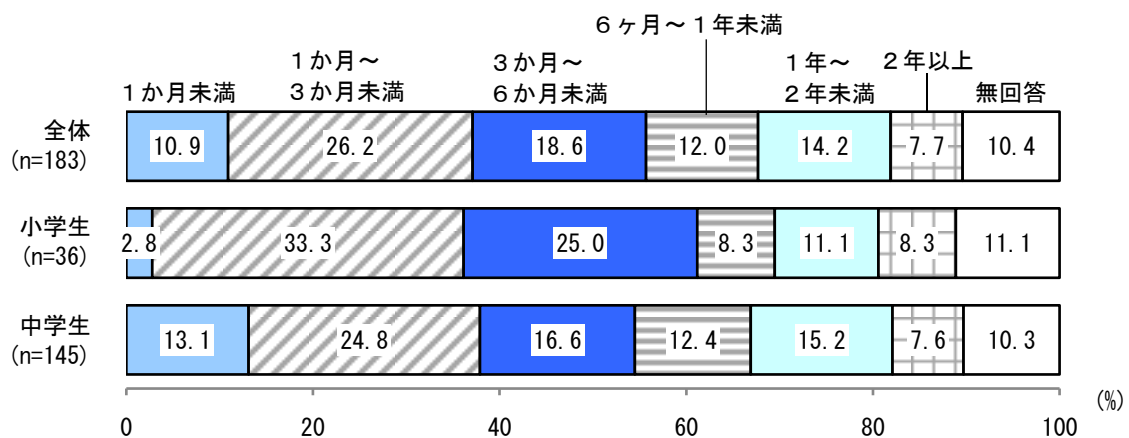


(4) 学校を休むようになってから支援機関を利用するまでの期間

問9 学校を休むようになってから支援機関を利用するまでの期間は、どのくらいでしたか。
(○は1つだけ)

学校を休むようになってから支援機関を利用するまでの期間については、全体は、「1か月～3か月未満」が26.2%で最も多く、次いで「3か月～6か月未満」が18.6%、「1年～2年未満」が14.2%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「1か月～3か月未満」が最も多くなっています。半年未満で支援機関の利用につながっているのは小学生で6割を超えて中学生に比べて高くなっているのに対し、中学生では「1か月未満」が1割を超えて小学生に比べて高くなっています。



(5) 支援機関にかかった費用

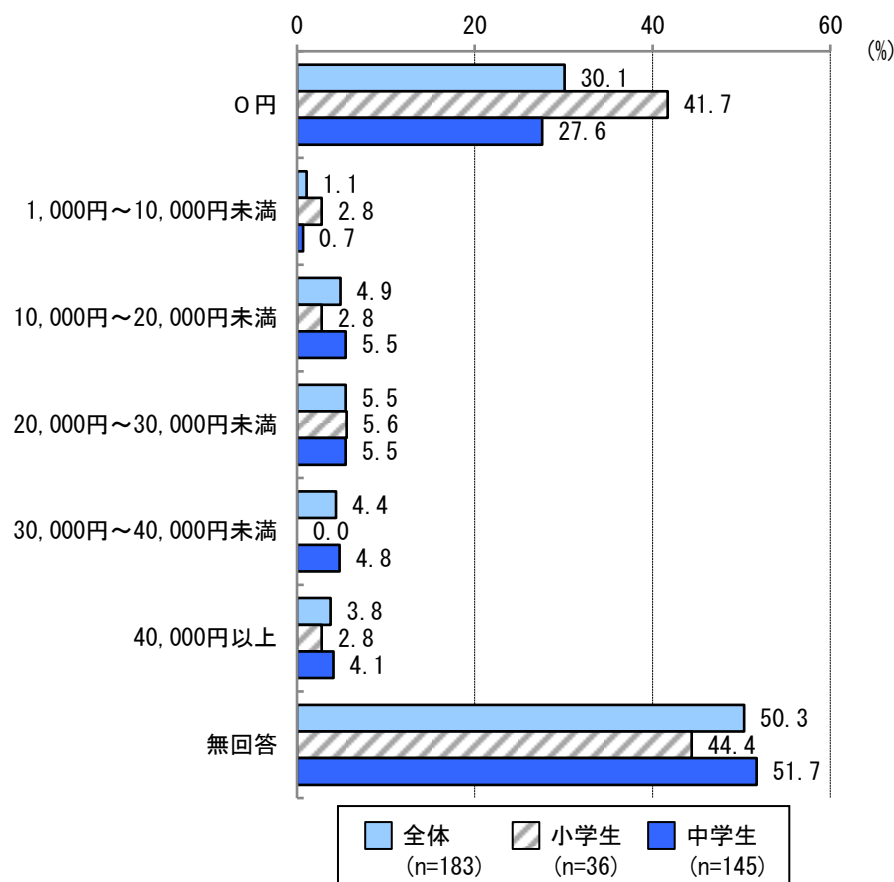
問10 問7で選んだ支援機関にかかった費用について教えてください。

※利用している支援機関が複数ある場合は、合計の金額をご記入ください。

① 入会費

利用した支援機関にかかった費用をたずねたところ、入会費については、全体は、「0円」が30.1%で最も多く、次いで「20,000円～30,000円未満」が5.5%、「10,000円～20,000円未満」が4.9%となっており、平均金額は10,550円となっています。

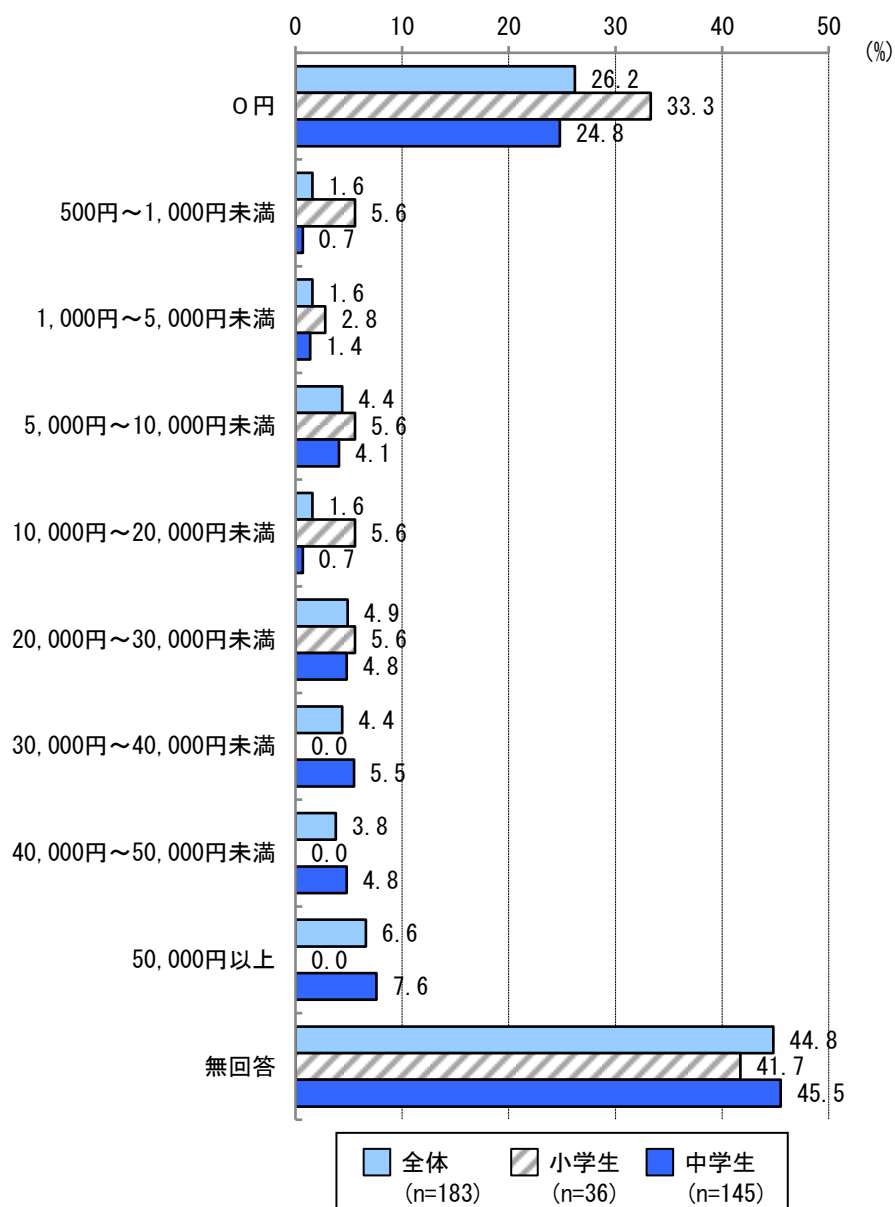
子どもの校種別にみると、平均金額は、小学生では5,550円、中学生では11,700円となっています。



② 毎月の利用料

毎月の利用料については、全体は、「0円」が26.2%で最も多く、次いで「50,000円以上」が6.6%、「20,000円～30,000円未満」が4.9%となっており、平均金額は15,046円となっています。

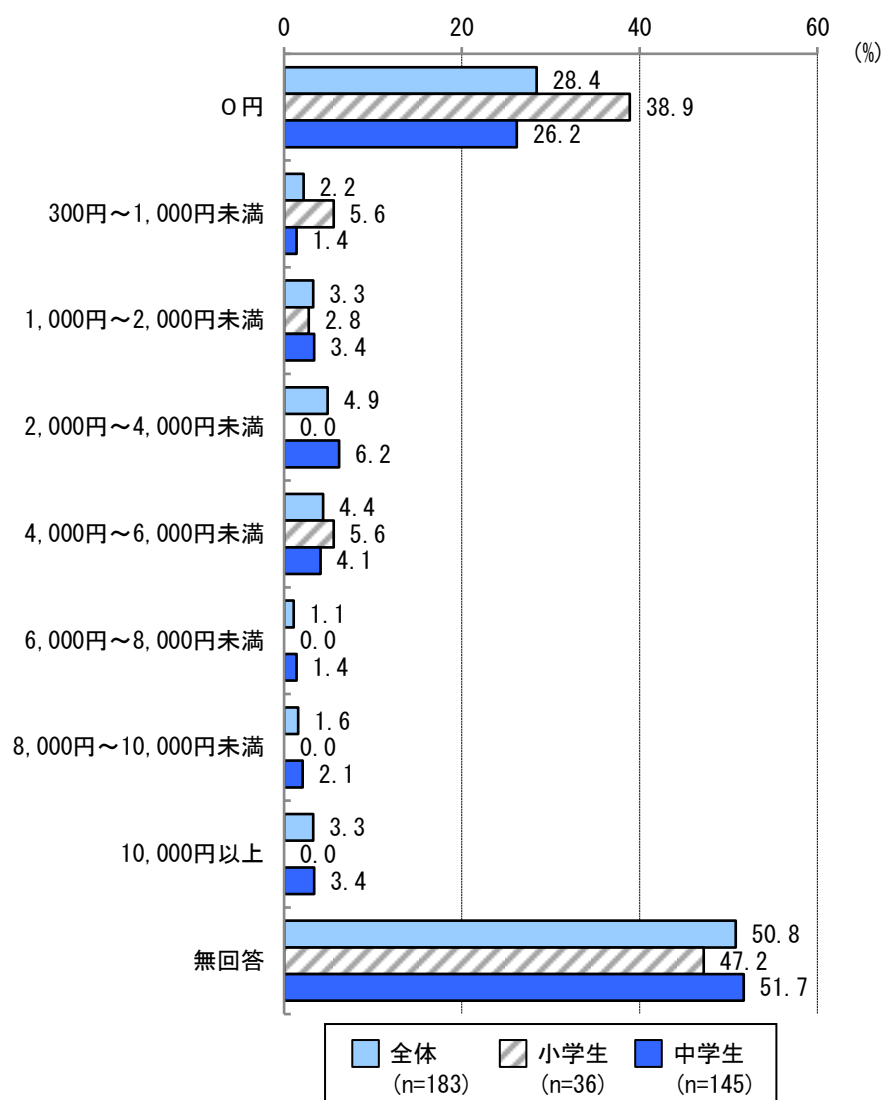
子どもの校種別にみると、平均金額は、小学生では4,537円、中学生では17,444円となっています。



③ 毎月の交通費

毎月の交通費については、全体は、「0円」が28.4%で最も多く、次いで「2,000円～4,000円未満」が4.9%、「4,000円～6,000円未満」が4.4%となっており、平均金額は2,182円となっています。

子どもの校種別にみると、平均金額は、小学生では639円、中学生では2,489円となっています。

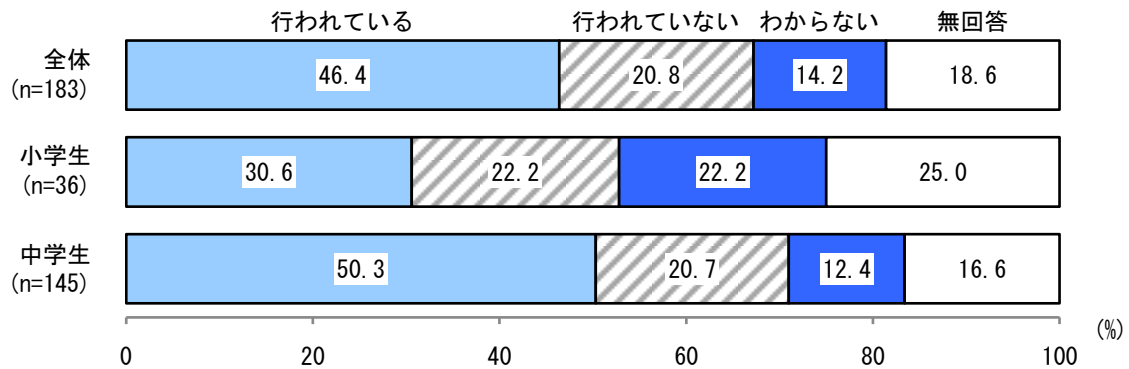


(6) 支援機関での出席認定

問11 問7で選んだ支援機関で、出席認定が行われていますか。(SNSの悩み相談は除く)
(○は1つだけ)

利用した支援機関で出席認定が行われているかについては、全体は、「行われている」が46.4%、「行われていない」が20.8%となっています。

子どもの校種別にみると、「行われている」の割合は、小学生では30.6%、中学生では50.3%となっています。

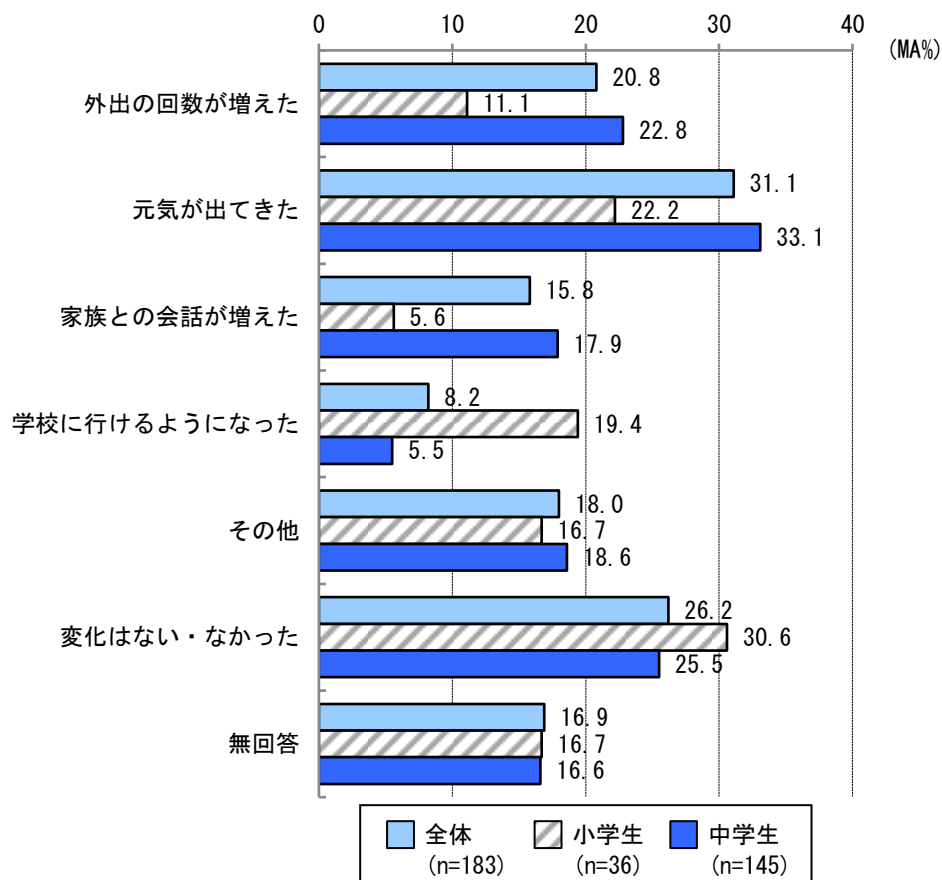


(7) 支援機関を利用し始めてからの子どもの変化

問12 支援機関を利用し始めてから、お子さまに変化はありましたか。(〇はいくつでも)

支援機関を利用し始めてからの子どもの変化については、全体は、「元気が出てきた」が31.1%で最も多く、次いで「外出の回数が増えた」が20.8%、「家族との会話が増えた」が15.8%となっています。一方で、「変化はない・なかった」は26.2%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「元気が出てきた」が最も多くなっています。また、小学生では「学校に行けるようになった」が中学生に比べて10ポイント以上高くなっています。

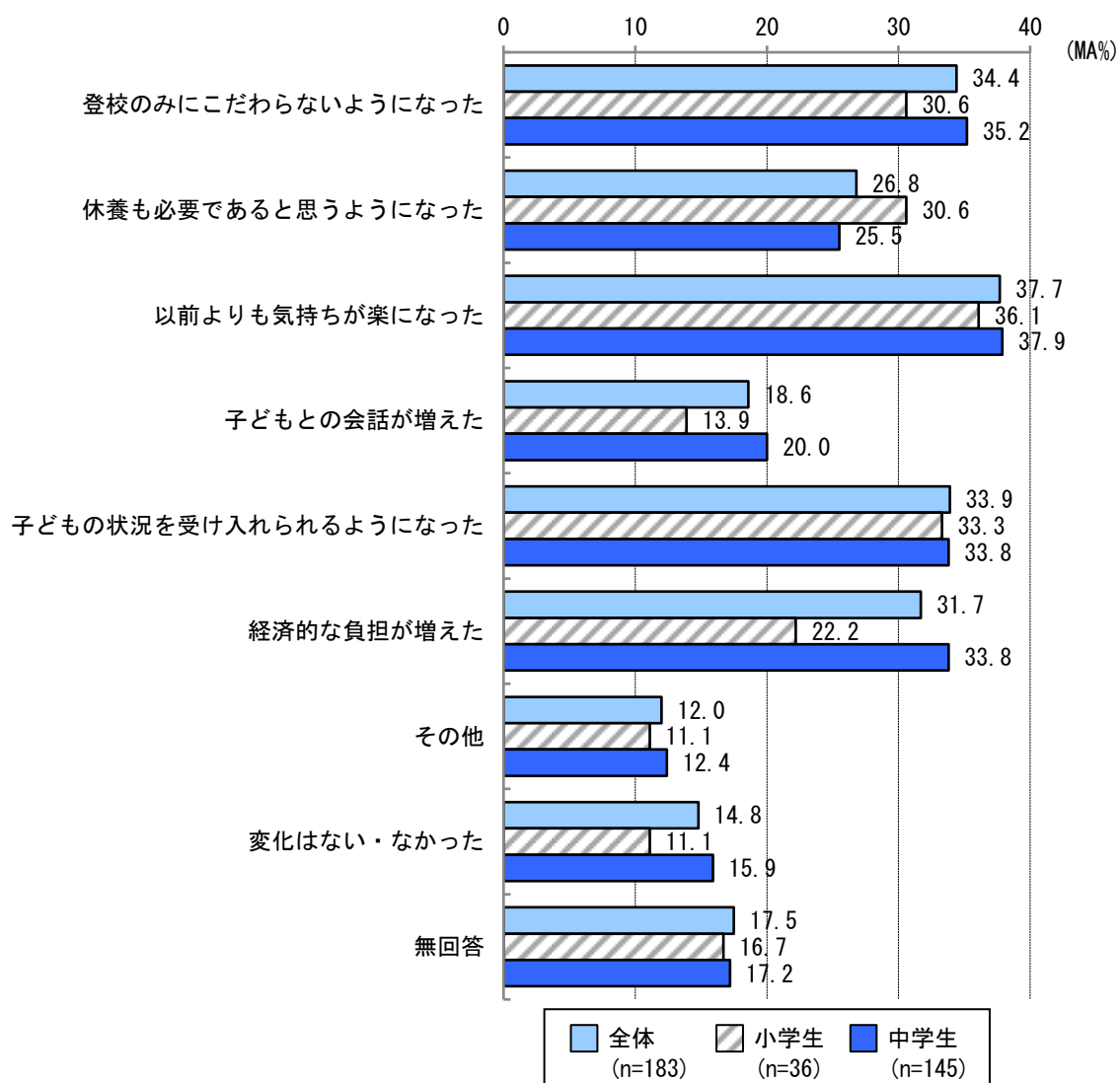


(8) 支援機関を利用し始めてからの家庭の変化

問13 支援機関を利用し始めてから、ご家族に変化はありましたか。(〇はいくつでも)

支援機関を利用し始めてからの家庭の変化については、全体は、「以前よりも気持ちが楽になった」が37.7%で最も多く、次いで「登校のみにこだわらなくなった」が34.4%、「子どもの状況を受け入れられるようになった」が33.9%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「以前よりも気持ちが楽になった」が最も多くなっています。また、中学生では「子どもとの会話が増えた」や「経済的な負担が増えた」が小学生に比べて大きく上回っています。

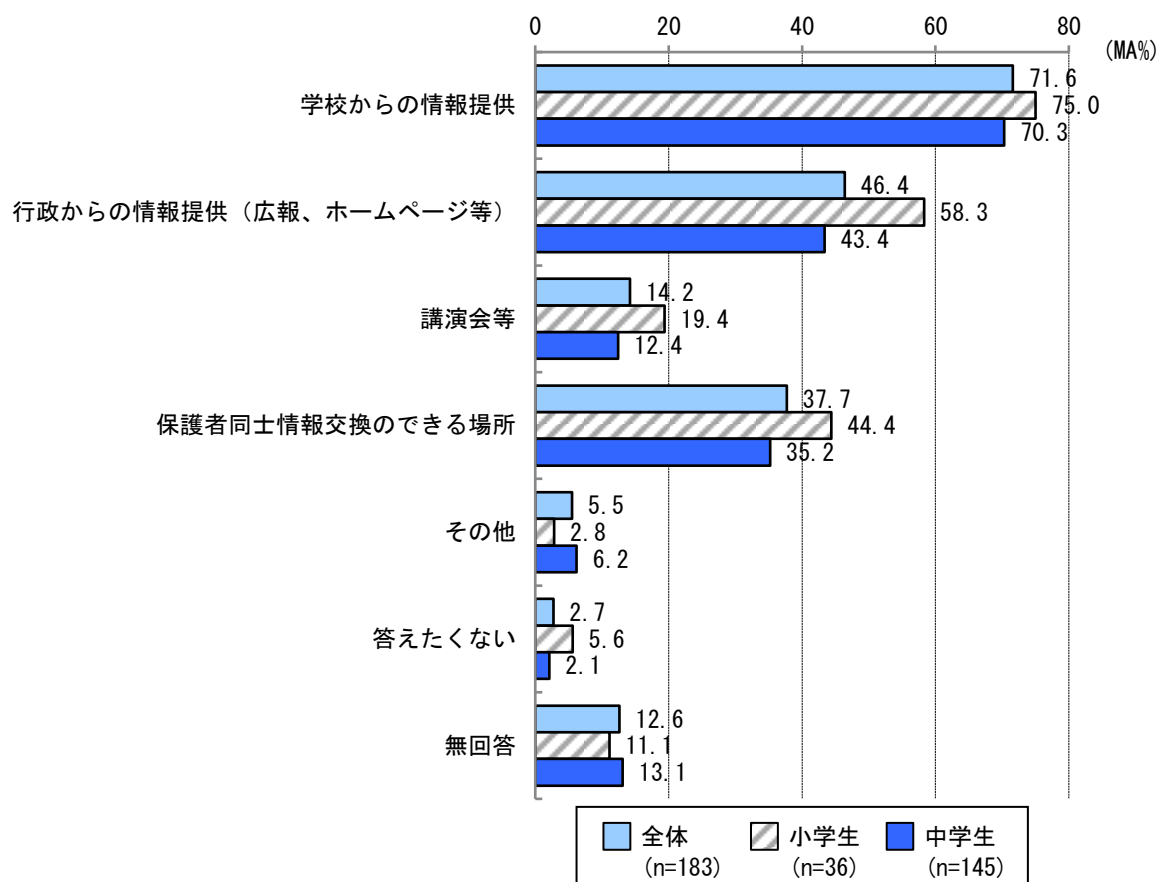


(9) 支援機関を知るための方法

問14 支援機関を知るために、どのような方法があればいいと思いますか。(〇はいくつでも)

支援機関を知るための方法については、全体は、「学校からの情報提供」が71.6%で最も多く、次いで「行政からの情報提供（広報、ホームページ等）」が46.4%、「保護者同士情報交換のできる場所」が37.7%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「学校からの情報提供」が最も多く、次いで「行政からの情報提供（広報、ホームページ等）」、「保護者同士情報交換のできる場所」となっています。また、小学生では、「行政からの情報提供（広報、ホームページ等）」、「保護者同士情報交換のできる場所」で中学生に比べて高くなっている。



(10) 支援機関を利用しなかった理由

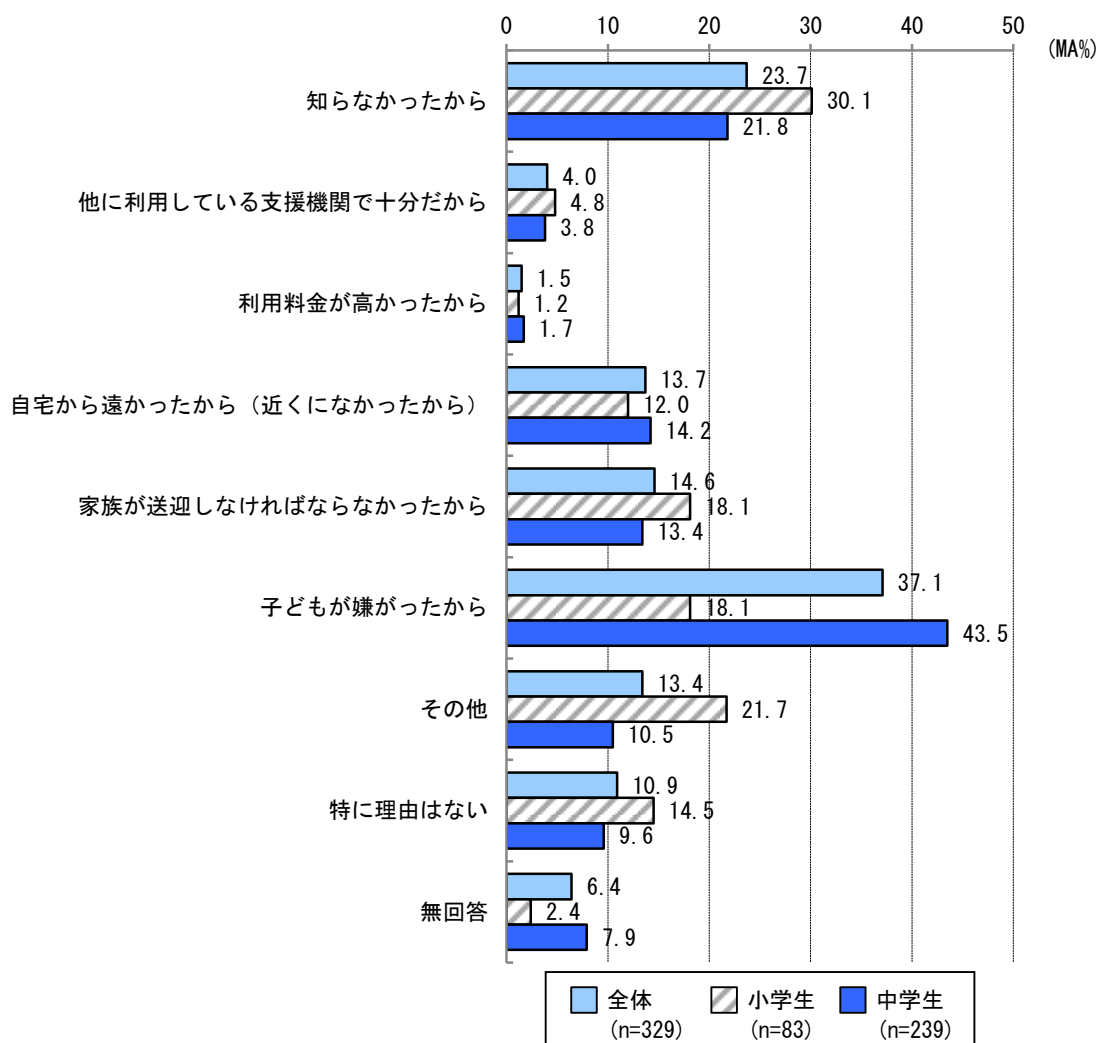
問7のいずれかで「3」～「4」（利用しなかった）と答えた人にお聞きします。
 問15 支援機関を利用しなかった理由は何ですか。（それぞれ〇はいくつでも）

支援機関を利用しなかったと回答した人に、その理由を支援機関別にたずねました。

① くすのき教室への通所

全体は、「子どもが嫌がったから」が37.1%で最も多く、次いで「知らなかったから」が23.7%、「家族が送迎しなければならなかったから」が14.6%となっています。

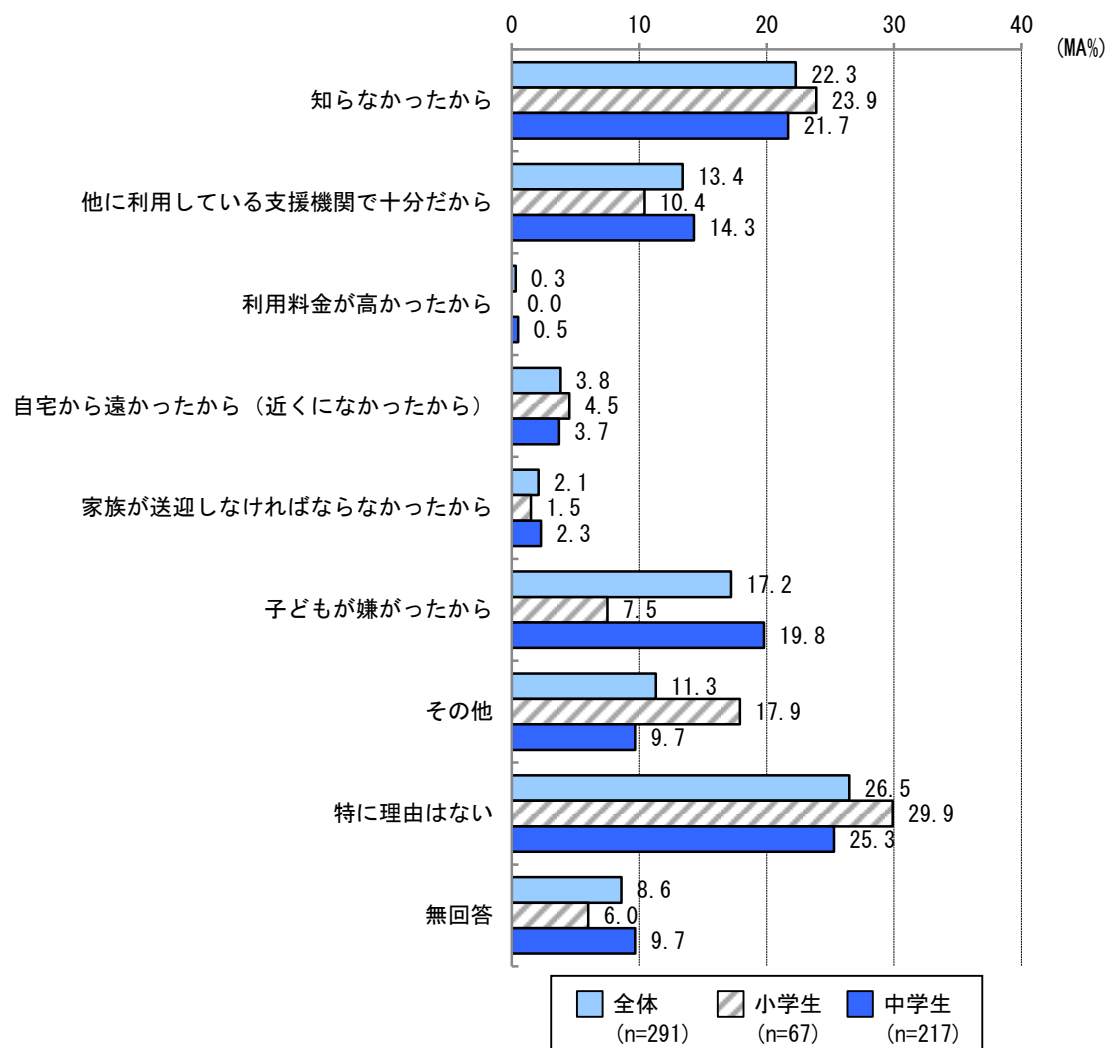
子どもの校種別にみると、小学生では「知らなかったから」が中学生に比べて高く、中学生では「子どもが嫌がったから」が小学生に比べて高くなっています。



② こども家庭センターや子育て支援室、福祉事務所など公的な相談機関等への相談

全体は、「特に理由はない」が26.5%で最も多く、次いで「知らなかったから」が22.3%、「子どもが嫌がったから」が17.2%となっています。

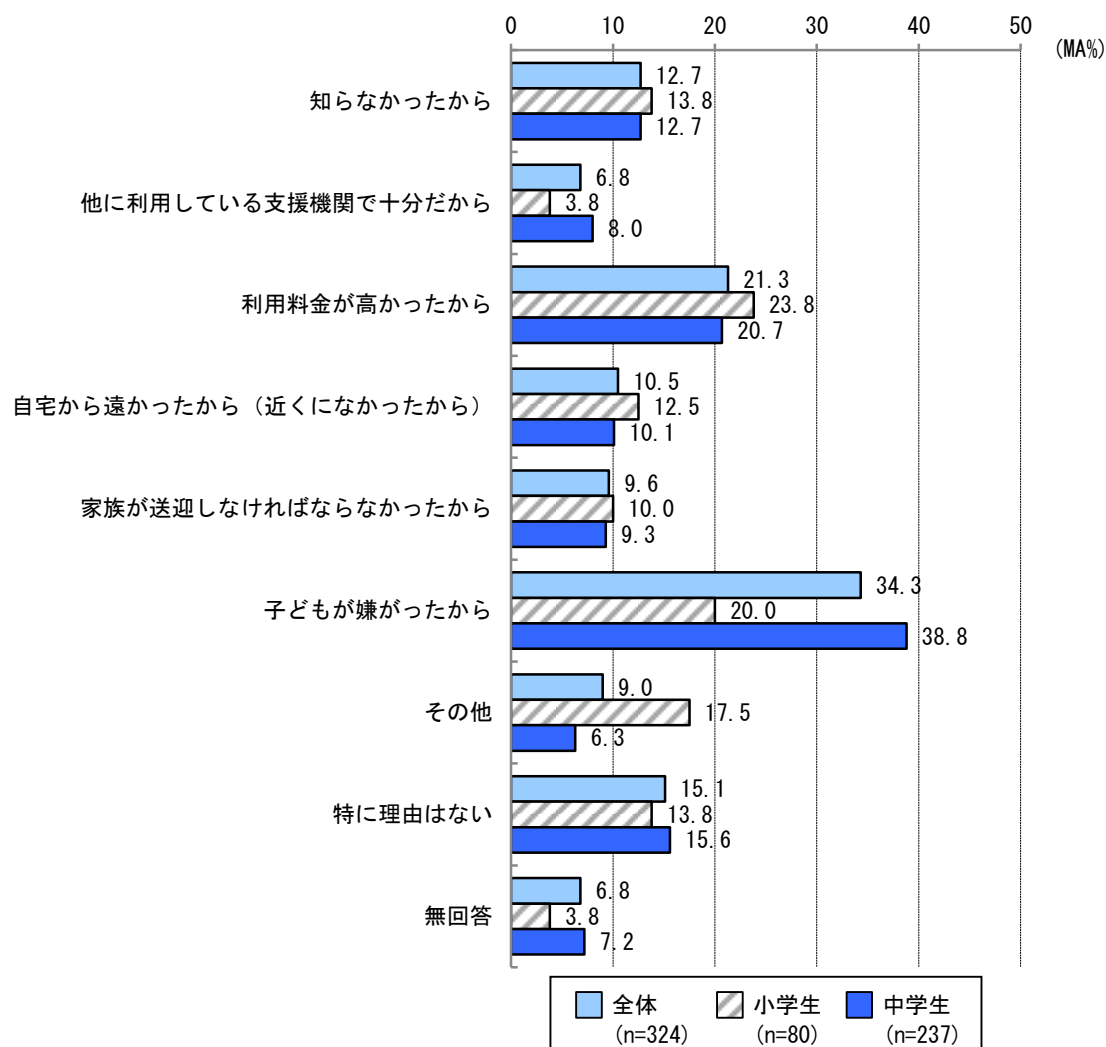
子どもの学年別にみると、中学生では「子どもが嫌がったから」が小学生に比べて高くなっています。



③ 民間施設（フリースクール等）への通所

全体は、「子どもが嫌がったから」が34.3%で最も多く、次いで「利用料金が高かったから」が21.3%、「特に理由はない」が15.1%となっています。

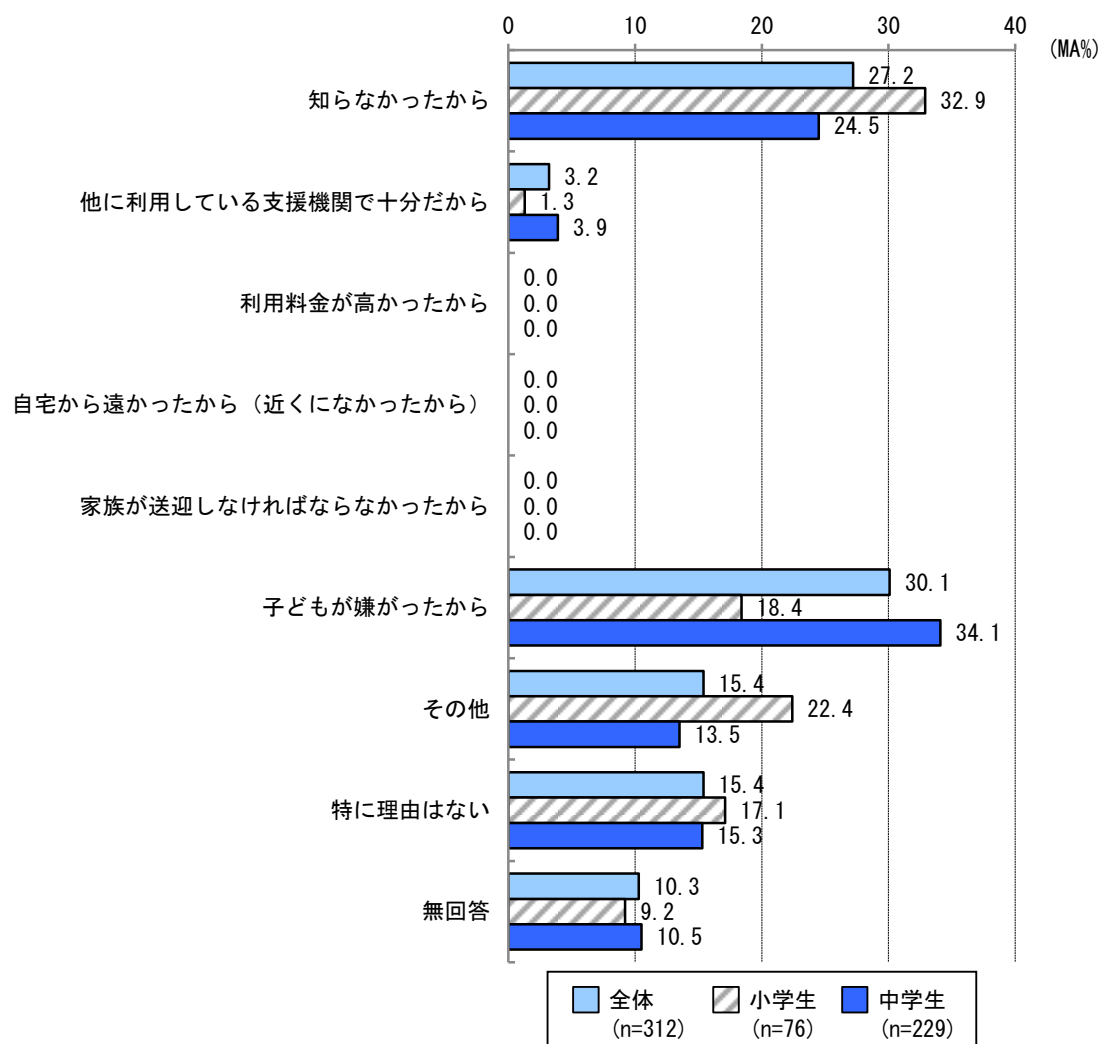
子どもの学年別にみると、中学生では「子どもが嫌がったから」が小学生に比べて高くなっています。



④ 学校によるオンラインを活用した学習支援

全体は、「子どもが嫌がったから」が30.1%で最も多く、次いで「知らなかったから」が27.2%、「特に理由はない」が15.4%となっています。

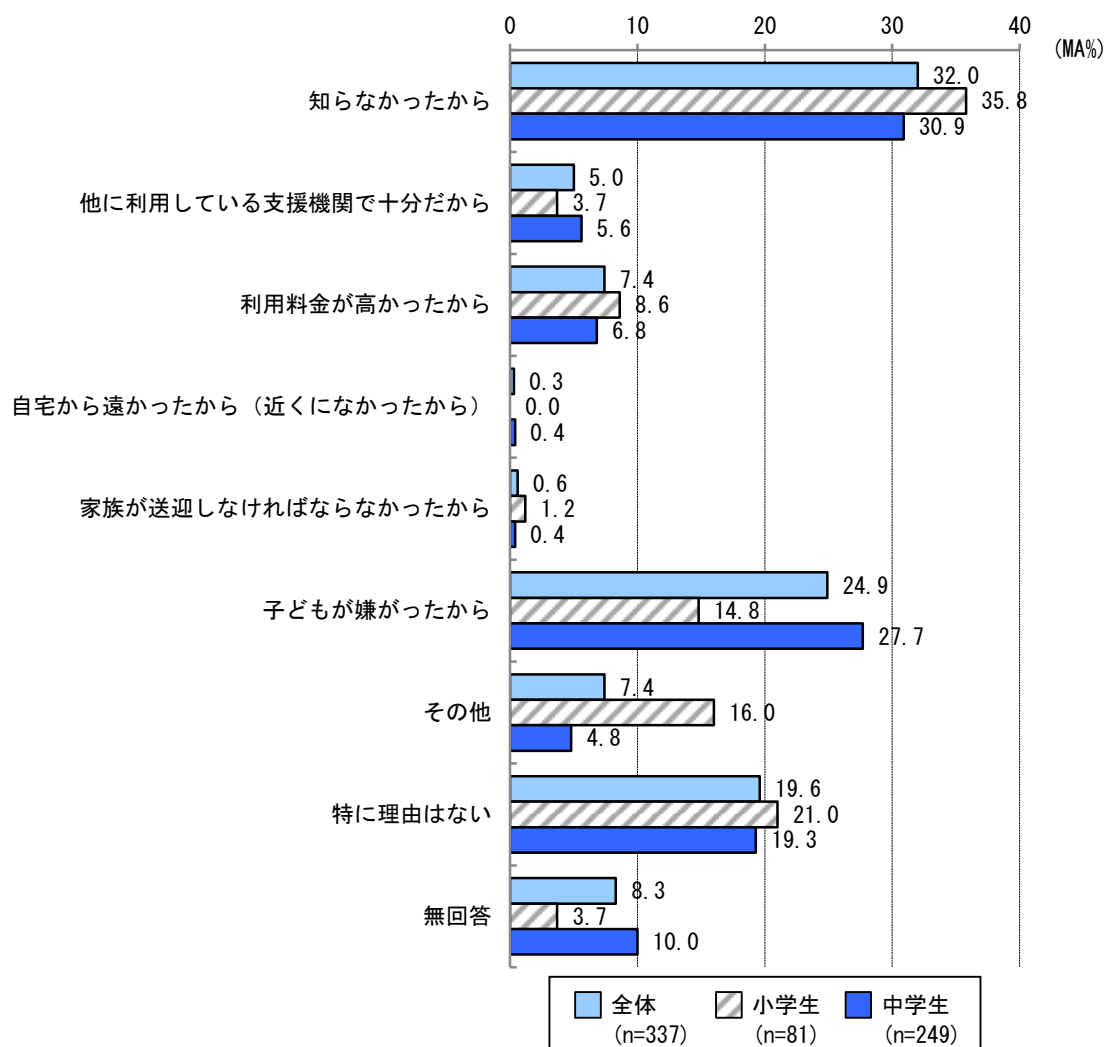
子どもの校種別にみると、小学生では「知らなかったから」が中学生に比べて高く、中学生では「子どもが嫌がったから」が小学生に比べて高くなっています。



⑤ 民間施設によるオンラインを活用した学習支援

全体は、「知らなかったから」が32.0%で最も多く、次いで「子どもが嫌がったから」が24.9%、「特に理由はない」が19.6%となっています。

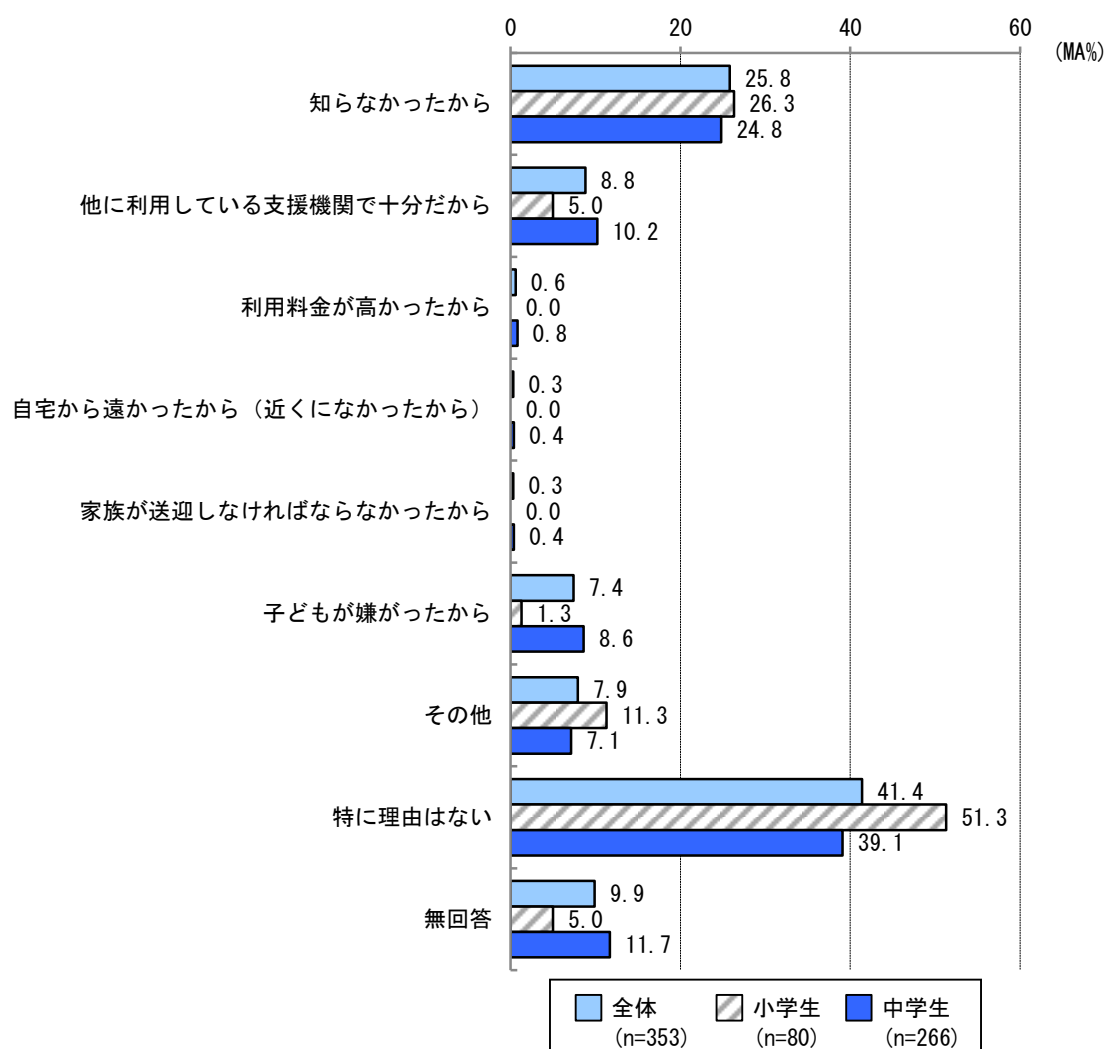
子どもの学年別にみると、中学生では「子どもが嫌がったから」が小学生に比べて高くなっています。



⑥ SNSの悩み相談

全体は、「特に理由はない」が41.4%で最も多く、次いで「知らなかったから」が25.8%、「他に利用している支援機関で十分だから」が8.8%となっています。

子どもの学年別にみると、小学生では「特に理由がない」が中学生に比べて高く、中学生では「子どもが嫌がったから」が小学生に比べて高くなっています。

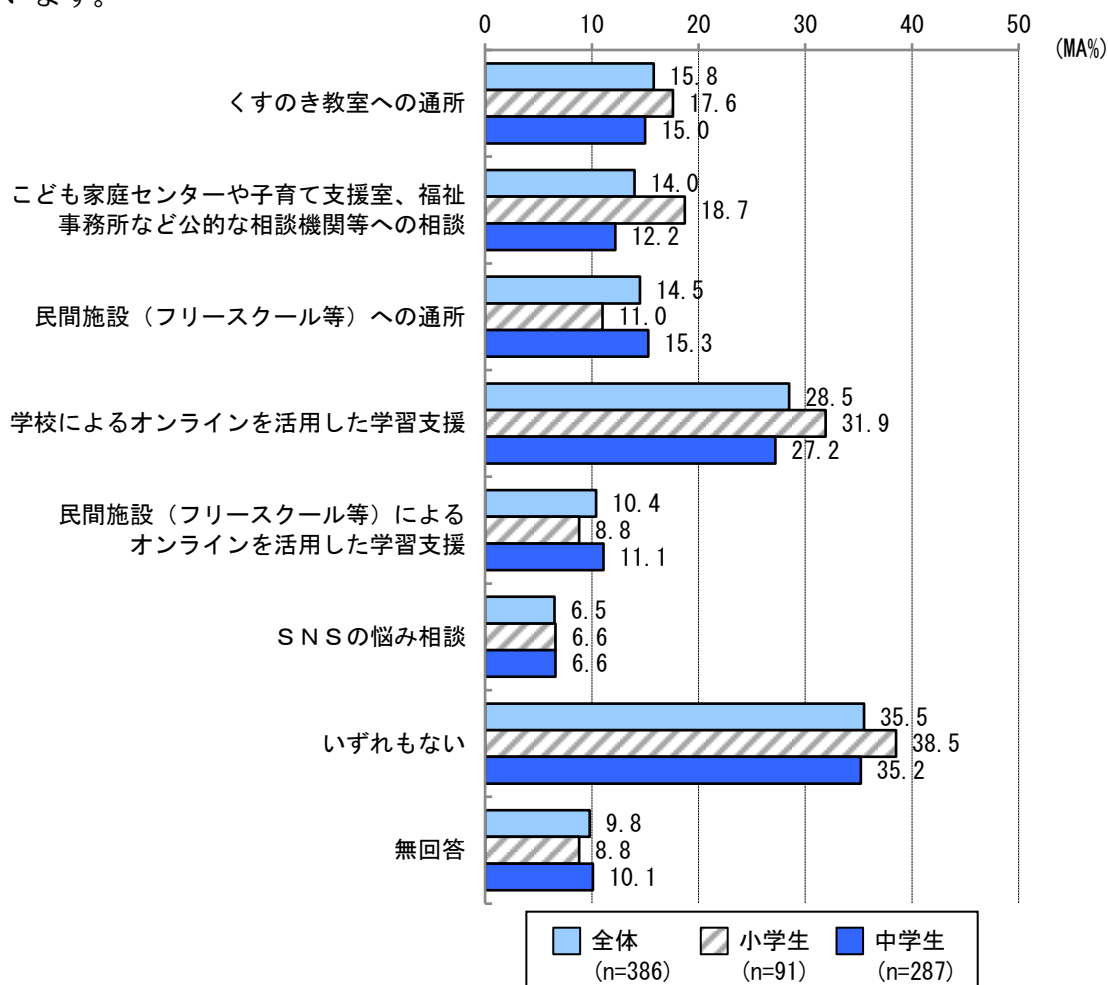


(11) 利用したい支援機関

問16 今後、利用したい支援機関はありますか。(○はいくつでも)

今後、利用したい支援機関については、全体は、「いずれもない」が35.5%で最も多くなっています。具体的な支援機関では、「学校によるオンラインを活用した学習支援」が28.5%で多く、次いで「くすのき教室への通所」が15.8%、「民間施設（フリースクール等）への通所」が14.5%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「いずれもない」が最も多くなっています。また、小学生では「こども家庭センターや子育て支援室、福祉事務所など公的な相談機関等への相談」や「学校によるオンラインを活用した学習支援」で中学生に比べて高くなっています。



(12) 利用したい具体的な民間施設と費用

問16で、「民間施設（フリースクール等）」または「民間施設（フリースクール等）によるオンラインを活用した学習支援」と答えた人にお聞きします。

問16-1 具体的な施設名、費用を教えてください。

①入会費

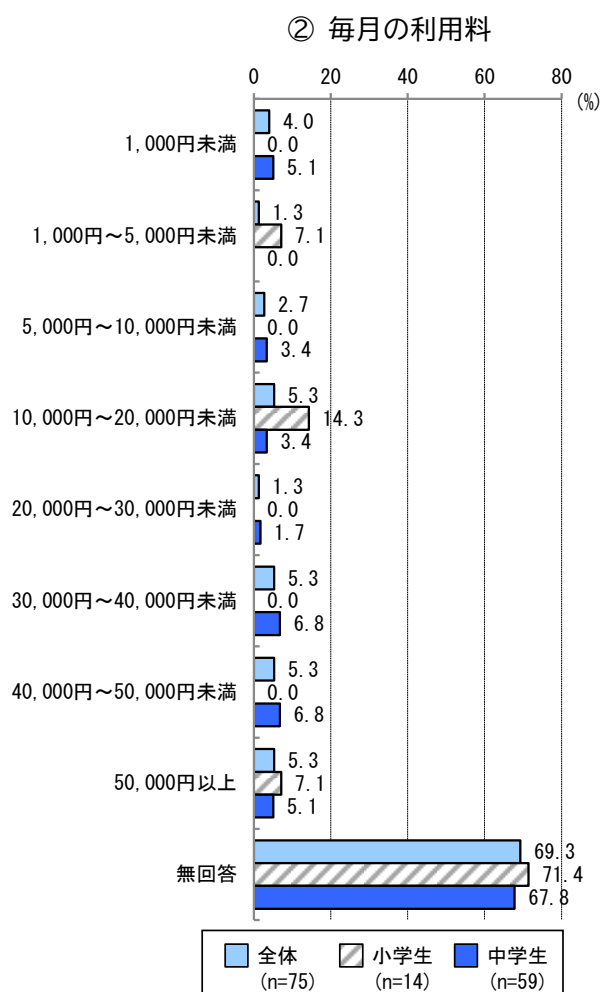
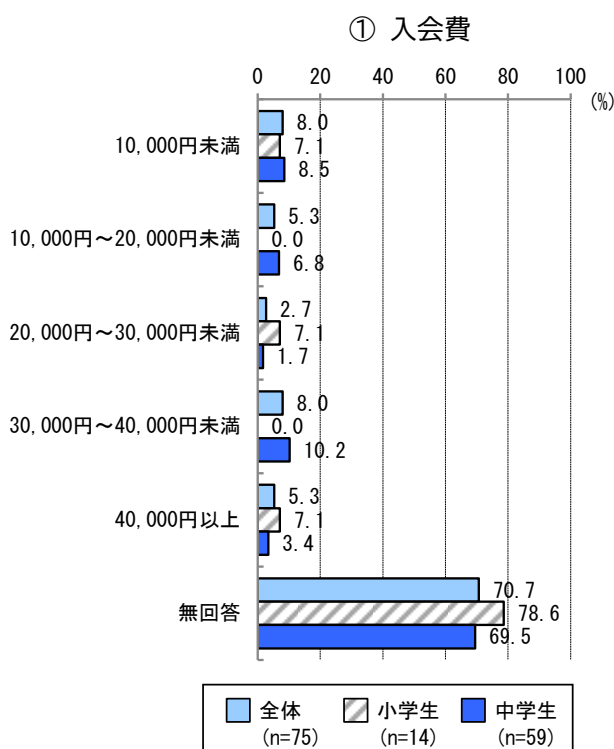
利用したい支援機関の入会費については、全体は、「10,000円未満」と「30,000円～40,000円未満」がそれぞれ8.0%で最も多く、次いで「10,000円～20,000円未満」と「40,000円以上」がそれぞれ5.3%となっています。

子どもの校種別にみると、中学生では、「30,000円～40,000円未満」が最も多く、学年が高いほど費用が高くなっています。

②毎月の利用料

毎月の利用料については、全体は、「10,000円～20,000円未満」、「30,000円～40,000円未満」、「40,000円～50,000円未満」、「50,000円以上」がそれぞれ5.3%で最も多くなっています。

子どもの校種別にみると、小学生では「10,000円～20,000円未満」、中学生では「30,000円～40,000円未満」と「40,000円～50,000円未満」が最も多く、学年が高いほど費用が高くなっています。



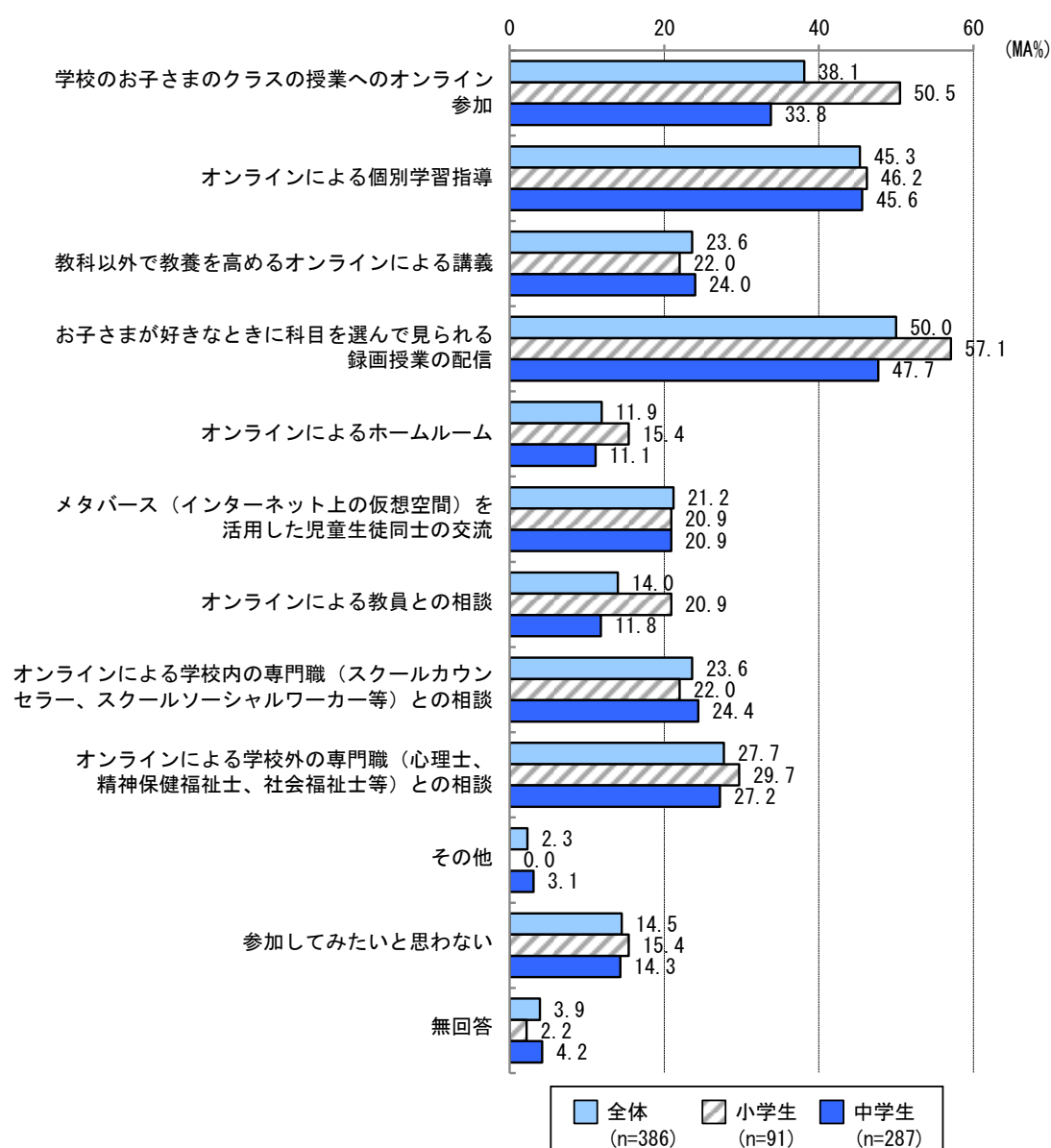
3. 必要な相談、支援について

(1) 参加させたいインターネットによる支援

問17 インターネットを利用する支援で、お子さまに参加させたいと思うものはありますか。
(〇はいくつでも)

子どもに参加させたいと思うインターネットによる支援については、全体は、「お子さまが好きなときに科目を選んで見られる録画授業の配信」が50.0%で最も多く、次いで「オンラインによる個別学習指導」が45.3%、「学校のお子さまのクラスの授業へのオンライン参加」が38.1%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生・中学生ともに、「お子さまが好きなときに科目を選んで見られる録画授業の配信」が最も多くなっています。また、小学生では「学校のお子さまのクラスの授業へのオンライン参加」や「お子さまが好きなときに科目を選んで見られる録画授業の配信」、「オンラインによる教員との相談」で中学生に比べて高くなっています。

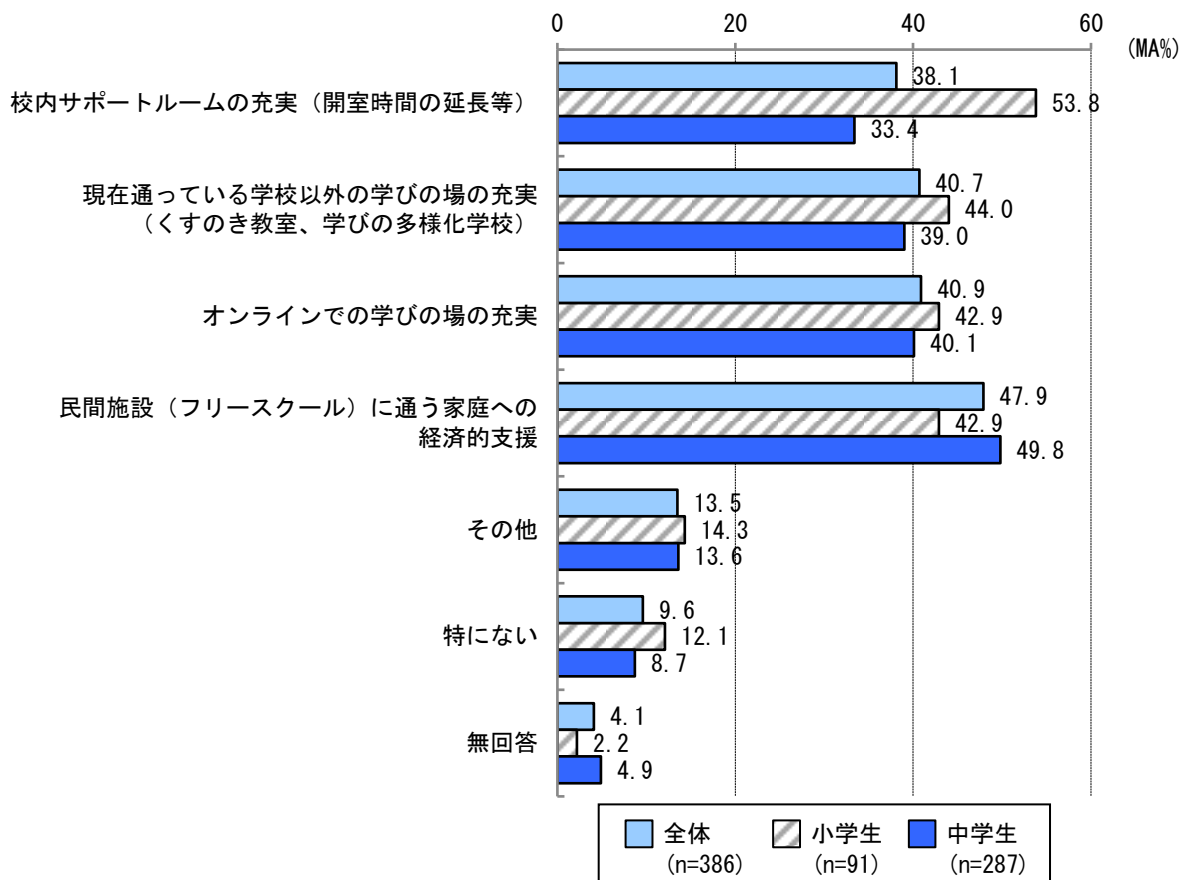


(2) 今後、市に力を入れてほしい支援

問18 今後、神戸市に力を入れてほしい支援は何ですか。(〇はいくつでも)

今後、神戸市に力を入れてほしい支援については、全体は、「民間施設（フリースクール）に通う家庭への経済的支援」が47.9%で最も多く、次いで「オンラインでの学びの場の充実」が40.9%、「現在通っている学校以外の学びの場の充実（くすのき教室、学びの多様化学校）」が40.7%となっています。

子どもの校種別にみると、小学生では「校内サポートルームの充実（開室時間の延長等）」が半数を超えて、中学生に比べて20ポイント以上高くなっています。また、中学生では「民間施設（フリースクール）に通う家庭への経済的支援」が小学生に比べて高くなっています。



(3) 学校に通いづらい児童生徒への支援についての意見（自由記述）

問19 学校に通いづらい児童生徒への支援について、ご意見をお聞かせください。

学校に通いづらい児童生徒への支援について、ご意見・ご要望を自由に記述していただいたところ、220人から意見が寄せられました。

その中から抜粋した主な意見は次のとおりです。原則として原文のまま掲載していますが、明らかな誤り、個人情報、誤字・脱字は修正しています。

①学校や教職員の対応について

- ・「学校に行けない子」が増えているのは「子どもが行きたいと思う学校」が減っているからだと思っています。
- ・今の学校に通わせることや、ただの学校のような居場所を作ることで行政の支援を受けても子どもにとっては苦しいだけだと思っています。
- ・勉強がついていけない生徒に対し学校は優しくないと感じることもある。授業中、手を挙げていないのに当てて、みんなの前で恥をかかせ、嫌な思いをさせることで子どもは傷つき、学校に行くことが辛くなります。
- ・学校に合わせるのではなく、子どもに合わせた教育法を考えてほしい。
- ・現在、登校はできているものの、教室では授業を受けることに抵抗があるようです。理由はつまらない、何度も同じことを繰り返す等です。
- ・学びたい、友達としゃべりたいのに学校に行けず、家にこもっている子どももいることも知ってほしい。
- ・学校に通いづらいというか、学校という制度の変革期にきているのだと思います。
- ・少人数制の導入や、行きたい学校を選べるなど、選択肢が増えていけばいいなと思います。
- ・行きづらいわけではなく行きたいとは思わない学校環境、教師の偏った世界観が問題だと思う。
- ・子供一人一人に合った学校が増えて安心して普通に勉強や遊びができるようにしてほしいです。
- ・学校の学習環境そのものが荒れていると感じます。
- ・授業を妨害する生徒は教室に居続けて、騒音や怒鳴り声が苦手な生徒がサポートルームに追いやられている現状は異常です。
- ・様々な理由で仕方ないことだと思いますが、昔と比べて校内のルールが厳しすぎることも原因の一つではないかと思います。
- ・小学生を子ども扱いしない教師の育成をしてほしい。
- ・現状をありのまま受け止めてくれるだけで、子供自身も心が救われることが多々ある。
- ・学校での科目(国、算など)が簡単すぎて、毎日何のために学校で座っているのか？意味のない時間を過ごしているような気持ちになるなど、科目によっては個々の能力ごとに勉強ができると「行く意味がわからない」という気持ちの解消になってくれるのではないかと思います。
- ・一緒に悩んでくれる存在の方がいれば少しは負担が軽くなりました。手を煩わせない子どもの方が教師に負担にならずに楽なんでしょうか。もっと楽しく、押し付けではない学校現場を望みます。このままではさらに学力低下が進むと思います。
- ・学校に行きづらくても学習出来そうであれば、授業その他について自宅でも学校の情報を共有出来れば学習遅れでの不登校は無かったかと思っています。
- ・こどもが学校に通えなくなってからの最初の時期がものすごく悩みしんどかった。担任からも連絡がなく、1週間、10日と過ぎても連絡がなく、クラスから置いていかれたと思い悲しかった。

- ・不登校だった子どもが担任の先生のおかげで前向きになれたこともあり、そう思いました。不登校だった子に対する提出物の時の一言が足りなかったり、各教科の先生によって対応が良くなかったのも、不登校の子が久しぶりに学校に来たことを、どの先生でもわかるようにしてほしいと思いました。
- ・親としては、まずは学校と相談しながら対応したいと思っていたが、なかなか学校の先生との意思疎通がうまくいかないことがあった。先生方も一所懸命対応してくださっていたと思うが、センシティブになっている親の気持ちに対して引っかかるような言葉もあった。

②学校外の支援先について

- ・児童に対しての寄り添いが難しいのであれば、先生方の方からSCへの紹介、学校以外での学びの場の紹介があれば出席日数も増えていたかもと考えてしまいます。
- ・不登校になった時に利用できるサポート(学び、集える場など)一覧にして情報を渡していただけるとありがたいです。
- ・神戸市のウェブページに載っているような情報さえ提供されたことがない。具体的な選択肢として考えられるような情報提供をしてほしい。
- ・ちょうど不登校になった早い時点で校内サポートルームが始まり、そこが本人と合っていたため、今もそこを中心にクラスに戻れるよう模索している。
- ・不登校になりそうな段階で学校からの発信の情報ではなく他の神戸市のホームページなどで学校以外から分かりやすく情報が得られる場所を支援してほしい。
- ・家庭に必要なのは、すぐに使える具体的な支援とその提案だと思います。学校に必要なのは、縛りを感じている子どもや先生の負担が減るような、外部からの働きかけではないでしょうか。

③オンラインによる支援について

- ・オンライン授業、録画授業の充実を図れば、学校に通いづらい生徒の支援につながると思います。
- ・子どもの通う学校(公立中)でオンライン授業はなかった。休みが長期化すると勉強の遅れがあり、自習で学ぶ難しさがあった。オンラインで授業を受けられるようになるといいなと切実に感じた。
- ・オンラインで個別でその子の能力に合わせて勉強できる環境を作してほしい。
- ・家庭で45分授業をするというのは難しいので疑似体験をする意味でもオンラインの授業を配信してもらいたいと思いました。
- ・学校という集団生活が本人の性格的に難しいのでオンラインでホームルームや授業に参加できるシステムが整っていればいいなと思います。
- ・全ての授業をオンラインで受けられるようにしてほしい。

④校内サポートルームについて

- ・校内サポートルームは毎日開いていてありがたいが、一部屋しかなく、カードゲーム等をしたりおしゃべりしていたりとなかなか騒がしい。
- ・サポートルームの開室の時間が学校によってバラバラなので、どこの学校でも1限から6限まで過ごせるようになって欲しい。
- ・サポートルーム開校は本当にありがたいのですが、共働き世代が多い中、8:40~13:30までというのは送り迎え必須の年代には大変厳しい現状です。

⑤学習支援について（評価含む）

- ・技術や家庭科などもフォローしていただける場所があるとうれしいなと思いました。教材だけ渡されて終わりでした。
- ・教材の配布、説明が不十分で我が子は全容を把握できないまま提出物の有無を自力で確認し、準備しています。これは学校が苦手な生徒には過酷だと思います（例：「ワーク」と書いていても、その名の問題集はなかったりします。学校での呼び名を知らないのです。）
- ・できれば通知簿、1 とつけずに－にしていただけないでしょうか？テストを受けていないのだから仕方ないのかもしれませんが、何もできなかったということを、常に気にしている本人たちに改めてクギをさされているようで毎度しんどい思いをします。

⑥保護者支援について（親同士の交流含む）

- ・親同士の集まりや交流がもう少し気軽な感じであれば参加してみたいです。
- ・悩んでいる親同士（先生たちよりも、もっと色んな情報を自分たちで探しているから詳しいはず）で色んな情報を交換し合ったり、励まし合ったり、当事者同士でわかり合える話ができる場所や、神戸市内だけで親同士のグループLINE、チャットなどできる場があれば心が救われる方も多いのではと思います。
- ・ずっと子どもが家にいますので、家で子どもの話はしづらいですし、かと言って子どもが小さかったり、精神的に不安定な場合は子どもを1人にして外出することもはばかれますので、本当に保護者は孤立してしまいます。
- ・親の視点を高く持てるような気軽に参加出来る交流の場、吐き出せる場所も必要、親自身が自分と向き合う事で改善されることもある。
- ・登校しないことを選んでいる生徒の保護者対象の会が校内で設けられていることを知り（案内を受け）、参加してみて、子の背景は様々でも不登校の親という同じ境遇の者同士が集まれる機会があり、教育側からや親同士の意見交換や情報共有があったことは気持ち的に楽になりました。

⑦経済支援について

- ・もっと力を入れて支援してほしい。ひとり親だと経済的にも厳しい。
- ・中学以外の教室（フリースクール）に通わせたいが、経済的な問題で悩んでいる。
- ・ずっと家にいると昼食を用意したり、光熱費もかかるので、さらにフリースクールなどに通わずのを経済的な負担が多い。
- ・経済的な支援があれば、もっと民間のフリースクールの選択肢もあるが、今の状況では利用が難しいと考えている。
- ・兵庫県は フリースクールへの補助を始めたが神戸市は独自の支援を始めたということで 兵庫県に準じていない。これは凄くおかしい。
- ・民間のフリースクールは費用がかかるので、通いたくても通えない子供がいると思う。金銭面の負担は大きいです。
- ・フリースクールと学校経費のダブルの負担はかなり大きく、フリースクールへの入学をためらうご家庭もあります。

⑦医療・福祉について

- ・起立性調節障害に対する配慮ももう少し広まれば・・・と思います。
- ・単なる不登校のサポートだけでなく、発達障がい児へのケアもセットで考えてほしいと思っています(教育+医療、福祉)。

⑧その他

- ・スクールカウンセラーは臨時ではなく常駐が望ましい。
- ・「通いづらいことの理由」が親では気付けないこともあるので、スクールカウンセラーの先生の人数を増やしてもらえるとありがたいなと思います。
- ・特に学校が嫌で休みが多い事でもないのに、一方的にこのようなアンケートはおかしいと思います。
- ・不登校の子どものサポートと仕事の両立がとても大変でした。仕事を辞めて子どものサポートをしっかりとあげたいと悩みましたが、家計のことを考えると辞めるわけにはいきませんでした。
- ・閉じこもっている期間は、正直周りが働きかけても心が動かない様子でしたが、本人に勉強する気が出てきた段階で、集団生活や学習を自分の学校以外の場所でできるよう、場所を整えていただけたらスムーズかと思いました。
- ・大体の媒体では、親は学校に行かなくていいよと認めたこと(本人の意思決定を認めた)で、本人は休息し、しばらくすると行けるようになった、など聞かすが、あくまで経験談である。我が子に該当するわけでもなく、聞いていて、いらだちも感じた。それを聞いて安心する人もいるかもしれないが。
- ・学校に行かなくても大丈夫だよという風潮がなくなれば良いのと思う。多様化を目指しているなら受け皿を作ってから多様化を謳ってほしい。
- ・不登校の子だけに優しく特別にするのではなく、不登校、行きしぶりの子たちがしやすい学校、クラス作りにすると、不登校予備軍もいやすくなり、みんなが幸せになります。どうか、今、学校に来れている子、来ている子にも声を聞いてほしいです。
- ・良かれと思って行ったことも、どのような結果になるかはわかりません。しかし選択肢が多ければ、ある選択がダメだったとしても他の選択肢を視野に入れられるので、いろいろな種類の支援があった方がいいと感じています。
- ・「寄り添う支援」がどれだけ不登校生徒、保護者が心強いかを理解して頂きたい。子どもや保護者が孤立しないような支援、対応をお願いしたいです。

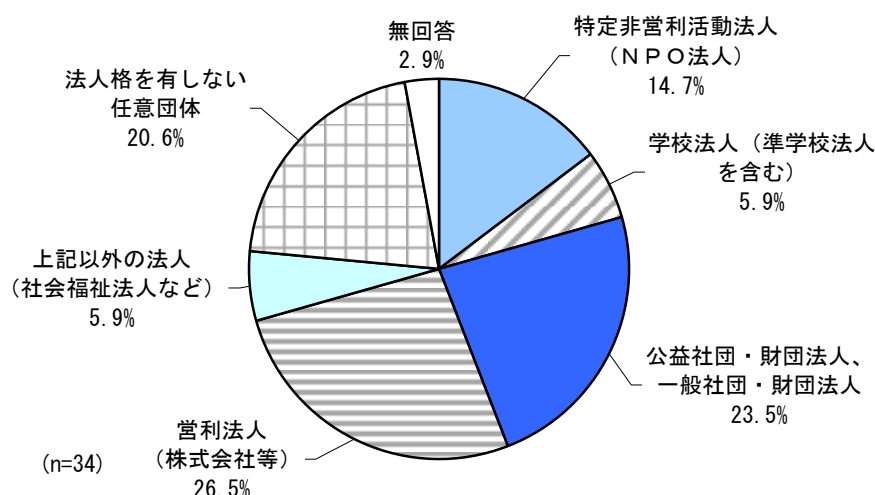
IV 調査結果〔フリースクール等民間施設〕

1. 団体・施設について

(1) 団体・施設の形態

問1 貴団体・施設の形態について教えてください。(○は1つだけ)

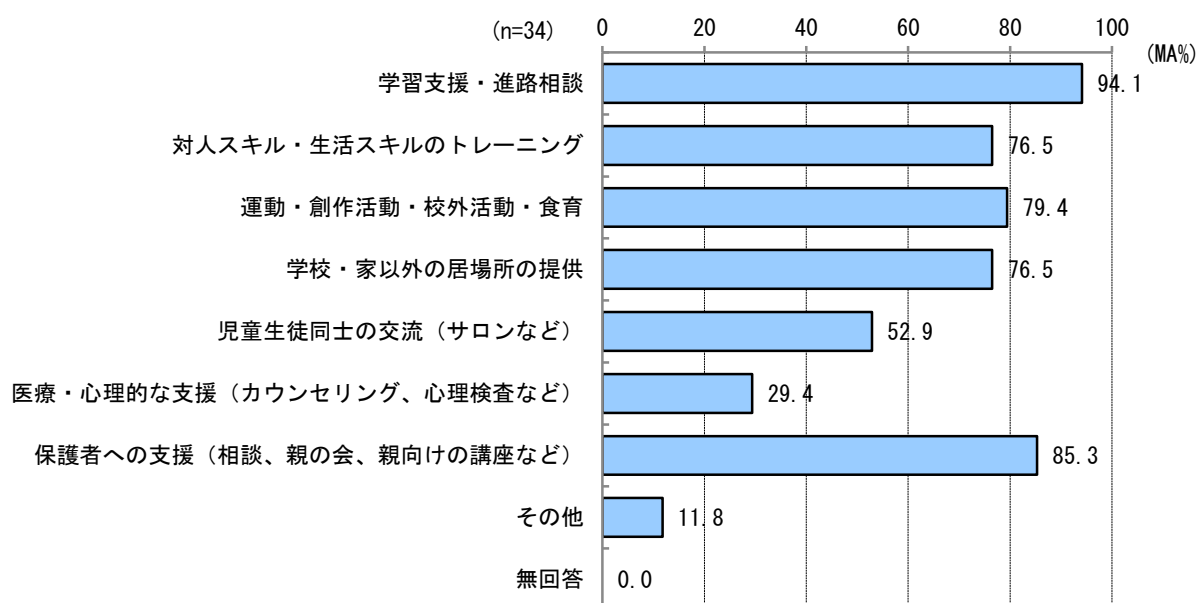
団体・施設の形態については、「営利法人（株式会社等）」が26.5%で最も多く、次いで「公益社団・財団法人、一般社団・財団法人」が23.5%、「法人格を有しない任意団体」が20.6%となっています。



(2) 提供しているサービス

問2 貴団体・施設において提供しているサービスについて教えてください。(○はいくつでも)

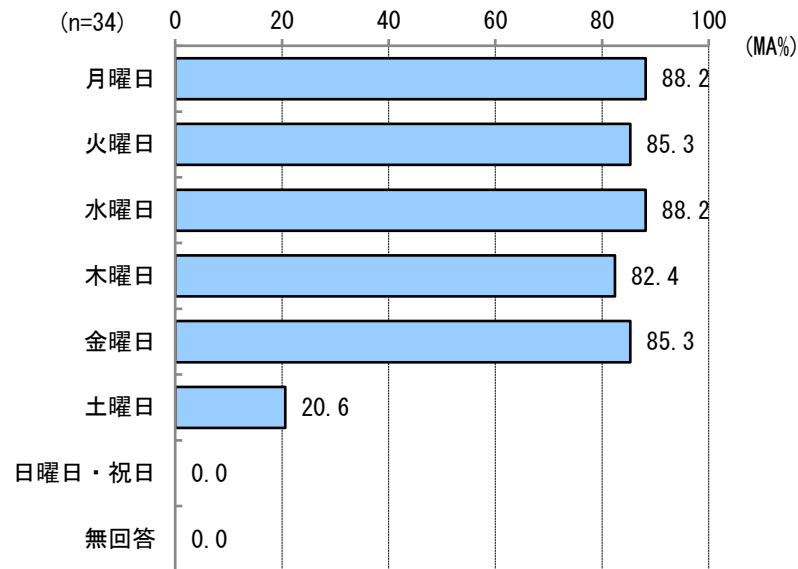
提供しているサービス内容については、「学習支援・進路相談」が94.1%で最も多く、次いで「保護者への支援（相談、親の会、親向けの講座など）」が85.3%、「運動・創作活動・校外活動・食育」が79.4%となっています。



(3) 開所曜日

問3 貴団体・施設の開所曜日を教えてください。(○はいくつでも)

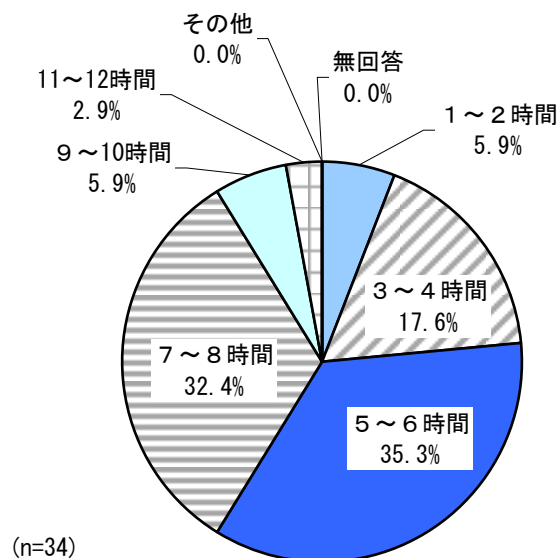
開所曜日は、「月曜日」と「水曜日」がそれぞれ88.2%で最も多く、次いで「火曜日」と「金曜日」がそれぞれ85.3%、「木曜日」が82.4%となっています。



(4) 平日の開所時間

問3-1は、問3で開所曜日が「1」～「5」(平日)のいずれかを答えた人にお聞きします。
問3-1 平日の開所時間は、どのくらいですか。(○は1つだけ)

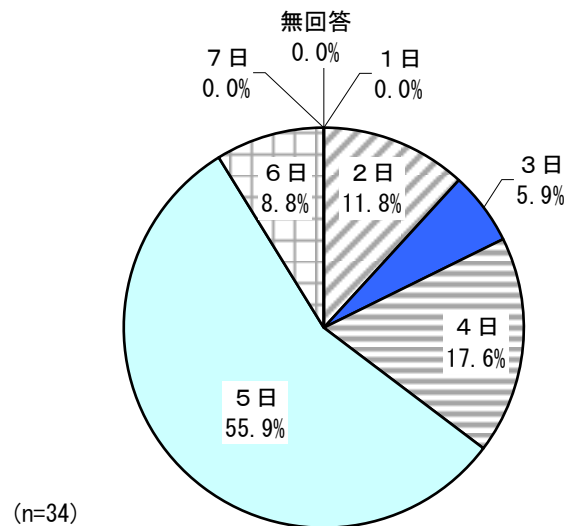
平日の開所時間は、「5～6時間」が35.3%で最も多く、次いで「7～8時間」が32.4%、「3～4時間」が17.6%となっています。



(5) 週当たりの開所日数

問4 貴団体・施設の週当たりの開所日数を教えてください。(○は1つだけ)

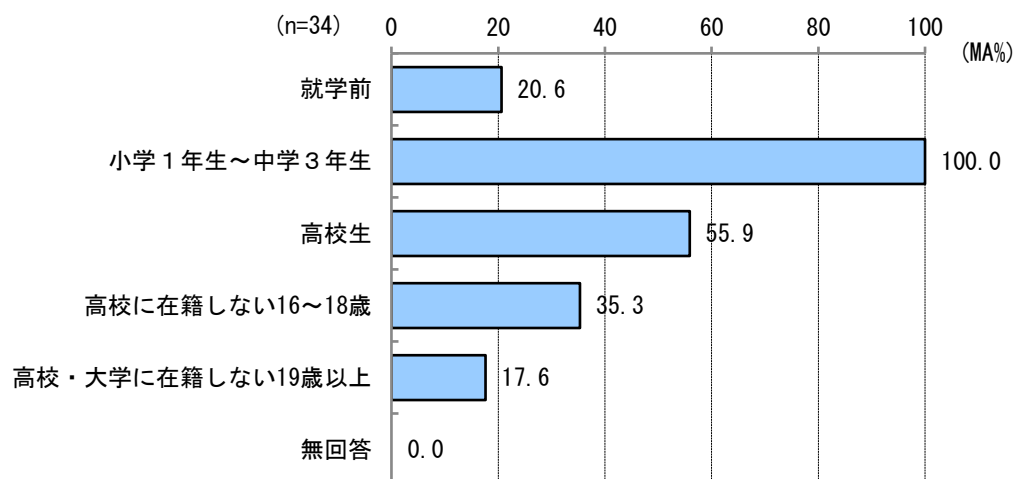
週当たりの開所日数は、「5日」が55.9%で最も多く、次いで「4日」が17.6%、「2日」が11.8%となっています。



(6) 受け入れている児童生徒等の学年・年齢

問5 受け入れている児童生徒等の学年・年齢を教えてください。(○はいくつでも)
※現在の在籍の有無に関わらず、受け入れが可能な学年・年齢をお答えください。

受け入れている児童生徒等の学年・年齢は、「小学1年生～中学3年生」が100.0%で最も多く、次いで「高校生」が55.9%、「高校に在籍しない16～18歳」が35.3%となっています。



(7) 令和6年度に在籍していた児童生徒数

問6 令和6年度に在籍していた児童生徒数を教えてください（数字を記入）
※いない場合は「0人」とお書きください。

令和6年度に在籍していた児童生徒数は、小学生では、「小学5年生」が115人(23.5%)で最も多く、次いで「小学4年生」が94人(19.2%)、「小学6年生」が89人(18.2%)となっています。うち、出席扱いの児童は、「小学4年生」が60人(22.2%)で最も多く、次いで「小学6年生」が58人(21.5%)、「小学5年生」が53人(19.6%)となっています。

中学生では、「中学3年生」が89人(36.5%)で最も多く、次いで「中学2年生」が85人(34.8%)、「中学1年生」が70人(28.7%)となっています。うち、出席扱いの生徒は、「中学3年生」が64人(38.6%)で最も多く、次いで「中学2年生」が61人(36.7%)、「中学1年生」が41人(24.7%)となっています。

(上段：実数(人)、下段：%)

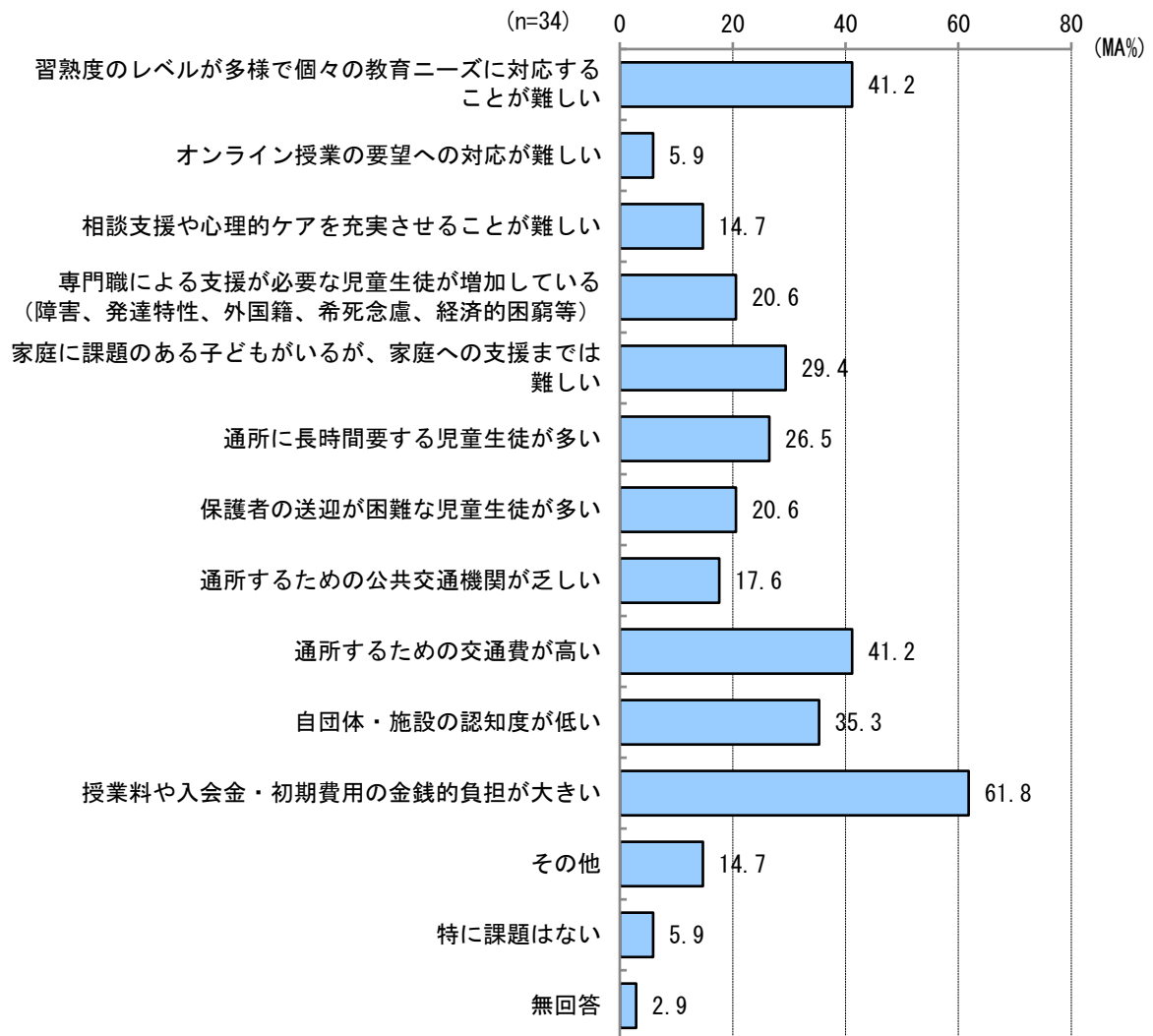
	合計	小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生
小学生	490	47	69	76	94	115	89
	100.0%	9.6%	14.1%	15.5%	19.2%	23.5%	18.2%
うち 出席扱い	270	20	37	42	60	53	58
	100.0%	7.4%	13.7%	15.6%	22.2%	19.6%	21.5%

	合計	中学1年生	中学2年生	中学3年生
中学生	244	70	85	89
	100.0%	28.7%	34.8%	36.5%
うち 出席扱い	166	41	61	64
	100.0%	24.7%	36.7%	38.6%

(8) 児童生徒がフリースクール等を利用することに対する課題

問7 児童生徒がフリースクール等を利用することについて、課題はありますか。
(〇はいくつでも)

児童生徒がフリースクール等を利用することに対する課題については、「授業料や入会金・初期費用の金銭的負担が大きい」が61.8%で最も多く、次いで「習熟度のレベルが多様で個々の教育ニーズに対応することが難しい」と「通所するための交通費が高い」がそれぞれ41.2%となっています。



(9) 団体・施設を利用した児童生徒の成果があった特徴的な事例（自由記述）

問8 貴団体・施設を利用した児童生徒について、成果があった特長的な事例を教えてください。

団体・施設を利用した児童生徒の成果があった特徴的な事例について自由に記述していただいたところ、23団体・施設から回答があり、結果は以下のとおりです。原則として原文のまま掲載していますが、明らかな誤り、個人情報、誤字・脱字は修正しています。

	事 例
1	不登校生が定期的に外（フリースクール）へ出られるようになった。
2	<p>①医療にお世話になっていて、入学した子が一年もかからず元気になり、ドクターにも驚かれています。</p> <p>②中2、中3まで好きなことに取り組み、いわゆる学校的な勉強を全くしてこなかった子たちが自分で進路を考え勉強しだす。大学受験もストレートで合格し、それぞれ希望の大学へ進学している。</p> <p>③中卒で林業、農業の道へ進んで生計をたてている。中卒、高卒をハンディにとらえず自分に合った仕事をしている。</p> <p>④知的、発達障がいと診断された子たちがソーシャルスキルをしっかりと学んでいる。中学、高校の年になると、とてもいい先輩として、小さい子や発達障がいのある子をサポートしている。（インクルーシブ教育が実現している）</p> <p>⑤こちらを巣立った後もOGOB同士、よき友としてつながっている。</p> <p>⑥ほとんどの子が通っている時もやめてからも「ここに通ってよかった」「人づきあい、話し合いのしかた、意見のいい方など、ここでのくらしが役に立っている」と評価している。</p> <p>⑦入学したときは問題行動があった子も全員がなっている。</p>
3	ほぼ全員が高校進学をしている（全日制）
4	中学入学後まもなく不登校になり、自宅でも自室にこもりきりになっていた男子生徒が、中1の2学期～中2の3学期まで当スクールに通学し学習することで回復し、中3の4月から公立中学校に復帰することができた。
5	通う、関わる経験から、中学校復帰、高校進学につながっている。また、継続していると保護者からもお声をいただいている。
6	小6時に通所開始し、LDのため学習は難しかったが、目標ができ、今年12月に留学する。今は英語を学んでいる。
7	自然の中で誰にも強制されることなく自由に過ごし、少人数で大人にたくさん話を聞いてもらうことにより心身共に健康になっていく姿が見られます。学校に戻っていく子も多く、休日に来てまたいろいろ話をしてくれています。当団体と学校と両方通う子も増えてきました。家庭に問題のある子も多く、保護者からの相談の場ともなっています。
8	<p>・主に中学生以上は企業様に1か月～1カ月半程インターンに行かせていただく機会があります。インターンを通して「社会で役立つ力とは何か」身をもって体感し、進路や今後どう生きるかを深く思考するようになります。</p> <p>・通常活動の中でも、人間力を育むことに力を入れています。学年・性別問わず他者と関わる人が多いので、コミュニケーション力に自信を持つ子どもたちが多いです。（その成果の1つとして、最初は人間関係が上手くいかず不登校となった児童・生徒がもう一度学校に行くこともあります）</p>
9	職員の継続的な関わりにより学習意欲が向上した。

	事 例
10	<ul style="list-style-type: none"> ・人と会い、リアルな人間関係づくりの練習ができ、人との接し方を日々学んでいる。 ・自分以外の人は全て、仕事や趣味を含めいろんな生き方を教えてくださる講師だという考え方で、毎日のように多分野に通じる方を講師に招き、本物体験学習をしている。それもあってか、初めての人と接することに慣れてきた。また、いろんな世界を知るきっかけになっている。 ・午後に1時間、ゲーム以外で自分で考えて過ごす時間を設けている。自分の好きなこととは何かを考えるきっかけになったり。他のメンバーから刺激を受けたりして、自己理解他者理解が深まっていると感じる。
11	復学した。
12	与えられる学びが存在しない環境において、子どもたち自身が自分に何が必要なのかを常に考えていくことになるため自ら行動を起こしていく子どもたちが多く存在している。
13	令和6年度は中学2年生で不登校であったが、継続的な学習支援、保護者への対応により、令和7年度に復学を実現した。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・小4くらいから不登校の中3生が、勉強を始めて、自信をつけ、通信制高校に進学した。 ・小3からずっと不登校だった中1生に中1の3学期に会い、一桁の足し算から始めて、中3の現在、中1数学まで、短期間でかけあがることができた。
15	発達特性があり、同級生や担任の先生とも上手く関わることができず、小学一年生で不登校となり、小学2年生からフリースクールを利用することとなった。特性を理解しながら、丁寧に向き合うことで少しずつ心が開き、信頼関係を築くことができました。また、異年齢と過ごす中、彼の特性を受け入れてくれる年上メンバーがいることで、居場所として安心して過ごせるようになり、決められたルーティンの中でしか過ごせなかったのが、安心できる居場所だからこそ、急な予定変更に対応ができたり、様々な体験を通してコミュニケーション能力も高まっています。また、保護者の方も、子どもと向き合う姿勢が変わり、明るく前向きに過ごすことができるようになりました。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールでの活動報告やどのような授業を受けたいかの要望などを大勢の前で発表をしたり、YouTubeで配信したりすることで、自信をつけたお子さんがいらっしゃった。 ・昼夜逆転で生活リズムを整えることが難しいお子さんが、フリースクールに通って見て『楽しい』と思ったことで、これまでよりも早く起きてフリースクールに登校することができた。 ・フリースクールで出会ったお友だちと仲良くなり、帰宅後オンライン上のゲームで遊んだり新たな繋がりを作ることができた。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校高学年から不登校の生徒 <p>はじめは母親と一緒に登校していたが、週2回授業の機会を設け、次第に一人で登校することが出来るようになった。そして1か月经った頃には授業がない日にも朝から登校して自習を行い、昼過ぎに下校するという自分のペースをつかむことが出来た。</p> <p>当初は通うだけで精一杯だったが、安定した通学と自己肯定感の向上から友人作りやイベントの参加も希望し、同世代との交流もすることが出来るようになった。</p>
18	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は入室渋りと母子分離不安があり、母親と一緒に玄関まで15～30分の滞在で帰宅していた児童が、支援員と1対1の環境に慣れていくうちに、母親と離れて1人で長時間過ごすことができ、様々な活動にも参加できるようになり、登校日数も増えていったこと。 ・保護者(母)とカウンセリングをしていく中で、母親がお子さんの精神的なしんどさや、反対に良い部分・できているところを振り返ることで、本児の障害特性を受け入れ、サポートが受けやすい高校や制度について、本児の意思を尊重しながら考え、本児が行きたいと感じた高校への進学をすすめられるようになったこと。 ・当フリースクールを中心に1年ほど活動したのちに、「別のところにも行ってみたい」と児童から申し出があり、別の居場所に活動範囲を広げたり、学校でもフリースクールのように本人が安心して過ごせるスペースを作ってもらったことで、登校復帰につながったこと。
19	卒業生はそれぞれに自分らしい道を見つけ、活躍しています。有名大へ進学する子もいれば、早くから自ら事業を立ち上げたり、アーティストとして活躍したり、牧場経営やイルカの飼育委員など、自らの夢を叶える子が多くいます。卒業生について一言で語れないところが、当スクールの成果の一つであるように感じています。

	事 例
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体験活動を通して自分の興味関心に気づき、将来の目標を持ち進学した事例（里山自然体験、木工制作など） ・ 地域交流活動を通して、創作、お菓子作り、販売などの経験を積みコミュニケーション力をつけたり、パティシエの専門学校などに進学した事例 ・ 料理体験を通し調理師免許取得したり、管理栄養士の道に進んだ事例 ・ 表現活動を通し、芸大に進学、俳優の道に進んだ事例 ・ 家族関係で悩みつつ、丸ごと受け止めてもらうことで、自己肯定感を取り戻し、心理の道や医学の道に進んだ二件の事例 ・ 出会った友人と切磋琢磨しながら受験勉強に励み公立高校へ入学、他多数。
21	<p>小学校から通っていた人が、中学生から一念発起。行きたい高校（特色のある学校）を探し出し、現在も継続中です（そんな子が何人もいますけれど…）。</p> <p>中学生から通い、高校生になりながらフリースクールにも所属していた人の中には、さらに進学をして頑張っている人、卒業後に就職して現在も働いている人もいます。</p> <p>何を持って“成果”とみるかわかりませんが、ご家庭での親と子の関係性がよくなっていることは多くあります。</p>
22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の特性を見抜き、それを特化する対応をした。暗記方のレクチャー形式の勉強は嫌いだが朗読や物語をみんなに聞かせるなどが上手くなって、結果として学ぶことへの苦手意識がなくなって自己卑下がなくなり積極的になった。 ・ 家の中でゲームや動画漬けになっていた子に、あの手この手で公園遊びやウォーキングに連れ出すことに工夫し、結果的に陽を浴びたり、体を動かすことに抵抗感がなくなった。 ・ 学校と出席扱いで連携をとることで、先生との交流が増え、うちが媒体となって学校と保護者の双方に前向きな情報交換をすることで、保護者と学校の関係が円滑になった。結果、登校できる日ができたり、卒業式や野外活動、修学旅行にも行くことができた。 ・ 子どもの学校嫌い＝勉強がイヤ、先生や大人不信となっていたが、それが薄れて社会への関心が持てるようになった。 ・ 保護者に毎日の活動を LINE の動画や写真で送っており、密な会話をし子どもの体験に関心を持てるようにし体験を共有している。その効果として、親と子の会話が増え、子どもの成長に親が敏感になった。結果、双方で協力しあえて子供にとっての最善を選択できている。
23	<p>前年度完全不登校だった生徒が、週３程度登校できるようになった。</p>

(10) 卒業した児童生徒の進路

問9 令和4～6年度に卒業した児童生徒の進路等の状況を教えてください。(数字を記入)

卒業した児童生徒の進路については、令和4年度は、中学校3年生の進路では、「②高校へ進学し、通信制で登校を継続」が51.6%で最も多く、次いで「①高校へ進学し、通信制以外で登校を継続」が28.6%となっています。

小学校6年生の進路では、「①中学校へ進学し、登校を継続」と「②中学校へ進学し、フリースクールの利用を継続」がそれぞれ43.7%で最も多くなっています。

令和5年度は、中学校3年生の進路では、「②高校へ進学し、通信制で登校を継続」が64.1%で最も多く、次いで「①高校へ進学し、通信制以外で登校を継続」が22.3%となっています。

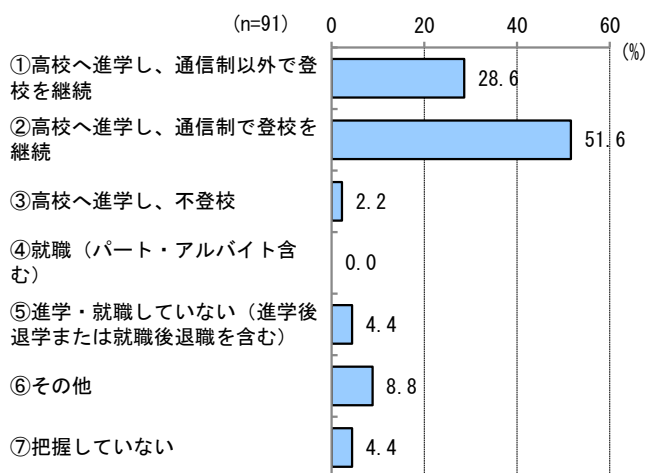
小学校6年生の進路では、「①中学校へ進学し、登校を継続」が58.5%で最も多く、次いで「②中学校へ進学し、フリースクールの利用を継続」が39.6%となっています。

令和6年度は、中学校3年生の進路では、「②高校へ進学し、通信制で登校を継続」が48.9%で最も多く、次いで「①高校へ進学し、通信制以外で登校を継続」が38.9%となっています。

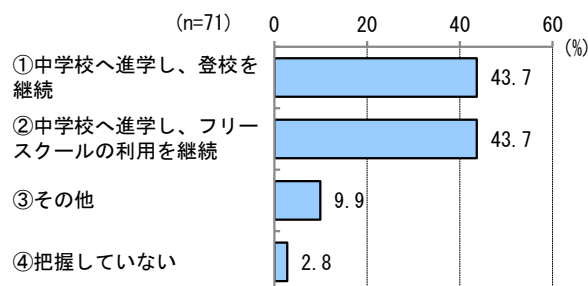
小学校6年生の進路では、「①中学校へ進学し、登校を継続」が49.4%で最も多く、次いで「②中学校へ進学し、フリースクールの利用を継続」が45.9%となっています。

【令和4年度】

〔中学校3年生の進路〕

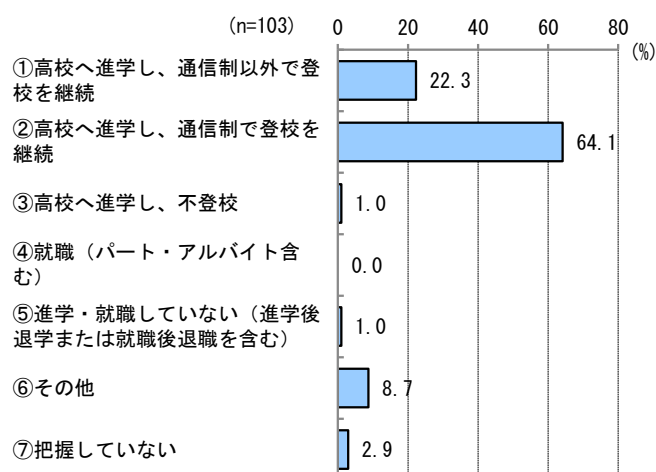


〔小学校6年生の進路〕

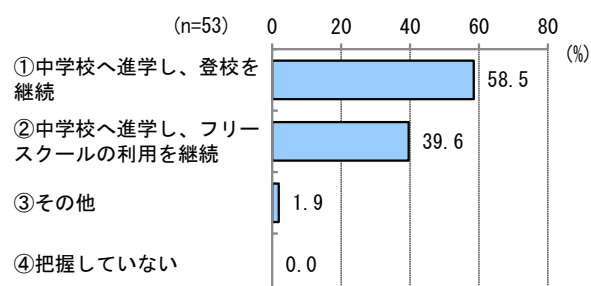


【令和5年度】

〔中学校3年生の進路〕

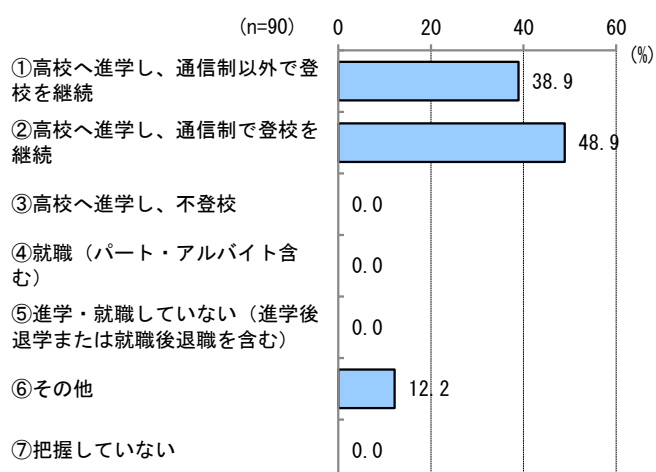


〔小学校6年生の進路〕

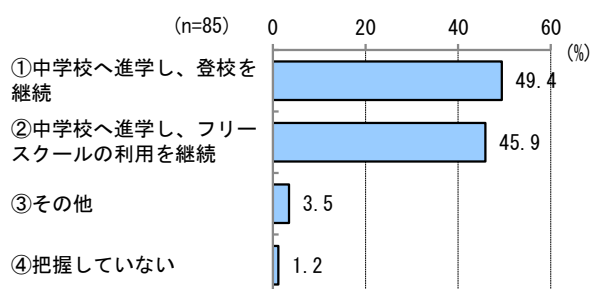


【令和6年度】

〔中学校3年生の進路〕



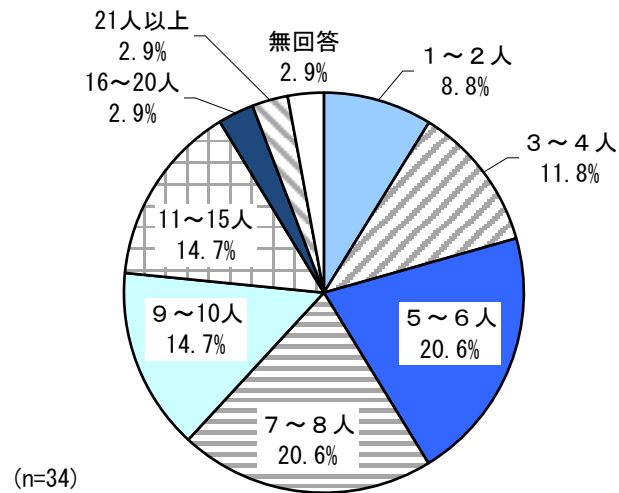
〔小学校6年生の進路〕



(11) 団体・施設のスタッフ数

問10 団体・施設のスタッフ数（総数）を教えてください。（○は1つだけ）

団体・施設のスタッフ数については、「5～6人」と「7～8人」がそれぞれ20.6%で最も多く、次いで「9～10人」と「11～15人」がそれぞれ14.7%となっています。



(12) スタッフの専門資格の保有状況

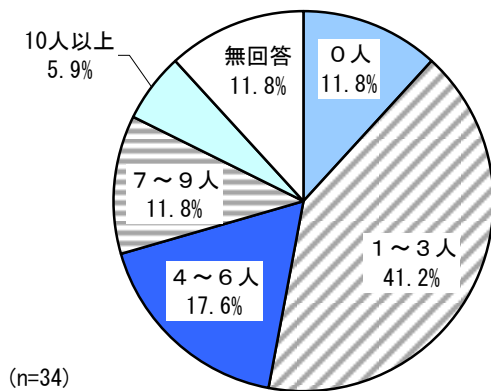
問11 貴団体・施設におられるスタッフについて、専門資格の保有状況を教えてください。
(数字を記入)

スタッフの専門資格の保有状況については、①教員免許保有者の人数は、「1～3人」が41.2%で最も多く、次いで「4～6人」が17.6%、「0人」と「7～9人」がそれぞれ11.8%となっています。

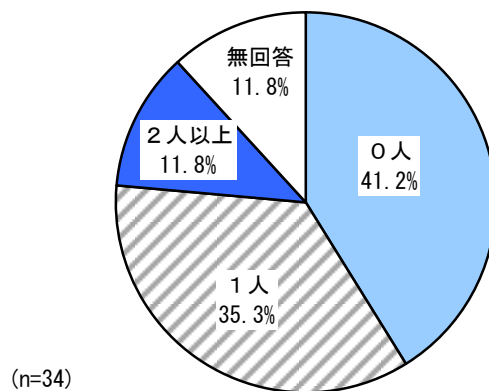
②心理に関する専門的な資格保有者は、「0人」が41.2%で最も多く、次いで「1人」が35.3%、「2人以上」が11.8%となっています。

③福祉に関する専門的な資格保有者は、「0人」が52.9%で最も多く、次いで「2人以上」が20.6%、「1人」が14.7%となっています。

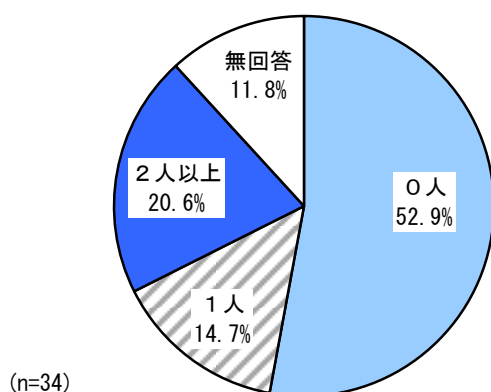
〔①教員免許保有者〕



〔②心理に関する専門的な資格保有者〕



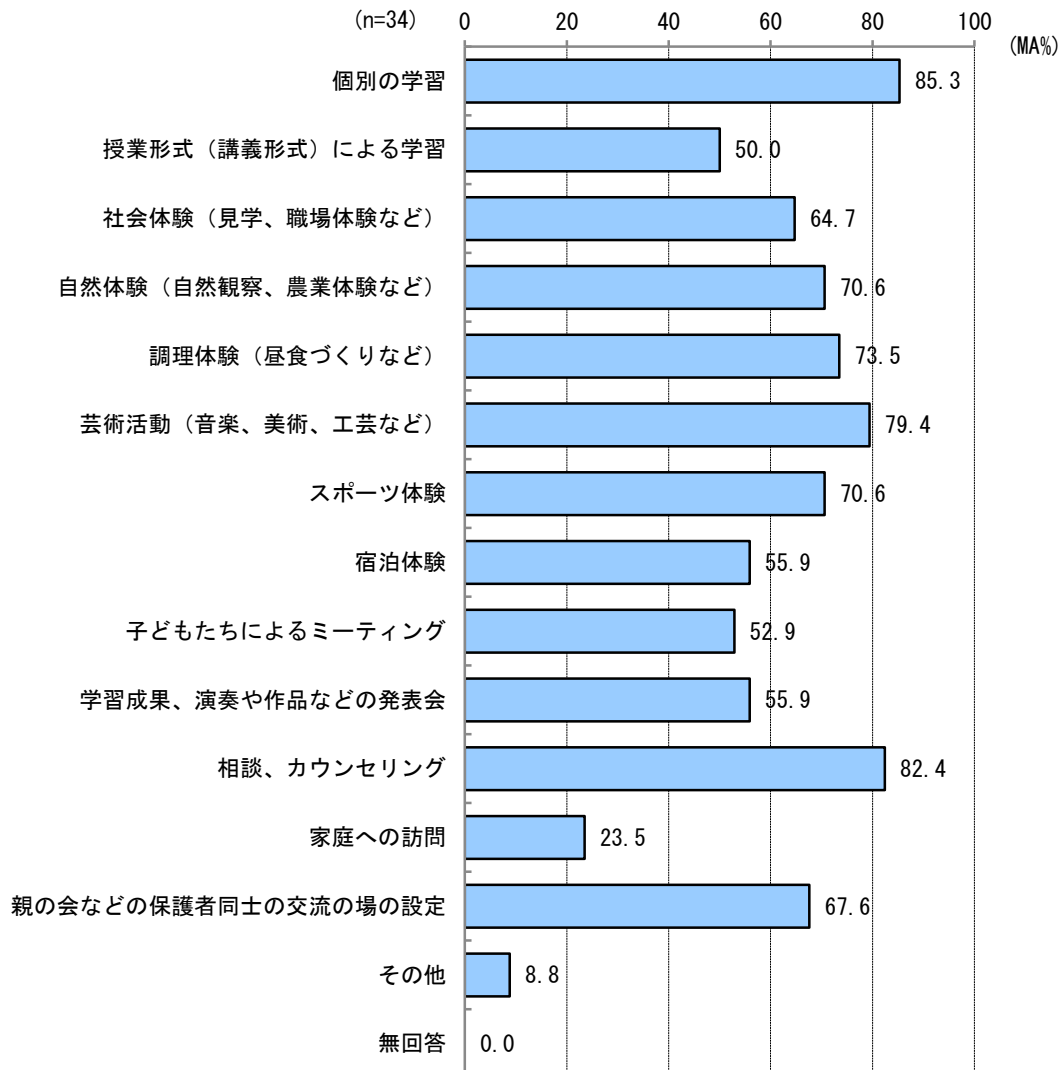
〔③福祉に関する専門的な資格保有者〕



(13) 団体・施設の活動内容

問12 貴団体・施設の活動内容を教えてください。(〇はいくつでも)

団体・施設の活動内容については、「個別の学習」が85.3%で最も多く、次いで「相談、カウンセリング」が82.4%、「芸術活動（音楽、美術、工芸など）」が79.4%、「調理体験（昼食づくりなど）」が73.5%となっています。

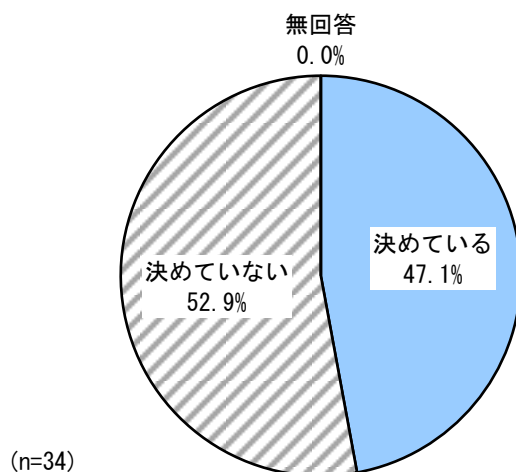


2. 学習カリキュラム等について

(1) 団体・施設の学習カリキュラム

問13 貴団体・施設では、学習カリキュラムを決めていますか。(○は1つだけ)

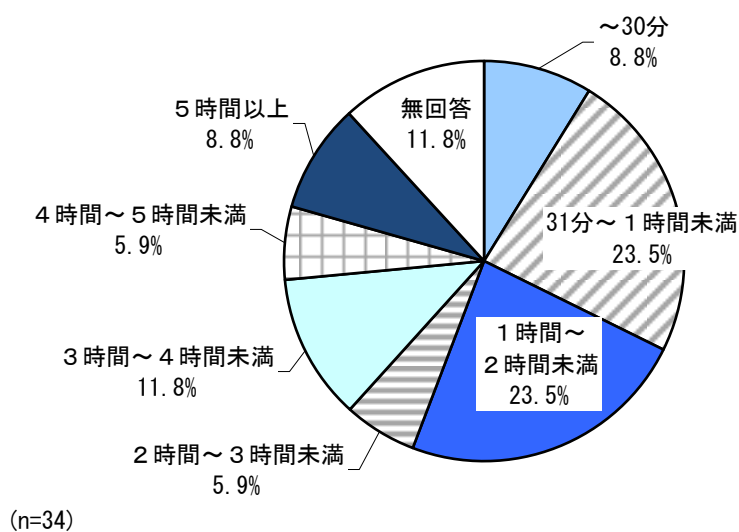
団体・施設の学習カリキュラムについては、「決めている」が47.1%、「決めていない」が52.9%となっています。



(2) 1日の学習時間

問14 1日の学習の時間はどのくらいですか。(○は1つだけ)

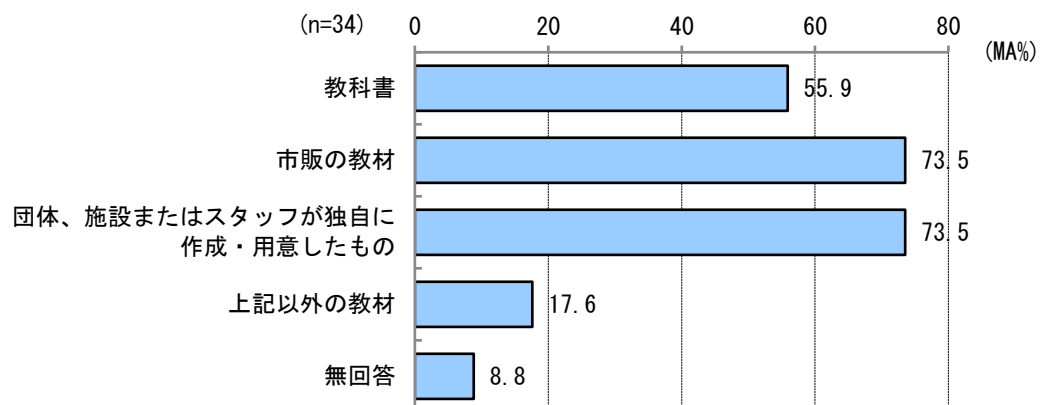
1日の学習時間については、「31分～1時間未満」と「1時間～2時間未満」がそれぞれ23.5%で最も多く、次いで「3時間～4時間未満」が11.8%、「～30分」と「5時間以上」がそれぞれ8.8%となっています。



(3) 使用している学習教材

問15 使用している学習教材を教えてください。(〇はいくつでも)

使用している学習教材については、「市販の教材」と「団体、施設またはスタッフが独自に作成・用意したもの」がそれぞれ73.5%で最も多く、次いで「教科書」が55.9%となっています。



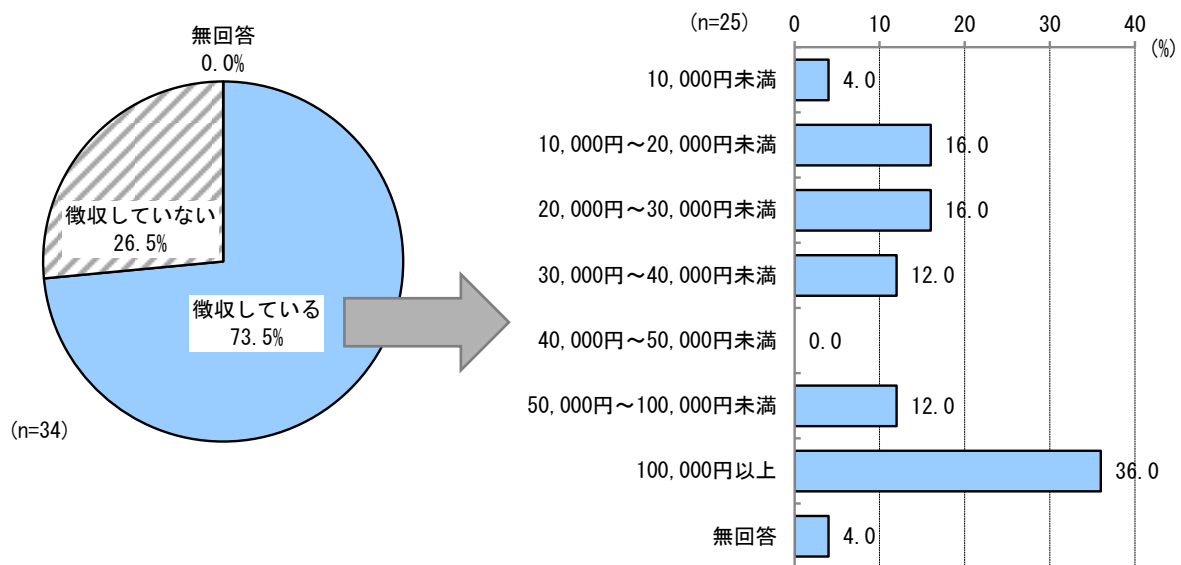
(4) 費用

問16 費用について教えてください。

(1) 入会金

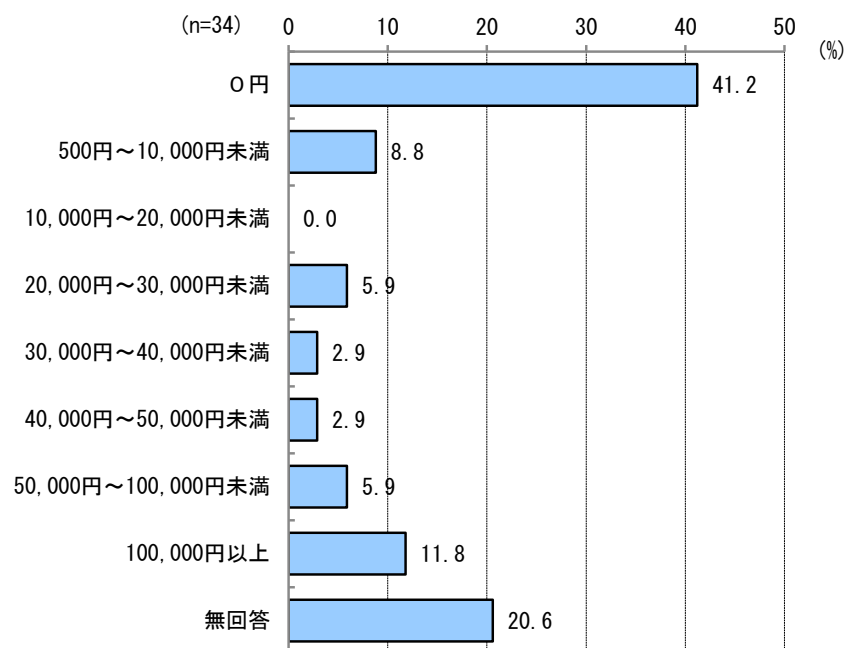
入会金の徴収については、「徴収している」が73.5%、「徴収していない」が26.5%となっています。

「徴収している」と回答した団体・施設にその額をたずねると、入会金は、「100,000円以上」が36.0%で最も多く、次いで「10,000円～20,000円未満」と「20,000円～30,000円未満」がそれぞれ16.0%となっています。



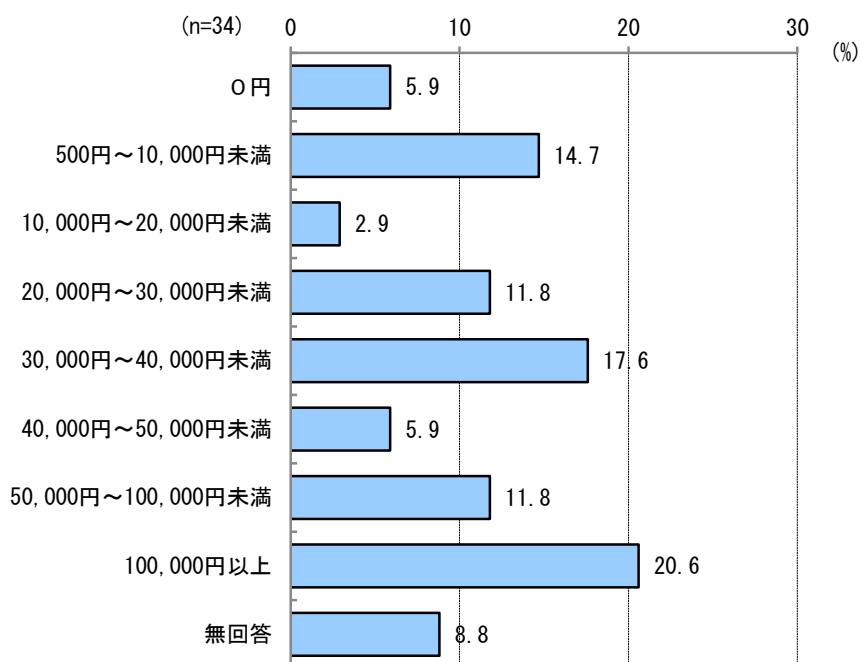
(2) 初期費用

初期費用は、「0円」が41.2%で最も多く、次いで「100,000円以上」が11.8%、「500円～10,000円未満」が8.8%となっています。



(3) 会費（授業料）

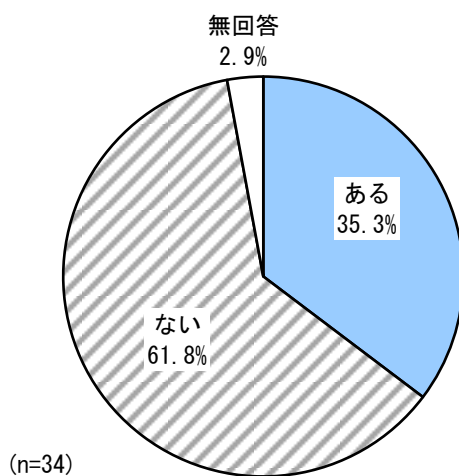
会費（授業料）は、「100,000円以上」が20.6%で最も多く、次いで「30,000円～40,000円未満」が17.6%、「500円～10,000円未満」が14.7%となっています。



(5) 入会金・初期費用、会費以外の納付金

問17 入会金・初期費用、会費（授業料）以外の納付金がありますか。（○は1つだけ）

入会金・初期費用、会費（授業料）以外の納付金の有無は、「ある」が35.3%、「ない」が61.8%となっています。



3. 学校や家庭との連携について

(1) 学校との連携・協力関係を保つために行っていること（自由記述）

問18 学校との連携・協力関係を保つために、貴団体・施設において行っていることはありますか。

学校との連携・協力関係を保つために行っていることについて自由に記述していただいたところ、28団体・施設から回答があり、結果は以下のとおりです。原則として原文のまま掲載していますが、明らかな誤り、個人情報に関すること、誤字・脱字は修正しています。

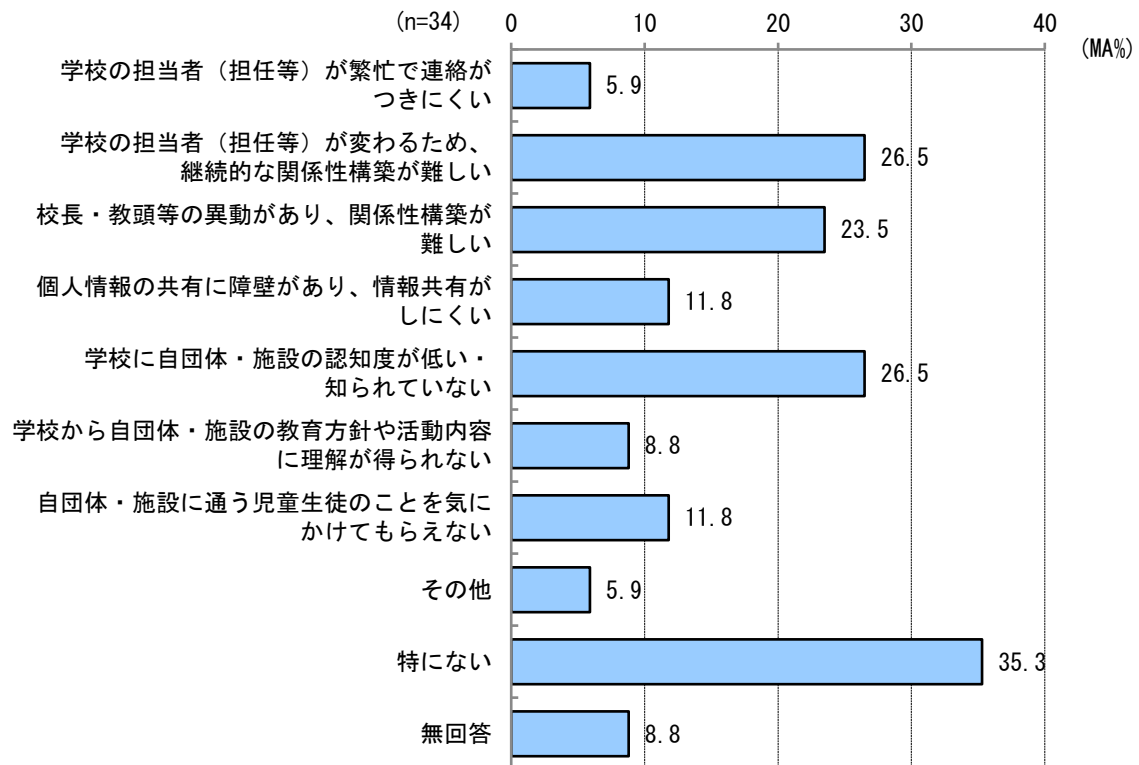
学校との連携・協力関係を保つために行っていること	
1	情報提供
2	①毎月出欠とコメントをメールしている。②半年に一度活動報告レターを郵送している。③年に一度、見学に招待している。④公開イベントがある時は、メールでお誘いする。
3	学校と生徒の情報共有をしたいが、学校担当者が特にそのことを望まれていないようで、そのための訪問にハードルがある。
4	町内の公立小学校、中学校に籍のある生徒は学期に一度の訪問日を設けて学校を訪れ、担任の先生と話す機会を持っている。他の自治体の公立学校には、毎月メールで出席状況の報告を行っている。
5	中学校訪問、電話連絡、共有
6	出席日の報告
7	毎月出席状況、子どもの様子をメールしています。スクールカウンセラーから毎月メールをいただいている学校もあります。担任の先生が見学に来られることもあります。
8	・月1回の出欠状況を学校宛にメール・FAX。・活動の見学希望があれば見学可。・研修等で類学舎の授業（探求講座）にご参加いただく。
9	月に1度、当施設の利用回数や内容をFAXにて送付
10	学校の先生が当施設を訪問してくださっている。
11	・毎月の報告は、利用した日の活動内容が分かるようにしている。 ・学校にも共有したいなと思ったことはその日のうちに電話連絡をしている。こちらでの成長や嬉しい場面についても連絡している。変化を一緒に喜びあえるような関係づくりを目指している。
12	月に1度、生徒の教室での様子や出席日数などを連絡（電話・郵送・FAX）している。
13	学校からの本校への訪問のご対応。出欠状況の連絡。登校時の様子などの回答。
14	在籍生徒の個別学習支援の状況を月次報告（保護者経由） 必要に応じ、地域の中学校より視察、相談を受け入れ
15	ファイル共有。月1回電話連絡。
16	出席日数を伝える際に、現状の報告を添えています。 学校の先生が、お越しくくださった際には、情報共有を積極的にしています。
17	毎年、学校へ訪問し、校長先生や担任の先生と顔合わせをし情報共有を行っている。また、毎日の活動記録を月末に送付して、情報共有を行っている。 その他、緊急性がある場合はその都度、連絡することもあります。 また、担任の先生が生徒や保護者と上手く関わらない場合、間に入り、繋ぐ役目もさせていただいている。
18	・年に1回、校長と教育委員会の視察 （通うこどもの市町村が、バラバラのため、視察対応にかなりの時間が割かれて負担） ・毎月1回、各学校へ、出席状況をメールしている
19	・学期ごとの出席日数・学習内容が記された書類の送付 ・見学の受け入れ

	学校との連携・協力関係を保つために行っていること
20	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールへの出席状況やフリースクールで行った活動（学習内容や課外活動での様子など）を月ごとに学校に報告し、出席日数に計上していただくことにつながっている。 ・出席日数はの計上をご希望されるお子さんがいらっしゃった場合は早期に所属の学校に連絡し、フリースクールを見学していただけるよう留意している。 ・保護者の希望があり、放課後等デイサービスもご利用されていて、保護者をご希望されているご家庭については、保育所等訪問支援も併せて実施し、担任の先生と詳しく情報共有を行い連携をはかっている。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・月に1回、在籍生徒の登校状況について FAX で連絡 ・定期的に中学校に訪問し、進路希望状況含めて近況報告を行う
22	<ul style="list-style-type: none"> ・フリースクールへの出席状況やフリースクールで行った活動（学習内容や課外活動での様子など）を月ごとに学校に報告し、出席日数に計上していただくことにつながっている。 ・出席日数への計上をご希望されるお子さんがいらっしゃった場合は、早期に所属の学校に連絡し、フリースクールを見学していただいたり活動内容をご報告したりして、なるべく早く出席日数として認定していただけるよう留意している。 ・保護者の希望があり、放課後等デイサービスもご利用されていて、保護者をご希望されているご家庭については、保育所等訪問支援も併せて実施し、担任の先生と詳しく情報共有を行い連携をはかっている。
23	出席状況と心理的精神成長状況を臨床心理学的観点から考察し報告しています。
24	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の出席状況の報告 ・学期ごとに取り組んだ学習や体験活動、本人の成長などを報告 ・学校からの来訪時に、子ども理解・居場所理解につながるエピソードなどをできるだけお話し伝える ・不登校・教育についての意見交換を行う
25	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の出席報告の際に、子どもの様子も伝えるようにしています。 ・学校の先生の来訪希望があれば、日時を合わせてお応えできるようにしています。 ・学校の先生とのやりとりは、保護者の方とも共有するようにしています。
26	出席報告。必要あればアセスメントの共有。
27	出席扱いの場合は、毎月担当の先生とメールで出欠および、レポートを行なっている。その際に、本人の気になる点、学校への思い、保護者の考えや学校への思いなどを、間に入って第三者として前向きにお伝えしている。（学校や先生によって対応は大きく異なるが、良心的な先生は子どもに関心を持ってくださり、フリースクールに足を運んで面談をされたり、フリースクールを使って学校のイベント参加の有無などを聞いてほしいと依頼され、子どもが緊張せずに本音で思いを語れるようにと配慮されたりしてくださった。結果は保護者、児童も学校への信頼を取り戻し、頻繁には通えないものの、学校に対する不満や不安がなくなって良い環境の中で卒業できた）
28	担任の先生、管理職との面談

(2) 学校との連携上の課題

問19 学校との連携上の課題について教えてください。(〇はいくつでも)

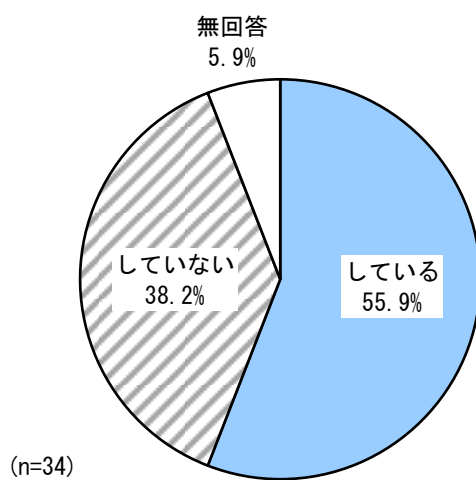
学校との連携上の課題については、「特にない」が35.3%で最も多いですが、課題がある施設・団体では「学校の担当者（担任等）が変わるため、継続的な関係性構築が難しい」と「学校に自団体・施設の認知度が低い・知られていない」がそれぞれ26.5%で最も多く、次いで「校長・教頭等の異動があり、関係性構築が難しい」が23.5%となっています。



(3) 学校以外の関係機関との連携状況

問20 学校以外の関係機関で連携しているところがありますか。(○は1つだけ)
ある場合は、連携先の機関をおしえてください。

学校以外の関係機関との連携については、「している」が55.9%、「していない」が38.2%となっています。



(4) 家庭との連携・協力関係を保つために行っていること（自由記述）

問21 家庭との連携・協力関係を保つために、貴団体・施設において行っていることはありますか。

学校との連携・協力関係を保つために行っていることについて自由に記述していただいたところ、27団体・施設から回答があり、結果は以下のとおりです。原則として原文のまま掲載していますが、明らかな誤り、個人情報、誤字・脱字は修正しています。

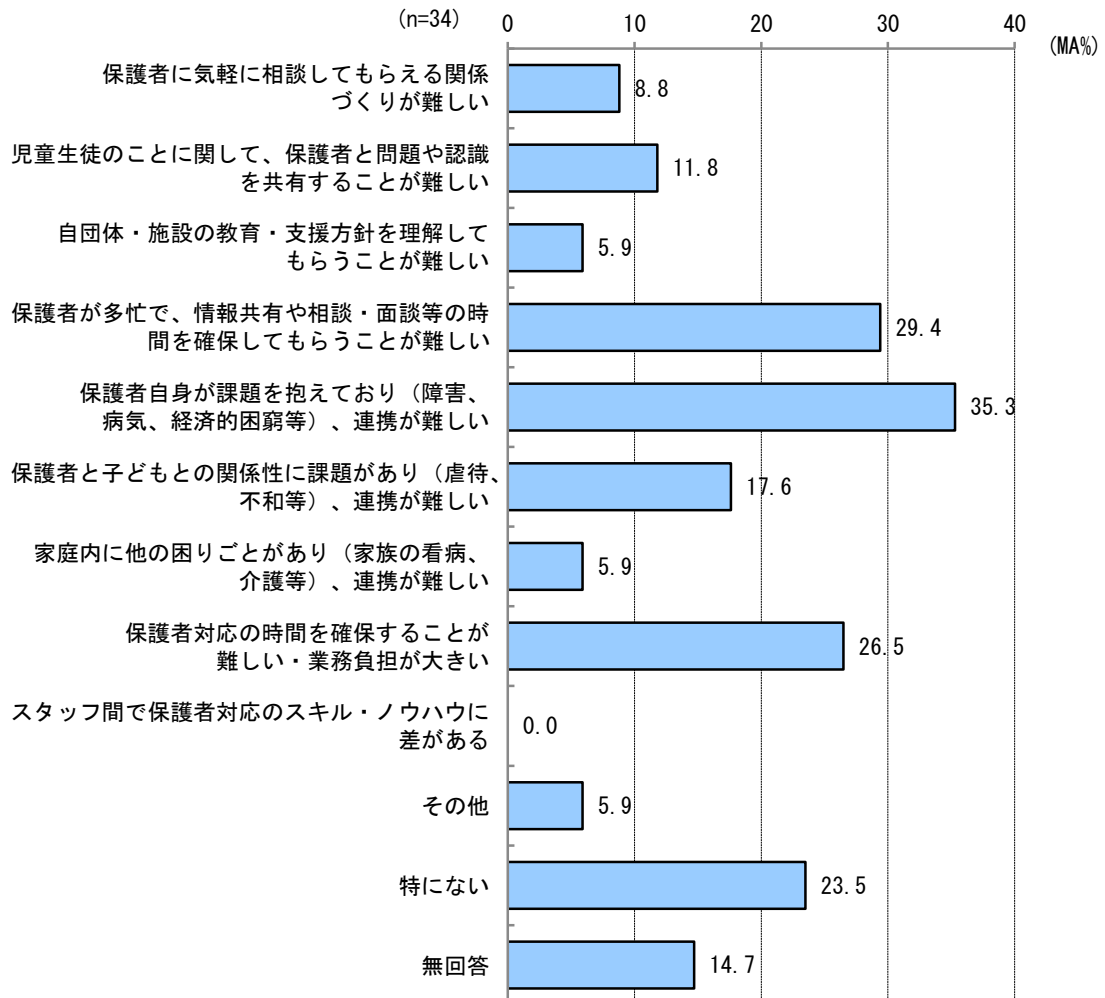
	家庭との連携・協力関係を保つために行っていること
1	情報提供
2	①年に2回総会を開き、全保護者に参加をお願いしている。②月1回親の会を開催。③得意なことを無理のない範囲でボランティア、お手伝いしてもらっている。（随時、半年に一度）④新入学の場合、入学半年、一年で個人面談を開催。⑤毎月、複数回メールでいろんなお知らせを送っている。
3	保護者の要望や家庭の状況をメッセージアプリで日々連絡を取り合っている。
4	学期に一度保護者会を開いている。学期に一度個人懇談も行っている。
5	保護者懇談、電話連絡、情報共有、保護者交流会案内
6	個別支援計画の策定
7	送迎で会える保護者とは毎回話ができて通学、家庭での様子を聞いています。気になることがあればいつでも相談を受け付け、当団体からも連絡をしています。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動やご家庭でのお困りごとなど、LINEで気軽に相談、やりとりが可能となっています。 ・学期ごとに保護者様との面談を実施。 ・子どもたちによる運営のイベント（運動会・文化祭・ゴミ拾い企画等）に参加いただき、活動を創り手として共に見守り、活動していただく機会を多数用意しています。
9	密なコミュニケーション
10	半年に一度の個別支援計画策定時の面談に加え、必要なことがあれば個別に面談や相談の時間を持つ。
11	利用したお子さんのご家庭には、その日の活動内容や居場所の子どもたちの雰囲気などを細かく伝えている。できるだけ夕方早い時間に送り、夕食など家族が集まる時間の話のネタのひとつにしてもらえたらと思っている。
12	親のカウンセリング
13	定期的な保護者面談
14	個別相談
15	お迎え等のタイミングでの情報共有、情報提供、必要に応じた家庭訪問を行なっています。
16	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の相談に加え、毎年、二者又は三者面談を行っている。 ・親の会を毎月開催して、子供達の様子を共有したり、団体の考えをお話ししたりと丁寧に関わりを持っている。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回程度で三者面談を実施し、普段の生活や学習状況、進路希望等について話を行う ・月1回程度、電話やメールにて本人の様子について保護者へ共有する
18	個別懇談、保護者を交えたイベントなど。
19	<ul style="list-style-type: none"> ・心身が不安定になりやすいお子さんに対して、心と体の状態を数値化して毎回お尋ねし、一定基準よりも疲れた様子の時は保護者に連絡を行っている。 ・保護者の希望やお子さんのご様子等に応じて、定期的、もしくは希望があればその都度、面談やカウンセリングを実施している。 ・お子さんの成長を感じたことやお友達に優しくしてくれたこと、学習や活動がんばってらっしゃったことなど、よかったことを積極的に保護者に伝えている。また、保護者の方がお子さんにしてくださった対応についても同様に、よかったことや今後も継続していただきたいことに支援員が気づいたり言葉で伝え返したりできるよう心がけている。

	家庭との連携・協力関係を保つために行っていること
20	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の連絡 ・ Storypark を使った日常の様子共有 ・ 学期ごとの個別面談 ・ スクール行事への保護者の参加 ・ 保護者のボランティア参加 ・ 希望時の参観・面談の受け入れ
21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者との日常的な連絡 ・ 学期ごとの個別面談 ・ スクール行事への保護者の参加 ・ お話会の実施 など
22	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月親の会をしています。参加できない方には個別面談を最低学期ごとにしています。 ・ 送迎される保護者にはその都度様子を報告共有します。毎月の状況報告をしています
23	<ul style="list-style-type: none"> ・ メール（電話）による連絡：コミュニケーションをとること ・ 学期終了後の保護者面談 ・ 進路説明会（子どもの活動と一緒に参加していただく） ・ ブログによる情報発信 ・ ご寄付いただいた物品を活動のほかご家庭にも配布する
24	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適宜連絡を取れるよう、連絡先の交換をしています。 ・ グループ LINE をつくって、活動の様子を共有できるようにしています。 ・ 保護者の茶話会を定期的に行っています。 ・ 保護者同士のつながりも応援しています。
25	日々連絡を取り合う。学期に一度の保護者会の実施。学期に一度の保護者面談の実施。
26	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者へ LINE などでのやり取り。 ・ イベント開催時の保護者の参加。 ・ 子どもの情報共有を登塾した日に行い、親の質問や感想を交換する。 ・ 合宿やツアーなどの保護者参加。 ・ 親の会での意見交換。 ・ 親の慰労会。
27	密な面談や連絡

(5) 家庭との連携・協力関係を保つ上での課題

問22 家庭との連携・協力関係を保つ上での課題はありますか。(〇はいくつでも)

家庭との連携・協力関係を保つ上での課題については、「保護者自身が課題を抱えており（障害、病気、経済的困窮等）、連携が難しい」が35.3%で最も多く、次いで「保護者が多忙で、情報共有や相談・面談等の時間を確保してもらうことが難しい」が29.4%、「保護者対応の時間を確保することが難しい・業務負担が大きい」が26.5%となっています。



(6) 学校に通いづらい児童生徒への支援の取組についての意見（自由記述）

問23 学校に通いづらい児童生徒への支援の取組について、ご自由にご意見ください。

学校に通いづらい児童生徒への支援の取組について自由に記述していただいたところ、17団体・施設から回答があり、結果は以下のとおりです。原則として原文のまま掲載していますが、明らかな誤り、個人情報、誤字・脱字は修正しています。

自由意見	
1	情報提供
2	保護者と一緒に入室いただいても良いです。
3	子どもが弱ってしまう前に、学校以外にも多様な場があること、時には家庭でゆっくり過ごすことが大切なことが、どの保護者も当たり前知っている社会になるような取り組みがいる。また、高校受験のやり方が大学受験のように多様になることも必要。当日の試験の成績で判断するが1/3、総合選抜（学力ではない）1/3、従来のやり方が1/3などにすれば、中学校に通わないことのデメリットが緩和される。保護者、先生とも子どもを追いつめないことを理解する啓蒙も必要。民間と先生の人材交流など。医療関係者、福祉関係者の人ももっと民間施設に視察に行ってほしい。百聞は一見にしかず。
4	学校に通いづらい生徒の状況は個々にすべて異なり、その生徒に応じたサポートが必要です。様々な形のサポートがあってよいと思う。そのための出席認定も柔軟であって欲しい。また学校との情報共有のハードルを下げて欲しい。
5	学校に通えないことを深刻に考えず、気軽にフリースクールなどを利用してほしいと思います。家から出て人と関わり好きなことをして過ごしていくうち興味あることが見つかり社会生活が送れるようになると信じております。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カリキュラムの個別レベルに応じた提供 ・無料体験会の開催
7	<ul style="list-style-type: none"> ・普通級の教室に居づらいため、学校に居場所を作る目的で支援級に在籍することにした生徒に、教科書を選ぶ権利がない（あまりにも易しすぎる教科書のため、一般の教科書を買直し事態になった）ことが、人権にも関わる深刻な問題だと感じている。 ・学校により、不登校生に対する配慮に大きな格差があり、一般の教室の「すぐ隣」に通いづらい生徒のための部屋があるケースなど、複数の生徒から通いづら過ぎるとの声聞いている。 ・長期の不登校の生徒の教材の在処が不明瞭なケースが多い。フリースクールで管理できたらと思っている。 ・フリースクールと子ども食堂の学習支援の両方を同じスタッフで担当することで、保護者の経済的な負担を大きくせずに、子どもの学習機会を増やすことが、当方ではできているが、現状では、教育の機会を、保護者が自腹で多額の費用をかけて、個別指導塾などに通わせることでなんとか確保している場合が多い。個別指導に通わせる経済的余裕がある家庭の子どもしか、教育を受けられないのでは、義務教育の恩恵を受けられず、教育格差が広がるばかりだと思う。 ・公は、フリースクールに通う費用の負担よりも、学校が変わるべき。 ・習熟度別クラスが一つの鍵ではないか。 ・「一斉に全員で同じ動きをさせられる」ことに対する拒否反応をもつ生徒が多い。 ・不登校の理由について、どのような声があるのか、不登校生の要望などを、このアンケートが知ろうとしていないことが残念すぎる。
8	不登校になるお子様の背景は様々です。一人一人に寄り添うことが求められていますが、それは、さまざまな機関が連携することで解決できる事案もたくさんあると思います。しかし、フリースクールのようなご家庭に経済的な負担を強いられる選択は、できる家庭とできない家庭があり、平等でないことが不登校の子供達の選択を狭めているように感じます。全ての子供たちに自由に選択できる環境整備が求められていると思います。
9	今年度から、各家庭にフリースクールへ通うための給付金が1万円出るようになった市町村が多くありますが、家庭への負担だけでなく施設への支援をしてもらいたいです。

	自由意見
	<p>数年前から、出席認定にかかる、事務がかなり増えていて負担に思っています。</p> <p>年に1回、校長と教育委員会の視察がありますが、通うこどもの市町村が、バラバラのため、視察対応にかなりの時間が割かれています。例えば、20人いたら、単純計算で20回視察対応をしないといけないことになります。そのための人権費は、もちろん民間で負担しており、出席認定だけでなく、いま学んでいるこどもの状況を報告してほしいと仰る市町村もあります。</p> <p>全部、無料でするのは難しいです。</p> <p>学校へ通いづらい生徒の、居場所を続けるためにも、民間施設への支援をご検討ください。</p> <p>なんとか続けていきたいと思っていますが、どこの施設もギリギリの状態が続けていくのが難しいです。</p>
10	多様な学校教育が認められて、学校に通いづらい児童生徒が少なくなることを願っています。
11	学校に通いづらくなった場合、民間含めその児童生徒の居場所となりえる環境を情報としてお伝えする必要があると考えます。そのためその窓口となりえる方々が適切な情報を保持する必要があると考えております。
12	<p>フリースクールや学校を卒業した後の進路も見据え、将来自立して生活をするためのスキルを身につけたり、生きる楽しみや目的をたくさん見つけてもらったりすることを重視している。そのため、クッキングや買い物の体験、手芸、PC操作、プレゼンテーションの作成や発表を通して日常生活に役立つ練習を行ったり、余暇活動としてレジャー施設に出かけたり、社会貢献活動としてごみ拾いを行ったりと、多様な課外活動を実施している。</p>
13	<p>昨年度から利用者が大変少なく、経営危機に直面しています。</p> <p>毎日利用できる子どもが少ないため、支援が十分にできない。利用回数ごとの利用料負担になっているので、経済的負担が大きいと感じる場合もあるのではないかと危惧している。</p> <p>特に中学生の利用が少ないので、心配しています。高校進学は通信制を利用すれば、実質全員進学可能です。通信制高校の実情は多様です。高卒資格は学力面も登校日数も基準が緩く、簡単に取得できます。その結果、高校卒業してから家にいる青年が多く、その問題に直面する家庭が多い。中学校時に弊所を日常的に利用した子どもは、高校が通信であってもアルバイトをすることもほぼ100%で、大学などその後の進路も自分で切り拓いていて、その報告を聞きます。中学時代の過ごし方が今どうなっているのかとても心配です。</p>
14	<ul style="list-style-type: none"> ・多重層的に支援をする必要があると考えている。 ・不登校の理由は様々、その背景に家族の問題や社会問題や、学校への不安など多岐にわたるので、校内サポートルームや学びの多様な学校だけでは、対応人数にも限りがあるので、家庭への補助金制度を構築していただき、フリースクールに通える環境も整備していただきたい。
15	<p>何といっても、保護者も運営者も、経済的負担がとても大きいです。</p> <p>難しいことだろうと思いますが、兵庫県と市町が動き出しているのです、神戸市も通所の補助を速やかに進めていただきたいと思います。</p> <p>一方で、不登校という表面的な現象だけにとらわれるのではなく、学校の教育現場をどのようにすればよいか、私たち外部にも頼りつつ、内部での工夫をうまく進めていく“冒険”を、国際都市神戸にはぜひしていただきたいです。</p> <p>学校の中だけで、不登校への取り組みをすることはもう難しいのだと知っていただきたいです。</p>
16	学費の補助があるとよい。
17	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に行けない子どもの居場所がないので、まずは安心できる安全基地の提供を第一にしている。そのため、元保護者で長年一緒に勉強してきたお母さんなどにお願ひし、深い理解を持って週2回無償の手作りランチ（無添加、国産などの材料を使用）をお願いしたり、共に子どもと遊んでもらったりと、子どもが安心しておれる空気作り、環境づくりに最善を尽くしている。（子どもの健やかな成長を1番に考えて関わる） ・月に最低一回はイベントをしている。お正月、節分、お雛様など、日本を象徴するイベントは全部イベントとして、非日常の空間を作り、動きにくい子どもが動ける環境づくりをしている。

小中学生用

アンケート調査

※ ※ ※ 回答にあたってのお願い ※ ※ ※

1 名前を書く必要はありません。テストではありませんので、思ったとおりに答えてください。

2 アンケートは、全部で7ページあります（10分くらいで終わります）。

3 回答の仕方は、質問の終わりに「〇は1つだけ」や「〇はいくつでも」と書いてありますので、それにしてください。

4 この調査はパソコンやスマートフォンからも回答できます。
右のコードを読み取るか、下のURLからアクセスして回答してください。
URL : <https://src.wixcas.net/form/pub/src/2/281000>
あなたのID ※個人を特定するものではありません。

5 この用紙で回答する場合は、記入後、「こども用封筒」と書いてある、みどり色の封筒に入れて、テープで閉じて、おうちの人にわたしてください。

6 あなたが書いた内容は、おうちの人や先生に見せる必要はありません。あなたがどのように答えたかはだれにもわかりません。

WEBで回答する場合は…

スマホやタブレットから、上のコードを読み込んでください

あなたが思ったまま、質問に回答してください

最後に「記録」を押してください

（アンケートは、5～10分程度でおわります）

学校に「行きたくない」と思ったことについて

問1 現在何年生ですか。（〇は1つだけ）

1 小学4年生	2 小学5年生	3 小学6年生
4 中学1年生（7年生）	5 中学2年生（8年生）	6 中学3年生（9年生）

問2 前の学年のときは、どのくらい学校を休みましたか。（〇は1つだけ）

1 30～60日くらい	2 60～90日くらい	3 90～180日くらい
4 180日より多い	5 わからない	

問3 今の学年になってから、どのくらい学校に行っていましたか。（〇は1つだけ）

1 毎日学校へ行っている	2 ほとんど毎日学校へ行っている
3 どちらかといえば学校に行く日が多い	4 どちらかといえば学校を休む日の方が多い
5 ほとんど学校を休んでいる	6 毎日学校を休んでいる

問4 学校を休み始めるまでに、学校内でクラス以外に行ったことのある場所はどこですか。（〇はいくつでも）

1 校内サポートルーム	2 保健室
3 カウンセリングルーム	4 職員室
5 その他の部屋（具体的に：_____）	
6 どこにも行っていない	

問5 学校を休み始めるまでに、どんなことができれば（あれば）よかったですか。（〇はいくつでも）

1 学校の先生と話すこと	2 スクールカウンセラーと話すこと
3 学校の友だちと話すこと	4 家族と話すこと
5 学校の外で会って相談できること	6 LINEや電話で相談できること
7 運動会や、発表会などの行事に行きやすくなること	
8 クラブや、部活動に入りやすく、行きやすくなること	
9 勉強や、分からないことを教えてもらえること	
10 自分の家族のことを助けてくれること	
11 その他（具体的に：_____）	
12 あてはまるものはない	

84

問6 学校に行きたくない、休みたい気持ちを感じた人はどれですか。(Oはいくつでも)

1 お父さん	2 お母さん	3 おじいちゃん・おばあちゃん
4 きょうだい	5 いとこや親戚	6 クラスの友だち
7 学校の友だち	8 クラス・学校以外の友だち	9 クラスの担任
10 学年の先生	11 保健室の先生	12 教頭先生や校長先生
13 スクールカウンセラー	14 スクールソーシャルワーカー	15 部活の先生や他の先生
16 習い事の先生	17 病院の先生	18 習い事やインターネット相談
19 電話相談	20 その他(具体的に:)	
21 いずれもない	22 答えたくない	

学校を休んでいるときの過ごし方について

問7 学校を休んでいるとき、どんな風に過ごしていましたか。1～4のうち一番近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。(Oは1つずつ)

	よくしていた	ふつうにしていた	あまりしていません	していません
学校の友だちと連絡する	1	2	3	4
X (Twitter) やSNSを見る	1	2	3	4
YouTubeやTikTokなどで動画を見る	1	2	3	4
ゲームをする	1	2	3	4
外に出かける	1	2	3	4
家事(料理、洗濯など)をする	1	2	3	4
病院に行く	1	2	3	4
ゆっくりしている	1	2	3	4
家で勉強する	1	2	3	4
塾に行く	1	2	3	4
くすのき教室に行く	1	2	3	4
フリースクールなどに行く	1	2	3	4

問8 学校を休んでいるとき、どんな方法で勉強をしていましたか。(Oはいくつでも)

1 学校の教科書やプリントを使っていた
2 書店などで買ったドリルや本を使っていた
3 塾や習い事に行っていた
4 家庭教師に家に来てもらっていた
5 塾や習い事の動画を見ている
6 YouTubeなどの無料の動画を見ている
7 オンラインの家庭教師の人に教えてもらっていた
8 その他(具体的に:)
9 勉強はしていない

問9 学校を休んでいるとき、学習用パソコンを使っていましたか。(Oは1つだけ)

1 使っていた
2 家ではインターネットにつながらないから使っていないかった
3 学習用パソコンを持ち帰っていないから使っていないかった
4 インターネットにもつながらず、学習用パソコンもあったが使っていない
5 その他(具体的に:)

問10 学校を休んでいるとき、オンラインでできたらいいな(よかったな)と思うことはありますか。(Oはいくつでも)

1 通っていたクラスの授業にオンラインで参加する
2 知らない先生の授業の動画を見る(自分のペースでやめられる)
3 通っている学校の先生とチャットをする
4 病院の先生や他の大人にオンラインで話を聞いてもらう
5 オンライン上の学習場所を利用する
6 その他(具体的に:)



問11 学校を休んでいるときの気持ちについて、1～4のうち一番近いものを、それぞれ1つずつ選んでください。(Oは1つずつ)

	その通り	たいていその通り	あまりその通り	その逆
はっとする、楽な気持ち	1	2	3	4
自由な時間でうれしい	1	2	3	4
早く学校にもどりたい	1	2	3	4
勉強が心配、気になる	1	2	3	4
将来が心配、気になる	1	2	3	4

問12 学校を休んでいるときに、次のようなことがあったり、行ったりしましたか。
(Oはいくつでも)

1 学校の先生が家に来た	2 学校の先生から電話があった
3 保健室や、学校の相談室に行った	4 校内サポータールームに行った
5 くすのき教室に行った	6 フリースクールへ行った
7 習い事へ行った	8 オンラインの習い事をした
9 病院へ行った	10 いずれもない



問13 学校を休んでいるときにあった・行ったことについてどう思いますか。それぞれ1つずつ選んでください。(Oは1つずつ)

	あってよかった (してよかった)	なくてよい (しなくてよかった)
学校の先生が家に来た	1	2
学校の先生から電話があった	1	2
保健室や、学校の相談室に行った	1	2
校内サポータールームに行った	1	2
くすのき教室へ行った	1	2
フリースクールへ行った	1	2
習い事へ行った	1	2
オンラインの習い事をした	1	2
病院へ行った	1	2

問14 学校を休んでいるときに、話をした人はいいますか。(Oはいくつでも)

1 学校の先生	2 保健室の先生
3 校内サポータールームの先生	4 スクールカウンセラー
5 スクールソーシャルワーカー	6 習い事の先生
7 お父さん	8 お母さん
9 おじいちゃん・おばあちゃん	10 きょうだい
11 いとこや親せき	12 クラスの友だち
13 学校の友だち	14 クラス・学校の友だちではない友だち
15 病院の先生	16 その他(具体的に：)
17 いずれもない	



問15 学校を休んでいるときに、誰と話して（話せたら）よかったですか。それぞれ1つずつ選んでください。（○は1つずつ）

	話せたらよい	話せなくてよい
学校の先生	1	2
保健室の先生	1	2
校内サポーターチームの先生	1	2
スクールカウンセラー	1	2
スクールソーシャルワーカー	1	2
面白い事の先生	1	2
お父さん	1	2
お母さん	1	2
おじいちゃん・おばあちゃん	1	2
きょうだい	1	2
いとこや祖せき	1	2
クラスの友だち	1	2
学校の友だち	1	2
クラス・学校の友だちではない友だち	1	2
病院の先生	1	2
その他（具体的に：）	1	2



問16 学校を休んでいるときに、どんな場所だったら行きたいと思いますか。（○はいくつでも）

1 何処に行ってもいい（運動、早退をしてもいい）場所がある
2 ほかくり休めるスペース・場所があるところ
3 一人きりになれるスペース・場所があるところ
4 自分の好きな教科・内容の勉強ができるところ
5 自分の好きなペースで勉強ができるところ
6 友だちといっぱい遊べるところ
7 先生といっぱい話せるところ
8 しばらく学校を休んだことがある友だちがいるところ
9 チームで勉強するか一人で勉強するかも選べるところ
10 ゲームをしたり、自然とふれ合えたりできるところ
11 その他（具体的に：）
12 行きたいと思う場所はない

問17 問16で回答したような場所に、どんな人かいると思いますか。（○はいくつでも）

1 勉強を教えてくれる人	2 一緒に遊ぶ人
3 相談や話を聞いてくれる人	4 ほっと安心できる人
5 その他（具体的に：）	
6 いずれもない	

問18 学校に「行きたくない」と感じたときにも、安心して過ごせるようになるためには、まわりの人からどのようなお手伝いがあればもっと過ごしやすいかと思いませんか。あったらいいなあと思うこと、これはイヤだなあと思うことについて、自由にお書きください。

《あったらいいなあ》

《これはイヤだなあ》



調査はこれで終わりです。
みどり色の封筒に入れて、テープで閉じて、おうちの人にわたしてください。

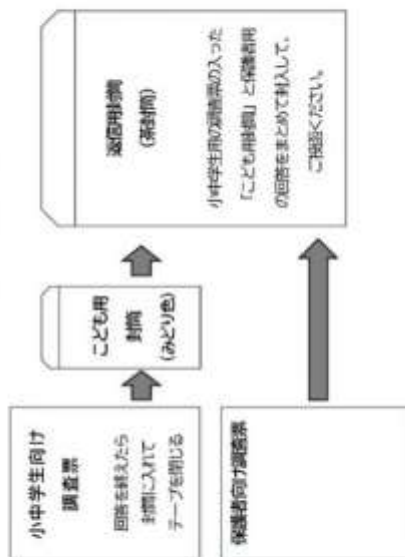
アンケート調査

※ ※ ※ 回答にあたってのお願い ※ ※ ※

- 1 答えにくい質問にはお答えいただく必要はありません。お答えいただける範囲でご協力をお願いします。
 - 2 説明には、あてはまる選択肢の番号に○をつけるものと、数字などをご記入いただくものがあります。説明文に沿ってお答えください。
 - 3 この説明はパソコンやスマートフォンからも回答できます。
右のコードを読み取るか、下のURLからアクセスして回答してください。
URL : <https://src.webcas.net/form/pub/src27281000h>
- あなたのID ※個人を特定するものではありません。
- 4 この用紙で回答する場合は、記入後、返信用封筒に入れてテープで閉じて、送付をお願いします。

回答は、7月31日(木)までお願いします

※小学4年生から中学3年生の保護者のみなさまへ（郵送票で回答する場合…）



はじめに

問1 このアンケートに回答される方の様情をお教えください。(○は1つだけ)

1 母 2 父 3 祖父母 4 その他 (具体的に:)

問2 令和6年度にお子さまが学校を休んだ日数についてお教えください。(○は1つだけ)

1 30～60 日くらい 2 60～90 日くらい 3 90～180 日くらい
4 180 日より多い (ほとんど休んだ) 5 わからない

問3 お子さまが、一番最初に学校を休むようになった (休みがちになった) ことと関係があると
思うことはありますか。(○はい/つても)

1 友だちとの関係
2 先生との関係
3 勉強が分からない (授業がおもしろくなかった、成績がよくなかった、テストの点がよくなかったなど)
4 部活動の問題 (部活動が合わなかった、同じ部活動の友だちとうまくいかなかった、試合や大会等に出席できなかった、部活動に行きたくないなど)
5 学校のきまりなどの問題
6 入学、進級、転校して学校や学級に合わなかった
7 進路 (進学など) について悩んでいた
8 1～7以外の理由で学校生活と合わなかった
9 家族との関係
10 家庭の教育方針
11 お子さま自身が兄弟姉妹などの家族の世話や家事に忙しかった
12 身体の不調 (学校に行こうとするとおなかや痛くなったなど)
13 お子さまへの周りの理解や支援がなかった
14 生活リズムの乱れ (朝起きられなかったなど)
15 インターネット、ゲーム、動画視聴、SNS (LINE や X (旧 Twitter) など) などの影響
16 兄弟姉妹や親しい友だちの中に、学校を休んでいる人がいて、影響を受けた
17 なぜ学校に行かなくてはならないかが理解できないと思っていた
18 その他 (具体的に:)
19 よくわからない
20 特にきっかけはないと思う
21 答えたくない

問4 学校を休んでいるときのお子さまの様子について、それぞれお答えください。
(○は1つずつ)

よくあった	とてもよくあった	あまりなかった	まったくなかった	わからない	
ほんとにしている様子だった	1	2	3	4	5
安心して勉強していた	1	2	3	4	5
やりたいことに熱中していた	1	2	3	4	5
落ち込んだり悩んだりしていた	1	2	3	4	5
原因がはっきりしない憂鬱、頭痛、発熱などがあった	1	2	3	4	5
家族への強い反抗や暴力があった	1	2	3	4	5
インターネットやゲームを一日中していた	1	2	3	4	5
生活リズムが整っていないかった	1	2	3	4	5
無気力な様子だった	1	2	3	4	5
部屋に閉じこもりがちで、家族との関わりが少なかった	1	2	3	4	5
外出が少なく他人との関わりが少なかった	1	2	3	4	5
ネットやSNSを通じて知り合った人と交流していた	1	2	3	4	5

問5 今、お子さまのことで心配していることはありませんか。(○はいいくつでも)

- 1 勉強・努力
- 2 道徳・将来
- 3 同世代との交流が少ない
- 4 生活リズムの乱れ
- 5 ゲームやインターネットへの依存
- 6 自分の仕事と子どもの世話を両立
- 7 家族や親戚への対応
- 8 その他（具体的に：）
- 9 無い

相談・支援機関の利用等について

問6 学校を休んでいるときにあったこと・行ったことはありますか。また、その評価について、それぞれお答えください。(〇は1つずつ)

	あった・行った		なかった・行わなかった	
	よかった	よく なかった	よく よかった	なくて 残念だった
学校の先生による家庭訪問	1	2	3	4
学校の先生からの電話などの連絡	1	2	3	4
同級生や友だちからの声かけ	1	2	3	4
学校の先生・保健室の先生との相談	1	2	3	4
学校以外の教育機関・相談機関の紹介	1	2	3	4
学校によるオンラインを活用した学習支援	1	2	3	4
校内サポートルームへの登校	1	2	3	4
スクールカウンセラーへの相談	1	2	3	4
スクールソーシャルワーカーへの相談	1	2	3	4

問7 下記の支援機関を知っていますか。また、学校を休んでいる間に利用した支援機関はありますか。利用した場合はその評価についてお答えください。(〇は1ずつ)

	利用してよかった	利用しなかったが、	利用していたが、	知らなかった
くすのき教室への通学	1	2	3	4
こども家庭センターや子育て支援室、福祉センターなど公的な相談機関等への相談	1	2	3	4
民間施設（フリースクール等）への通学	1	2	3	4
学校によるオンラインを活用した学習支援	1	2	3	4
民間施設によるオンラインを活用した学習支援	1	2	3	4
SNSの活用相談	1	2	3	4

みなさんにお聞きします。

問 16 今後、利用したい支援機関はありますか。(〇はいくつでも)

1	くすのき教室への通所
2	こども家庭センターや子育て支援室、福祉事務所など公的な相談機関等への相談
3	民間施設（フリースクール等）への通所
4	学校によるオンラインを活用した学習支援
5	民間施設（フリースクール等）によるオンラインを活用した学習支援
6	SNSの悩み相談
7	いずれもない

問 16 で、「3」または「5」と答えた人にお聞きします。

問 16-1 具体的な施設名、費用を教えてください。

施設名	
入会費	(.....) 円
毎月の利用料	(.....) 円

問 18 今後、神戸市に力を入れてほしい支援は何ですか。(〇はいくつでも)

1	校内サポートルームの充実（開室時間の延長等）
2	現在通っている学校以外の学びの場の充実（くすのき教室、学びの多様な学校）
3	オンラインでの学びの場の充実
4	民間施設（フリースクール）に通う家庭への経済的支援
5	その他（具体的に：.....）
6	特にない

問 19 学校に通いづらい児童生徒への支援について、ご意見をお聞かせください。

--

■ 調査は以上です。ご協力いただき、ありがとうございました ■
ご記入いただきましたアンケートは、お子さまの回答票（封筒）と一緒に、
同封の返信用封筒（切手不要）に封入いただき、

7月31日（木）までに投函いただきますようお願いいたします。

必要な相談、支援等について

問 17 インターネットを利用する支援で、お子さまに参加させたいと思うものはありますか。
(〇はいくつでも)

1	学校のお子さまのクラスの授業へのオンライン参加
2	オンラインによる超科学習指導
3	教科以外で教養を高めるオンラインによる講義
4	お子さまが好きなときに科目を選んで見られる動画授業の配信
5	オンラインによるホームルーム
6	メタバース（インターネット上の仮想空間）を活用した児童生徒同士の交流
7	オンラインによる教員との相談
8	オンラインによる学校内の専門職（スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等）との相談
9	オンラインによる学校外の専門職（心理士、精神保健福祉士、社会福祉士等）との相談
10	その他（具体的に：.....）
11	参加してみたいと思わない

神戸市 不登校児童生徒支援のためのアンケート調査報告書
令和8年1月

発行 神戸市教育委員会事務局児童生徒課
